

V 教員の研究・調査活動

【凡例】

●基礎情報

- ①氏名（family name, first name）②所属・職名・役職・兼任 ③生年（任意）④学歴・職歴 ⑤最終学位
⑥専門分野 ⑦主な研究テーマ ⑧所属学会 ⑨研究目的・研究状況・メールアドレス（任意）

●主要業績（研究者になってこれまで行ってきた自身の研究の代表的なもの）

- ・著書（単著・共著・編著・監修）
- ・論文
- ・調査・発掘調査報告書、自治体史・史料集、辞典など
- ・展示図録・資料図録・映像・DB
- ・学会・外部研究会発表
- ・総研大リーフレット
- ・その他

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績（公開、発表、刊行済みのもの）

- 1 著書（単著・共著・編著・監修）
- 2 論文（査読あり、なしを明記）
- 3 調査・発掘調査報告書、自治体史・史料集、辞典など
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
- 5 学会・外部研究会発表
- 6 総研大リーフレット
- 7 その他（『REKIHAKU』、友の会ニュース、『本郷』など）

二 主な研究教育活動（共同研究、調査、展示、教育等）

- 1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）
 - ① 歴博（基幹・基盤・開発型、国内交流事業）
 - ② 他の機関
 - ③ 機構（基幹研究プロジェクト）
- 2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金、各種補助金による研究、企業・自身体による研究）
- 3 国際交流事業（国際交流協定にもとづく事業、国際シンポジウム・集会など）
- 4 主な展示・資料活動（展示・資料・DBなど）
- 5 教育（総研大シンポ、大学院セミナー担当、大学非常勤講師、学位審査の主査・副査・委員、博物館活動、教育プログラムなど）

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員（学会、学術会議、文化庁・学振・自治体審議委員など）
- 2 講演・カルチャーセンターなど（友の会も含む）
- 3 マスコミ（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌など）
- 4 社会連携（国内）
 - ① 刊行物（自治体など地方公共団体刊行のもの：市史、発掘調査報告書など）
 - ② 共同研究（自治体からの委託研究や産業界との共同研究）
 - ③ 講演会・シンポジウム（自治体など地方公共団体主催のもの）
 - ④ デジタル・コンテンツ開発（自治体の経費で開発したもの）
- 5 国際連携（日本国内で行われたものも含む）
 - ① JICA
 - ② 国際交流基金
 - ③ その他

四 活動報告

- 1 受賞歴
- 2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの
- 3 研究・調査プロジェクト報告
- 4 その他（研究の目的，意義など）＊任意

西谷 大 NISHITANI Masaru 館長 (2020.4～)

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023～) 生年：1959

【学歴】熊本大学文学部史学科 (1984年卒業)、熊本大学大学院文学研究科史学専攻修士課程修了 (1986年単位取得退学)、中華人民共和国天津師範大学普通進修生修了 (1987年)、中華人民共和国中山大学人類学系高級進修生修了 (1989年) 【職歴】国立歴史民俗博物館考古研究部助手 (1989)、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授 (2004)、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007)、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2008)、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2012)、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2012)、博物館資源センター長併任 (2013～2015)、副館長併任 (2017～2019)、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任 (2023)

【学位】文学修士 (熊本大学) (1986年取得)、文学博士 (総合研究大学院大学) (2008年取得)

【専門分野】東アジア人類史【主な研究テーマ】東アジアの生業に関わる歴史 日本の地域研究 (人と自然の関係史)

【所属学会】中国考古学会、東南アジア考古学会【研究目的・研究状況】東アジアにおける生業の歴史を主な研究目的とする。中国海南省のリー族、中国雲南省紅河州の者米谷でフィールド調査を行ってきた。近年は、千葉県房総丘陵地域で、近世から現代までの人と自然の関係史を様々な分野の研究者と共同でフィールド調査を行っている。

●主要業績

1. 【編著】「[共同研究] 東アジアにおける多様な自然利用—水田農耕民と焼畑農耕民」『国立歴史民俗博物館研究報告』第164集、国立歴史民俗博物館、A 4 版、177頁、2011年 3 月
2. 【単著】『多民族の住む谷間の民族誌—生業と市からみた環境利用と市場メカニズムの生起』角川学芸出版、A 5 版、335頁、2011年 9 月
3. 【論文】Nishitani Masaru and Nathan Badenoch「Why Periodic Markets Are Held : Considering Products, People, and Place in the Yunnan-Vietnam Border Area」Vol 2. No 1. of Southeast Asian Studies, pp.171-192, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 2013年 4 月 (査読有)
4. 【論文】西谷 大・島立理子・大久保悟「共同研究 [日本の中山間地域における人と自然の文化誌] 中間報告—二号穴からみた水利用—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第186集、pp.295-309、国立歴史民俗博物館、2014 年 3 月 (査読有)
5. 【論文】西谷 大「豚便所—飼養形態からみた豚文化の特質」『国立歴史民俗博物館研究報告』第90集、pp.79-149、国立歴史民俗博物館、2001年 3 月 (査読有)

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

- 1 監修 (総監修)
『ビジュアルでつかむ! くらしの歴史』(全5巻:「縄文・弥生・古墳時代のくらし」2026年2月刊、「飛鳥・奈良・平安時代のくらし」2026年3月刊、「鎌倉・室町・安土桃山時代のくらし」2026年3月刊、「江戸時代のくらし」2025年12月刊、「明治・大正・昭和時代のくらし」2026年2月刊)、はるぷ出版
- 7 「ショートエッセイ「水」第33回「水と棚田」、日本水道新聞社ホームページ、2025年11月4日

二 主な研究教育活動

- 3 国際交流事業 (国際交流協定にもとづく事業、国際シンポジウム・集会など)
日本と台湾からみた地域歴史像の解明

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員
日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会 委員、公益財団法人佐倉国際交流基金 評議員、公益財団法人味の素食の文化センター 評議員、大和郡山市 水木十五堂賞選考委員会委員、千葉県教育委員会 スーパーサイエンスハイスクール (千葉県立佐倉高等学校) 運営指導協議員、千葉県生涯学習審議会委員、日本郵便株式会社 郵便切手アドバイザー・グループ委員、公益財団法人千葉県教育振興財団 評議員

- 2 講演・カルチャーセンターなど（友の会も含む）
令和7年度国立歴史民俗博物館友の会 館長特別講演会「歴史を疾走するネコ 人との不思議な長い共生の物語」, 国立歴史民俗博物館 講堂, 2026年2月22日
- 3 マスコミ（テレビ, ラジオ, 新聞, 雑誌など）
「番組10周年特別企画 館長と行く! 歴博ネコ探し」, ケーブルネット296「歴博のミカタ」, ケーブルネット296, 2025年7月21～27日
「特集 日本人の暮らしと文化 4万年の旅～国立歴史民俗博物館～」, NHKワールドJAPAN
「Design×Stories」ライブストーリーミング/オンデマンド配信, 2025年12月6日
- 4 社会連携
 - ③ 講演会・シンポジウム（自治体など地方公共団体主催のもの）
令和7年度佐倉市民カレッジ「これからの博物館で必要なこと・歴博を楽しむ」, 佐倉市立中央公民館, 2026年1月23日
第14回水木十五堂賞授賞式, 森須磨子氏受賞記念講演記念座談会パネリスト, 水木十五堂賞運営協議会, DMG MORIやまと郡山城ホール, 2026年2月14日

四 活動報告

- 3 研究・調査プロジェクト報告
2026年2月22日に開催された館長特別講演会において、「歴史を疾走するネコ—人との不思議な長い共生の物語—」と題し講演を行った。歴博の展示室を巡りながら、各時代の資料をもとに人と猫との関係の変遷を解説するとともに、フィールド調査の成果も交えて、猫と人との多様な関係性や文化的背景について紹介した。

阿久津 侑里 AKUTSU Yuri 特任助教（2026.2～）

【学歴】千葉大学大学院人文社会科学部博士前期課程（2015年修了）, 政策研究大学院大学科学技術イノベーション政策プログラム（修士2年制）（2026年修了）, 政策研究大学院大学科学技術イノベーション政策プログラム（博士課程）（在学中）

【職歴】大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館管理部職員（2015年4月）, 独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所研究推進部研究マネジメント職（2023年1月）, 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部特任助教（2026年2月）

【学位】文学修士（千葉大学）, 公共政策修士（政策研究大学院大学）【専門分野】リサーチ・アドミニストレーション, 科学技術・学術政策, 科学社会学【主な研究テーマ】研究環境と研究者の活動の相互作用, 研究文化や研究慣行の形成と変容のメカニズム【所属学会】リサーチ・アドミニストレーション協議会, 研究・イノベーション学会

●主要業績

阿久津侑里「研究キャリアの端緒としての科研費応募を支援する」『リサーチ・アドミニストレーション協議会誌』2:39-41, 2024年7月。

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

- 5 学会・外部研究会発表
日比野桜子, 阿久津侑里, 竹内瑤子「トップダウン? ボトムアップ? 研究活動のゆるやかな組織化のための第一歩」『RA協議会第11回年次大会』, 熊本, 2025年10月。

二 主な研究教育活動

- 2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金, 各種補助金による研究, 企業・自身体による研究）
学術変革領域研究（A）「歴史情報学の創成」総括班URAとしての活動
- 5 教育（総研大シンポ, 大学院セミナー担当, 大学非常勤講師, 学位審査の主査・副査・委員, 博物館活動, 教育プログラムなど）
「キャリア・デベロップメントC」（千葉大学）

天野 真志 AMANO Masashi 准教授（2022.4～）

併任：総合研究大学院大学先端学術専攻日本歴史研究コース准教授（2023年度～）

【学歴】富山大学人文学部人文学科（2004年卒業）、東北大学大学院文学研究科博士前期課程（2006年修了）、東北大学大学院文学研究科博士後期課程（2010年単位取得退学）

【職歴】東北大学東北アジア研究センター教育研究支援者（2010-2012）、東北大学災害科学国際研究所助教（2012-2017）、人間文化研究機構研究推進センター研究員（2017.7～2022.03）、併任国立歴史民俗博物館特任准教授（2017.7～2022.03）、国立歴史民俗博物館研究部准教授（2022.04～）

【学位】博士（文学、東北大学）、【専門分野】日本近世・近代史、資料保存、【主な研究テーマ】日本近世近代移行期における政治・社会史研究、近世・近代社会における地域の由緒に関する研究、地域歴史文化の保全・継承に関する研究、地域歴史文化資料の災害対策に関する研究、【所属学会】文化財保存修復学会、明治維新史学会、歴史学研究会、東北史学会、日本古文書学会、日本アーカイブズ学会、歴史科学協議会

●主要業績

1. 【著書】『幕末の学問・思想と政治運動』吉川弘文館、260頁、2021年4月10日
2. 【共編著】『地域歴史文化継承ガイドブック』文学通信、248頁、2022年3月8日
3. 【共編著】『地域歴史文化のまもりかた』文学通信、295頁、2024年3月31日
4. 【論文】「災害経験をめぐる記憶の行方」、『歴史学研究』1005、pp.28-33、2021年2月

●2025年度の研教育活動**一 研究業績**

<https://researchmap.jp/masashiamano>

- 1 著書
- 2 論文

「「正議」の実践—戊辰戦争期における秋田藩の政治的環境—」明治維新史学会編『明治維新史論集3 予期せぬ変動と明治維新』有志舎、pp.37-62、2025年10月8日

「地域歴史資料を取り巻くネットワーク—地域と大学・専門家をつなぐ取組み」日高真吾・小谷竜介編『必携 文化財防災の手引き』丸善出版、pp.63-68、2026年1月30日

「古文書の応急処置」日高真吾・小谷竜介編『必携 文化財防災の手引き』丸善出版、pp.146-151、2026年1月30日
- 3 調査・発掘調査報告書、自治体史・史料集、辞典など

『常陸大宮市史 資料編4 近世Ⅱ』、808頁、茨城県常陸大宮市、2026年3月23日

小関悠一郎編『史料集 近世・近代日本の「仁政」「富国」論—改革の理念と政治・社会』基盤研究（B）「「仁政」論研究の新展開—近世・近代日本の政治構想・改革政治の総合的研究—」

2024～2027年度（研究代表者：小関 悠一郎）2026年3月
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
- 5 学会・外部研究会発表

「被災古文書の救出・保存と継承—地域における取り組みから考える—」2025年度文化財保存修復学会公開シンポジウム「被災文化財の修理・修復を考える、富山大学黒田講堂、2025年6月13日

「江戸時代の由緒探求と記憶の広がり」第122回歴博フォーラム「さまざまな「死」から社会を読む」、国立歴史民俗博物館、2025年9月21日

「災害対策にみる地域歴史資料の保存・継承—現在地点と展望—」第8回東アジア史料研究編纂機関国際学術会議「アジア歴史資料の保全と学術資源化」、東京大学 本郷キャンパス 山上会館、2025年10月28日

「「地域の歴史・文化再発見講座」との連携とその目的」共同研究「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」「地域歴史協働研究」ユニット研究会、泉大津市立図書館、2026年1月8日

「東日本大震災における文化財レスキューの経過と課題—宮城県亘理町での取り組みから考える—」第12回全国史料ネット研究交流集会 in 高知、オーテピア、2026年1月11日

「Emergency Response for Water-Damaged Paper-Based Cultural Properties」International Symposium on Disaster Risk Reduction for Cultural Heritage, Gaziantep Zeugma Mozaik Müzesi、2026年2月12日

7 その他

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究「死者への行為が形成する認識と社会変容」代表者：上野祥史（2023～2025年度）

課題設定型共同研究「「地域アーカイブ」の形成過程と郷土史家の役割に関する総合的研究」代表者：小幡圭祐（2024～2026年度）

課題設定型共同研究「欧文資料に見る近世初期日本の国際交流の総合的研究」代表者：鷺頭桂（2025～2027年度）

館蔵資料型共同研究「平田篤胤関係資料の漢籍受容に関する総合的研究」代表者：高田宗平（2024～2026年度）

館蔵資料型共同研究「近代暦知の総合的研究」代表者：下村育世（2025～2027年度）

② 他の機関

東京大学史料編纂所一般共同研究「東日本の中近世文書の形態・料紙に関する科学研究」代表者：柳原敏昭（2025年度）

東京大学史料編纂所一般共同研究「東寺旧蔵文書群の復元的研究」代表者：富田正弘（2025年度）

岡山大学文明動態学研究所共同研究「岡山地域における歴史資料の基礎的研究—地域史・医学史・東アジア研究の観点から—」代表者：東野将伸（2025年度）

③ 機構

ネットワーク型機関研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」代表者：天野真志（2022～2027年度）

機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」代表者：後藤真（2022～2027年度）

広領域連携型基幹研究プロジェクト「横断的・融合的地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」歴博ユニット「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」代表者：川村清志（2022～2027年度）

広領域連携型基幹研究プロジェクト「横断的・融合的地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」民博ユニット「地域文化の効率的な活用モデルの構築」代表者：日高真吾（2022～2027年度）

広領域連携型基幹研究プロジェクト「横断的・融合的地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」国文研ユニット「人口減少地域におけるアーカイブズと歴史文化の再構築」代表者：西村慎太郎（2022～2027年度）

2 外部資金による研究

科学研究費学術変革領域研究（A）「歴史学研究成果の共有と「水平展開」」代表者：天野真志（2025～2029年度）

科学研究費基盤研究（A）「「古文書科学」の応用実践」代表者：渋谷綾子（2023～2027年度）

科学研究費基盤研究（A）「現実世界と電子世界の融合で被災地復興に寄与する次世代MLA」代表者：白井哲哉（2022～2027年度）

科学研究費基盤研究（A）「災害文化を内包する地域の記憶継承に資する地域歴史資料学と地域形成史の構築」代表者：奥村弘（2025～2029年度）

科学研究費基盤研究（B）「「仁政」論研究の新展開—近世・近代日本の政治構想・改革政治の総合的研究—」代表者：小関悠一郎（2024～2027年度）

科学研究費基盤研究（B）「東アジア歴史資料の学術資源化と保全に関する国際交流の推進研究」代表者：杉森玲子（2024～2026年度）

科学研究費基盤研究（B）「歴史学研究者アーカイブズの研究資源化とプラットフォーム構築」代表者：工藤航平（2024～2028年度）

科学研究費基盤研究（B）「異分野共創による紙文化財DX基盤の確立」代表者：高島晶彦（2025～2029年度）

科学研究費基盤研究（B）「近世日本の災害・復興の総合的研究—能登国における通時的・網羅的の把握を目指して—」代表者：上田長生（2025～2029年度）

4 主な展示・資料活動

5 教育

立教大学文学部・兼任講師

千葉大学文学部・非常勤講師

京都芸術大学藝術学舎
 福島大学行政政策学類
 山形大学人文社会科学部
 国文学研究資料館アーカイブズカレッジ

三 社会活動等

1 館外における各種委員

国立文化財機構文化財防災センター客員研究員
 国立文化財機構文化財防災センター応急処置方針検討ワーキング副ワーキング長
 島根県古代文化センター客員研究員
 茨城県常陸大宮市史編さん委員会専門部会協力員
 宮城県名取市史編さん専門部会専門部員
 一般社団法人 文化財保存修復学会 災害対策調査部会拡大委員
 鹿角市教育委員会・小坂町教育委員会 鹿角地域文化財保存活用計画策定協議会委員
 秋田県仙北市文化財保存活用地域計画協議会委員
 真田宝物館登録博物館検討委員
 歴史科学協議会編集委員
 明治維新史学会大会運営委員
 一般社団法人 文化財保存修復学会第47回大会実行委員
 一般社団法人 文化財保存修復学会第48回大会実行委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「文化財の災害対策―危機管理と現場対応を考える―」宮崎県博物館等協議会第2回研修会，宮崎県立西都原考古博物館，2025年10月30日
 「災害時における資料救出を考える―水損資料レスキューのシミュレーション―」合同会社 結creation「水損資料レスキュー講習会」，なら歴史芸術文化村，2025年12月12日
 「幕末政治を支えた人びと」泉大津市立図書館「地域の歴史・文化再発見講座」泉大津市立図書館，2026年1月8日
 「被災資料を救出する ―水損資料の対処方法と応急処置の実例―」こうちミュージアムネットワーク・令和7年度研修会，高知県立高知城歴史博物館，2026年3月25日

四 活動報告

2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの

国立歴史民俗博物館第5期将来計画会議委員・議長
 大規模改修検討委員会・委員
 大規模改修作業部会・部会員
 資料保存環境検討委員会・委員

3 研究・調査プロジェクト報告

地域社会に伝わる歴史文化資料の保存状況について，古文書等記録物を中心に調査を行った。あわせて，将来的な継承の課題と研究展開の可能性について検討し，地域研究の新たな展開に向けた基盤整備に寄与した。

荒川 章二 ARAKAWA Shoji 特任教授（2022～2025.6）

【学歴】早稲田大学第一文学部（1976年卒業），立教大学大学院文学研究科修士課程（1978年修了），一橋大学大学院社会学研究科博士課程（1983年単位取得退学）

【職歴】日本学術振興会奨励研究員（1984年度），法政大学大原社会問題研究所嘱託・兼任研究員（1985～1987年度），静岡大学教育学部助教授（1988年4月），静岡大学情報学部教授（1995年10月），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館客員教授（2004～2007年度），静岡大学情報学部副学部長（2008～2009年度），静岡大学情報学部学部長（2010～2012年度），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2013年4月），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2014年4月），早稲田大学文学学術院非常勤講師（2014～2016年度），静岡大学非常勤講師（2019～2021年度），放送大学（静岡学習センター所属）客員教

授（2021年4月～2024年3月）、国立歴史民俗博物館客員教授（2021年6月～2022年3月）、千葉大学文学部非常勤講師（2022年度）

【学位】文学修士（立教大学）【専門分野】日本近現代史【主な研究テーマ】近代日本の軍隊と地域関係史、戦後日本社会史【所属学会】歴史学研究会、日本史研究会、歴史科学協議会、同時代史学会【研究目的・研究状況】軍隊と地域関係史の研究では、編著『地域の中の軍隊2 関東 軍都としての帝都』（吉川弘文館）を2014年度に刊行、2021年度に『増補 軍隊と地域—郷土部隊と民衆意識のゆくえ』を岩波現代文庫版として刊行した。また、沖縄軍事史に関し、『沖縄県史 各論編 第六巻 沖縄戦』（沖縄県、2017年3月刊）第1章、および「内地と外地の間で—戦前沖縄の軍事的特色」（杉原達編『戦後日本の＜帝国＞経験』（日本学叢書⑤、青弓社、2018年11月、pp.21-65）を執筆、戦後研究では、2017年度に「1968年」をテーマとする国立歴史民俗博物館企画展示を実施し、2018年度に「1968年」共同研究の研究報告書を刊行した。また、2021年度国立歴史民俗博物館特集展示「東アジアを駆け抜けた身体—スポーツの近代」の展示プロジェクト委員として、「第3章 世界を駆け抜けた台湾人アスリート：張星賢」の展示および図録執筆を担当。

●主要業績

1. 【単著】『軍隊と地域』青木書店、358頁、2001年7月（2021年4月『増補 軍隊と地域—郷土部隊と民衆意識のゆくえ』岩波現代文庫、428頁として補章を加えた増補版刊行）
2. 【単著】『軍用地と都市・民衆』（日本史リブレット95）山川出版社、107頁、2007年10月3.
【単著】『全集日本の歴史16 豊かさへの渴望』小学館、382頁、2009年3月
4. 【編著】『地域の中の軍隊2 関東 軍都としての帝都』吉川弘文館、201頁、2015年2月
5. 【編著】『国立歴史民俗博物館研究報告「1968年」社会運動の資料と展示に関する総合的研究』第216集、国立歴史民俗博物館、347頁、2019年3月
6. 【展示図録】『企画展示「1968年」無数の問いの噴出の時代』（展示代表）、国立歴史民俗博物館、228頁、2017年10月

●2025年度の研究

一 研究業績（公開、発表、刊行済みのもの）

- 1 著書（単著・共著・編著・監修）
- 2 論文（査読あり、なしを明記）
- 3 調査・発掘調査報告書、自治体史・史料集、辞典など
静岡県『静岡県史 資料編26 近現代8（政治・行政）』総頁1094頁、2026年3月、担当箇所：選挙と政党関係（pp.190-243, 321-401, 524-560, 763-790）
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
- 5 学会・外部研究会発表
荒川章二「書評／慎蒼宇『朝鮮植民地戦争』』『歴史評論』907号、pp.81-85、2025年11月、
東海大学文明研究所「戦争と人間学研究」班研究報告 2025年11月15日（於：東海大学湘南校舎）、コメント
荒川章二「民衆の登場と帝都の軍隊」（NPO法人重慶大爆撃を語り継ぐ会第4回総会記念講演、2025年8月9日、明治大学駿河台キャンパス）
荒川章二「第123回歴博フォーラム 世界史の中の明治維新と国民と誕生 コメント 国民化／臣民化と軍隊・地域社会—北の世界から考える」2025年12月13日、国立歴史民俗博物館講堂」

三 社会活動等

- 6 総研大リーフレット
- 7 その他（『REKIHAKU』、友の会ニュース、『本郷』など）
荒川章二「対外戦争の経験と国民化」『REKIHAKU』特集「近代展示をひらく 第5展示室〈近代〉リニューアル」、pp.26-28、2026年3月

二 主な研究教育活動（共同研究、調査、展示、教育等）

- 1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）
 - ① 歴博（基幹・基盤・開発型、国内交流事業）
 - ② 他の機関

③ 機構（基幹研究プロジェクト）

二 主な研究教育活動

4 主な展示・資料活動

総合展示第5・6室リニューアル委員会館内委員（～2025年6月）、以後同委員会（館外）委員

1 館外における各種委員

静岡県史編さん専門委員（2020年11月～）、浜松市文化財保護審議会委員（2021年7月～）、沼津市明治史料館協議会委員（2022年11月～）

池田 美穂 IKEDA Miho プロジェクト研究員（2025.11～）

①氏名：池田美穂（IKEDA miho）②所属：メタ資料額研究センタープロジェクト研究員（2025年11月～）・千葉大学大学院人文公共学府博士後期課程（2024年度～）・日本学術振興会特別研究員DC1（2024年度～）③生年：1998年④学歴：千葉大学 国際教養学部（2018年4月～2022年3月卒業・千葉大学 人文公共学府 博士前期課程（2022年4月～2024年3月修了）・千葉大学 人文公共学府 博士後期課程（2024年4月～現在在籍）⑤最終学位：修士（学術）（千葉大学）⑥専門分野：高等教育学，教育社会学，デジタル・ヒューマニティーズ⑦主な研究テーマ：日本の大学におけるファーストジェネレーション学生の量的・質的研究，日本の大学におけるデジタルヒューマニティーズ教育の実態分析⑧所属学会：日本教育社会学会，日本高等教育学会，大学教育学会，NASPA（米国学生支援専門家協会），情報処理学会⑨研究目的・研究状況・メールアドレス：両親がともに大学を卒業していない，ファーストジェネレーション学生の量的規模・実態・困難を明らかにすること。現在は，博士論文執筆中。24dd1102@student.gs.chiba-u.jp

●主要業績

<https://researchmap.jp/miho.ikeda>

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績（公開，発表，刊行済みのもの）

<https://researchmap.jp/miho.ikeda>

二 主な研究教育活動（共同研究，調査，展示，教育等）

1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）

① 歴博：日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究にプロジェクト研究員として参加

2 外部資金による研究

<https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-24KJ0532>

日本財団HUMAIプログラム

3 国際交流事業：ルーヴン大学研究員受け入れ支援

4 主な展示・資料活：なし

5 教育

卓越大学院プログラム「アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム」

三 社会活動等

なし

四 活動報告

1 受賞歴：大学院教育改革フォーラム2025学生グループ発表 大賞

2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの：なし

3 研究・調査プロジェクト報告：「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研」プロジェクト研究員として，オープンサイエンス基盤（khirin）の整備および国際連携研究支援を担った。歴史資料のデータ構造整理・目録情報整備を進めるとともに，ルーヴン大学研究員の受け入れ支援・長崎フィールドワーク同行

等を通じ、国際共同研究の推進に寄与した。

上野 祥史 UENO Yoshifumi 准教授（2009.10～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授（2023年度～）

【学歴】京都大学文学部史学科考古学専攻（1996年卒業）、京都大学大学院文学研究科考古学専修修士課程（1999年修了）、京都大学大学院文学研究科考古学専修博士後期課程（2000年中退）

【職歴】国立歴史民俗博物館考古研究部助手（2000）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2009）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2010）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任（2023）

【学位】文学修士（京都大学）（1999年取得）【専門分野】東アジア考古学【主な研究テーマ】漢三国六朝期の古代東アジア世界の展開Archaeological Study of Ancient East Asia【所属学会】史学研究会、考古学研究会、日本中国考古学会【研究目的・研究状況】漢三国六朝期、つまり弥生時代から古墳時代にかけての時期を対象に、東アジア世界各地の相互交渉を研究の目的の一つとしている。鏡や装身具などの金工具を検討し、価値・観念・製作技術という視点から、中国大陆と日本列島の社会動態を描き出すことに取り組んでいる。

●主要業績

1. 【共編著】『秦帝国と封泥』六一書房、総178頁、2024年
2. 【編著】『金鈴塚古墳と古墳時代社会の終焉』六一書房、総274頁、2022年
3. 【編著】『東アジアと倭の眼でみた古墳時代』国立歴史民俗博物館研究叢7、朝倉書店、総192頁、2020年
4. 【編著】『古代東アジアにおける倭世界の实態』国立歴史民俗博物館研究報告第211集、総512頁、2018年
5. 【編著】『祇園大塚山古墳と5世紀という時代』六一書房、総136頁、2013年

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

- 1 著書（単著・共著・編著・監修）
監修『古墳時代の歴史』（講談社新書、松木武彦著）、2025年10月
監修『ビジュアルでつかむ！くらしの歴史 縄文・弥生・古墳時代のくらし』ほるぷ出版、2026年2月
共著「グローバルな古代史6つの謎」『文藝春秋』2025年6月号
- 2 論文
「近畿地方における弥生時代～古墳時代初頭の金属器生産と社会」『国立歴史民俗博物館研究報告』第256集、pp.289-309、2026年3月。（査読有）
- 3 調査・発掘調査報告書、自治体史・史料集、辞典など
「金属製品」『市原市稲荷台1号墳』市原市教育委員会、pp.36-50、2026年3月
「王賜銘鉄剣象嵌部のX線CT調査」『市原市稲荷台1号墳』市原市教育委員会、pp.83-92、2026年3月
「総括」『市原市稲荷台1号墳』市原市教育委員会、pp.203-212、2026年3月
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
- 5 学会・外部研究会発表
「漢代の災異記録と気候変動データ」歴博開発型共同研究、三重県埋蔵文化財センター、2025年6月14日
「被災した地域資料と3D化の試み」基幹プロ・広領域連携型『フィールドサイエンスの統合と地域文化の創発』R7第1回研究会、国立歴史民俗博物館、2025年6月22日
「仏教信仰と造墓・他界（八木報告のコメント）」歴博基幹共同研究、国立歴史民俗博物館、2025年9月20日
「社会をとらえる死という視点」『さまざまな死から社会をよむ』第122回歴博フォーラム、国立歴史民俗博物館、2025年9月21日
「二つの異界を物質化する時代—墓・死者の世界と寺院・神々の世界—」日本中国考古学会2025年大会シンポジウム、成城大学、2025年12月6日
「中国先史社会の象徴表現と物質化」日本中国考古学会2025年大会ポスター発表（今村佳子と共同発表）、成城

大学, 2025年12月6・7日

「中国先史社会の象徴表現と物質化」科学研究変革領域研究, 慶応大学, 2026年1月10・11日

「中国における死者の物質化」歴博基幹共同研究, 国立歴史民俗博物館, 2026年1月30日

6 総研大リーフレット

7 その他(歴史系総合誌『歴博』, 友の会ニュース, 『本郷』など)

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究「死者への行為が形成する認識と社会変容」研究代表(2023~2025年度)

基盤研究「顔身体土器の通文化比較にみる身体・モノ認識」研究副代表(2024~2026年度)

開発型共同研究「弥生時代の洪水災害に対する人びとの選択と社会の変化」共同研究員(2024~2026年度)

共同利用型共同研究「漢代画像石墓の画題配置と墓室構造」研究副代表者(2024年度)

③ 機構(基幹研究プロジェクト)

広領域連携型基幹研究プロジェクト「フィールドサイエンスの統合と地域文化の創発」共同研究員(2022年度~)

2 外部資金による研究

基盤研究(B)「三関周辺における古墳時代から古代の地域動態に関する総合的研究」研究分担者(2023~2026年度)

学術変革領域研究(A)「モノとヒトの相互構築史:マテリアマインドの実証的・理論的研究(物質と心班)」研究分担者(2025~2029年度)

4 主な展示・資料活動

総合展示第1室「IV倭の登場」「V倭の前方後円墳と東アジア」展示プロジェクト委員

特集展示「モノと身体」(2026年度)展示代表

5 教育

上智大学非常勤講師「東洋考古学」

女子美術大学非常勤講師「文化遺産学」「比較文化論」

名古屋大学集中講義「博物館資料論」

名古屋大学博士学位審査副査

三 社会活動等

1 館外における各種委員

日本中国考古学会副会長, 木更津市史編さん部会委員, 市原市稲荷台1号墳調査検討委員会委員, 志摩市志島・畔名古墳群調査検討委員会委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「中国から古墳時代をみる」朝日カルチャーセンター, 2025年4月14日, 5月12日, 6月7日

「邪馬台国時代の交流—日本列島と中国—」朝日カルチャーセンター, 2025年8月4日

「鏡と古墳時代」朝日カルチャーセンター, 2025年9月8日

「出土鏡から古墳時代をみる」大安場史跡公園令和7年度第1回歴史講演会, 2025年9月28日

「デジタル技術がみせる新しい博物館展示・研究可能性」高千穂大学公開講座2025, 2025年11月29日

四 活動報告

2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの

3 研究・調査プロジェクト報告

中国の秦漢時代, および日本列島の弥生・古墳時代を対象として, 3次元情報(Photo Grammetry, 3D scanner, X-CT)を活用した物質文化研究を展開する。館蔵資料を対象としたモデル作成, 館外機器を利用した金工品や土製品のX-CT調査を実施し, これまで進めてきた研究成果を対照しつつ, 今後の研究スタンダードを形成する3次元情報を基にした歴史資料研究を深化させた。

ことに, 今年度は市原市稲荷台1号墳出土の象嵌鉄剣や金銅装板甲, 明治大学新収の金銅製透彫製品などを対象に, 3次元情報化に取り組み, 製作技法の研究実践を進めた。

4 その他

今年度も、3次元情報の作成及び分析を一つの核として研究活動を展開した。学術変革領域研究（科研）や研究・調査プロジェクト、各種共同研究を通じて、考古資料の3次元情報作成に取組み、考古学研究における3次元情報の活用を実践した。学術変革領域研究では、ひととモノの相互浸潤作用、物心共創に注目した検討に関与しており、その視点から身体感覚を高めた資料へのアクセスおよび心性や認知の検討に資するため、VRコンテンツの作成にも取り組んだ。

一方、日本中国考古学会2025年大会にて「行動と意識の変化—南北朝時代の画期を考える—」と題したシンポジウムを企画・運営し、身体・所作との関係から出土資料を評価する試みに取り組んだ。また、学術変革領域研究（科研）では、墓において表現される死者の世界を、故人の身体（靈魂）とのサイズ関係に注目した報告おこなった。ポスター発表にて、副葬品のサイズから実在する人と同じサイズで靈魂が意識されたことを示した。いずれも、身体と物証、その相互関係に注目した研究視点を深化させた。

なお、その視点を拡張し、関連するさまざまな研究プロジェクトと連携した特集展示「モノと身体」を2026年度に企画しており、3D情報化やコンテンツの作成をその準備に向けて集約した。

内田 順子 UCHIDA Junko 教授（2020.4～）

副館長、研究総主幹（2024年度～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授（2023年度～）

【学歴】東京芸術大学音楽学部楽理科（1990年卒業）、東京芸術大学大学院音楽研究科音楽学専攻（1993年修了、総合研究大学院大学文化科学研究科国際日本研究専攻博士後期課程（1997年修了）

【職歴】国際日本文化研究センター中核的研究機関研究員（1997）、日本学術振興会特別研究員（1997）、国立歴史民俗博物館民俗研究部助手（1999）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館民俗研究部准教授（2007）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2009）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館民俗研究部教授（2020）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2020）、博物館資源センター長併任（2021～2022）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023）、副館長・研究総主幹（2024～）

【学位】博士（学術）（総合研究大学院大学）（1997年取得）【専門分野】音楽学、民俗学【主な研究テーマ】音楽の伝承過程についての研究／資料批判に基づいた映像研究【所属学会】東洋音楽学会、日本音楽学会、沖縄文化協会、日本民俗学会【研究目的・研究状況】ある社会において神聖なものの位地に置かれている音楽の伝承過程や伝承方法を明らかにするため、宮古島をフィールドとして調査研究を継続している。また、歴史的な映像を資料批判的研究に基づいて再解釈することをとおして、映像の歴史資料としての可能性と限界を考察する研究を実施している。

●主要業績

1. 【著書】

内田順子（編）・国立歴史民俗博物館（監修）『映し出されたアイヌ文化—英国人医師マンローの伝えた映像』160頁、吉川弘文館、2020年

『宮古島狩侯の神歌—その継承と創成—』思文閣出版、2000年

2. 【論文】

「与えられたことば—宮古島狩侯における神歌の継承—」、斎藤英喜編『呪術の知とテクネー—世界と主体の変容—』、森話社、pp.107-136、2003年

3. 【調査・発掘調査報告書、自治体史・史料集、辞典など】

『国立歴史民俗博物館研究報告』第168集（マンローコレクション研究—写真・映画・文書を中心に—）2011年

4. 【展示図録・資料図録・映像・DB】

民俗研究映像「AINU Past and Present—マンローのフィルムから見えてくるもの」（ビデオ、102分、監督：内田順子・鈴木由紀、制作：内田順子・岡田一男）、2007年

5. 【その他】

「平成17年度 国立歴史民俗博物館 民俗研究映像『AINU Past and Present—マンローのフィルムから見えてく

るもの一』：映画フィルムの資料批判的研究に関連する研究ノート」、『国立歴史民俗博物館研究報告』150，国立歴史民俗博物館，pp.179-192，2009年

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

5 学会・外部研究会発表

「金井喜久子音楽関係資料の概要と利活用における課題・展望」，コンサート&ミニシンポジウム『金井喜久子研究の可能性』，金井プロジェクト実行委員会主催，アイム・ユニバースでだこホール市民交流室，2025年12月13日

7 その他（『REKIHAKU』，友の会ニュース，『本郷』など）

「開催趣旨」『『沖縄・糸満の門中行事—門開きと神年頭—』の撮影素材の特徴』，『同じ墓に入る人びと—沖縄県糸満の門中行事』（歴博映像フォーラム19），p.1，pp.19～22，2026年2月

「書誌紹介 吉田ゆか子・増野亜子編『コロナ下での芸能実践—場とつながりのレジリエンス』」，『日本民俗学』325，p.90，2025年3月

「アイヌの視点から近代を見直す」『REKIHAKU』17，pp.29～30，2025年3月

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

「アーカイブ学との連携による映像資料の多角的価値評価と活用モデルの構築」（2025年度～2027年度）研究代表

② 他の機関

国立アイヌ民族博物館調査研究プロジェクト「先住民族が生活する現代の社会的・政治的・文化的状況に関する研究」（2024～2026年度）共同研究員

③ 機構

機構基幹研究プロジェクト（広領域連携型基幹研究プロジェクト：横断的・融合的地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して）「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」（2022～2027年度）共同研究員

2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金，各種補助金による研究，企業・自身体による研究

研究課題 25K03671（<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25K03671/>）

4 主な展示・資料活動

総合展示第4室「『民俗』へのまなざし」展示プロジェクト委員，総合展示第5室「近代」展示プロジェクト委員

企画展示「アイヌ民族と博覧会 —150年の経験—」展示代表

5 教育

國學院大学非常勤講師「映像文化論」

三 社会活動等

2 講演・カルチャーセンターなど

「『沖縄・糸満の門中行事—門開きと神年頭—』の撮影素材の特徴」，歴博映像フォーラム19「地域文化の再構築における映像の活用」，国立歴史民俗博物館，2026年2月7日

大串 潤児 OGUSHI Junji 教授（2024.4～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授（2024年度～）

〔学歴〕

〔職歴〕 信州大学人文学部専任講師（2000～），同助教授，同准教授，同教授（～2023年度）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館教授（2024～），総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2024～）

[学位] 修士（教育学 東京学芸大学）（1994取得）

[専任分野] 日本現代史

[主な研究テーマ] 長野県を対象とした戦後地域社会史、青年・女性の社会文化運動史

[所属学会] 同時代史学会、歴史学研究会、東京歴史科学研究会

●主要業績

1. 【著書】『「銃後」の民衆経験—地域における翼賛運動』岩波書店、2016年5月、318頁
2. 【論文】「史学史としての教科書裁判」『思想』1048、2014年8月号
3. 【概説書】『精選 日本史探究』実教出版、2023年10月、246頁。
4. 【展示図録】なし
5. 【科研】基盤研究 (B)「ミクロネシアと日本にとっての「南洋群島」経験とその継承に関する基礎的研究」(20H04409) 2020～2024年度

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

1. 【著書】
 - ① [共編著] 佐川享平・大串潤児編『くらしと仕事から近代をみる一家族の姿、個人の経験』吉川弘文館、2026年3月、全205頁。
2. 【論文】
 - ① [単著]「「歴史総合」と地域現代史研究の課題」『人民の歴史学』（東京歴史科学研究会）第244号、2025年6月、3～18頁。（招待・依頼原稿）
 - ② [単著]「紙芝居と国定教科書」『神奈川大学非文字資料研究センター News Letter』No54、31～34頁。（査読なし）
 - ③ [単著]「信州の歴史家たち—地域史学史・序説」『信大史学』（信州大学・信大史学会）第50号、2025年11月、1～33頁。（招待・依頼原稿）
 - ④ [単著]「戦争と子どもたち」板橋区立美術館ほか編『戦後80年 戦争と子どもたち』青幻舎、2025年11月、8～19頁。（招待・依頼原稿）
- 3 調査・発掘調査報告書、自治体史・史料集、辞典など。
なし
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
なし
- 5 学会・外部研究会発表
- 6 総研大リーフレット
 - ① [共編著] 佐久間俊明・大串潤児ほか編『「私の歴史」を考える—個人の記録・個人の史料を読む』（歴史研究の最前線 No27）、2026年3月、全110頁。
- 7 そのほか
 - ① [単著]「近代展示は何を、どう問題にするか？—リニューアル展示を創るまでとその先の「問い」」『REKIHAKU』第17号、2026年3月、8～15頁。

二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況
 - ① 歴博 総合展示第5室（近代）リニューアル展示プロジェクト（代表）
 - ② 神奈川大学非文字資料研究センター「戦時下国策紙芝居の研究」
 - ③ なし
- 2 外部資金による研究 なし
- 3 国際交流事業 なし
- 4 主な展示・資料活動
 - ① 長野市立博物館「戦後80年」企画展 2025年8月～ 全体・構成企画・パネル原稿執筆
- 5 教育 なし

三 社会活動等

1 館外における各種委員

同時代史学会理事

神奈川大学非文字資料研究センター客員研究員

飯田市歴史研究所顧問研究員

松本市文化財審議会委員

長野市立博物館協議会委員

2 講演会

- ① 「「戦後」80年を生きる—戦争に向かいあう心理と論理」第29回・戦争遺跡全国シンポジウム「信州まつもと大会」(松本市・松本第一高等学校), 戦争遺跡保存全国ネットワーク, 2025年8月23日。

3 マスコミ

- ① 秋田ケーブルテレビ放送番組:『空白—彼はいかに戦争協力し、どう後悔したか』(2025年8月)への製作協力, 出演。

4 社会連携

(講演会・シンポジウム)

- ① 「紙芝居から見える戦争と社会—小山市に遺された紙芝居から」小山市立博物館, 2025年8月10日。
 ② 「戦時下の紙芝居—戦意高揚と庶民の戦争—各務原を事例に」各務原市中央図書館, 2025年8月30日
 ③ 「いま, 教科書裁判から何を学ぶか?」神奈川県高等学校社会科部会秋季研究大会(県立地球市民かながわプラザ), 2025年10月22日。
 ④ 「子どもの紙芝居, おとなの紙芝居—戦時下紙芝居を考える」郡山市立美術館, 2026年3月1日。

5 国際連携 なし

四 活動報告 特になし

小野塚 航一 ONOZUKA Koichi 特任准教授(2022.10～)

【学歴】金沢大学文学部史学科(2008年卒業), 金沢大学大学院人間社会環境研究博士前期課程(2010年修了), 神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程(2019年修了)

【職歴】神戸大学大学院人文学研究科学術研究員(2020.8-2021.3), 神戸大学大学院人文学研究科助手(2021.4-2022.9), 人間文化研究機構人間文化研究創発センター研究員(2022.10～), 併任国立歴史民俗博物館特任准教授(2022.10～), 宗教法人勝尾寺非常勤職員(2022.12～)

【学位】博士(文学)(神戸大学)【専門分野】日本中世史, 資料保存【主な研究テーマ】日本中世の地方寺院経済史, 「勝尾寺文書」の形成と伝来, 地域歴史資料の保全と活用【所属学会】大阪歴史科学協議会, 大阪歴史学会, 京都民科歴史部会, 高大連携歴史教育研究会, 神戸大学史学研究会, 日本史研究会, 北陸史学会, 歴史科学協議会

●主要業績

- 【論文】「中世後期における地方寺院の寺領と経済構造—摂津国勝尾寺を事例に—」, 『ヒストリア』第295号, pp.80-103, 2022年12月
- 【論文】「地域歴史資料保全をめぐる課題—2019年台風19号による被災資料レスキューを通じて—」, 『歴史科学』248号, pp.29-36, 2022年1月
- 【論文】「歴史資料ネットワーク発足二五年—続発する大規模水害の中での保全活動の展開—」, 『日本史研究』第699号, pp.48-58, 2020年11月(共著)
- 【論文】「「勝尾寺文書」所収寺領目録の基礎的研究」, 『ヒストリア』第280号, pp.25-50, 2020年6月
- 【論文】「「勝尾寺文書」と「類聚目録」—未翻刻文書の位置をめぐって—」, 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報『LINK【地域・大学・文化】』Vol.10, pp.87-102, 2018年12月

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/7000013796>

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）

① 歴博

機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」（研究代表：後藤真）

③ 機構

ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」（事業代表：天野真志）

2 外部資金による研究

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25H00489/>

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PLANNED-25H01239/>

4 主な展示・資料活動

勝尾寺宝物館収蔵庫悉皆調査（2025.8.26～28, 9.8～10, 2026.3.9～11）

能登半島地震・水害の被災史料整理（2025.6.8, 7.27, 11.24, 12.14, 2026.2.1）

5 教育

茗溪学園中学校高等学校，千葉県立津田沼高等学校，兵庫県立御影高等学校の授業協力

三 社会活動等

1 館外における各種委員

歴史資料ネットワーク事務局長，歴史資料ネットワーク運営委員，高大連携歴史教育研究会事務局次長，京都民科歴史部会委員

賀 申杰 GA Shiketsu プロジェクト研究員（2020.4～）

生年：1989

【学歴】中国人民大学歴史学部卒（2011），東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本史学修士課程修了（2015），東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本史学博士課程修了（2020）

【職歴】人間文化研究機構国立歴史民俗博物館プロジェクト研究員（2020）

【学位】文学博士（東京大学，2020年取得）

【専門分野】日本近代史

【主な研究テーマ】日本近代の造船業

【所属学会】史学会，軍事史学会，東アジア史学会

●主要業績

【論文】「明治後期の川崎造船所における外国発注艦建造問題に関する一考察」、『史学雑誌』126編7号，2017年7月

【論文】「日清戦争以前の外国船修理問題：東京石川島造船所を中心に」、『東京大学日本史学研究室紀要』24巻，2020年3月

【論文】「横須賀造船所の外国船修理事業：明治一六年海軍軍拡以前を中心に」、『史学雑誌』130編2号，2021年2月

【論文】「日露戦争前の「揚武艦」輸出をめぐる対韓外交の一側面：在韓公使館の対応を中心に」、『軍事史学』56編4号，2021年3月

【論文】「日清・日露戦間期の官民造船業における修理船の事業構造——外国船の修理を手掛かりに——」、『史学雑誌』133編3号，2024年3月

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/heshenjie>

二 主な研究教育活動

2 外部資金による研究

科学研究費若手研究「1900～1910年代日本の艦船輸出の性格構造—外需形成と武器移転の視点から」研究代表者、2023～2025年度

川邊 咲子 KAWABE Sakiko 特任助教（2022.4～2025.7）

【学歴】金沢大学人間社会学域人文学類（2013年卒業）、金沢大学大学院人間社会環境研究科地域創造学専攻博士前期課程（2016年修了）、金沢大学大学院人間社会環境研究科人間社会環境学専攻博士後期課程（2021年修了・学位取得）

【職歴】日本学術振興会特別研究員DC2（2018.4～2019.5）人間文化研究機構国立歴史民俗博物館プロジェクト研究員（2019.5～2022.3）

【学位】博士（学術）（金沢大学大学院2021年取得）【専門分野】文化資源学、博物館学、文化人類学【主な研究テーマ】民具資料論、民具資料とその情報の保存・活用・継承、人とモノの関係性【所属学会】日本民具学会、文化資源学会

●主要業績

1. 【著書】『集まる民具、集める人：民具収集の文化人類学的考察と「緩やかな保存」』298ページ、春風社、2025年2月
2. 【論文】川邊 咲子「民具の「緩やかな保存」考—物のライフサイクルの視点から—」『農村計画学会誌』41-1, pp.6-9, 2022年
3. 【論文】Sakiko Kawabe「Formation of an Everyday Object Collection through the Perspectives of an Ifugao Indigenous Community's Collector and Contributors」『The Cordillera Review : A Journal of Philippine Culture and Society』12- 1 & 2, pp.93-126, 2022年（査読あり）
4. 【学会・外部研究会発表】Sakiko Kawabe, Yenling Cho, Yuta Hashimoto, Masaharu Hayashi, Hiroshi Horii, Misato Horii, Keisuke Nakamura, Ayumi Ogawa, Shiho Sasaki, Yoshihiro Takata, Kazutsuna Yamaji, Shunsuke Yamashita「Community building for information collection and documentation on local everyday objects : an examination of the synergy of a crowdsourcing system and events」CIDOC2023, Museo Universitario Arte Contemporáneo (Mexico City), 2023年9月26日（査読あり）
5. 【科研】基盤研究（C）「地域民具コレクションの整理手順のモデル化と緩やかな保存についての実践的研究」21K01073, 2021年4月～2025年3月

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

https://researchmap.jp/skk_kawabe

二 主な研究教育活動

1. 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）

① 歴博

- ・機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」、共同研究員
- ・ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」歴博拠点「共創的資料保存の構築に向けたネットワーク研究拠点」、共同研究員
- ・広領域連携型基幹研究プロジェクト「横断的・融合的地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」：歴博ユニット「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」、共同研究員

2. 外部資金による研究

- ・科学研究費・学術変革領域研究（A）「歴史情報記録方法の高度化」研究代表者 <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PLANNED-25H01240/>
- ・科学研究費・基盤研究（C）「歴史情報学の創成」研究分担者 <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI->

ORGANIZER-25H01238/

3. 国際交流事業

バンドン工科大学（インドネシア）との包括連携協定に基づく研究教育活動

三 社会活動等

1 館外における各種委員（学会、学術会議、文化庁・学振・自治体審議委員など）

・民俗資料収集・保存方針等検討委員（奈良県）

川村 清志 KAWAMURA Kiyoshi 准教授（2012.4～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授（2023年度～）、生年：1968

【学歴】大阪大学文学部（1992年3月卒業）京都大学人間・環境学研究科大学院（修士）（1996年3月修了）京都大学人間・環境学研究科大学院（博士）（1999年3月単位取得退学）

【職歴】神戸学院大学人文学部地域研究センターP.D.（2002）、札幌大学文化学部日本語・日本文化学科助教（准）教授（2005）、同教授（2009）大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2012）、総合研究大学院大学日本歴史研究専攻准教授併任（2014）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任（2023）

【学位】学術博士（京都大学人間・環境学研究科）（2003年取得）【専門分野】文化人類学、民俗学【主な研究テーマ】口頭伝承の近代的展開、祭礼芸能の実践と習得過程の探求、メディアによる民俗文化の再表象過程、現代日本のサブカルチャーと伝統文化など【所属学会】日本民俗学会、日本口承文芸学会、京都民俗学会

●主要業績

1. 【単著】『クリスチャン女性の生活史—「琴」が歩んだ日本の近・現代』青弓社、292頁、2011年1月
2. 【論文】「近代における民謡の成立—富山県五箇山地方「こきりこ」を中心に」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第165集、pp.175-204、2011年3月）（査読有）
3. 【論文】「祭りの習得と実践：子どもによる準備過程を中心に」（『比較文化論叢：札幌大学文化学部紀要』25、pp.7-54、2010年12月）
4. 【論文】「芸能への参入と習得—兵庫県明石市大蔵谷獅子舞の事例から」（後藤静夫編『日本伝統音楽研究センター研究報告5「近代日本における音楽・芸能の再検討」』pp.187-199、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、2010年3月）
5. 【論文】「移動する身体と故郷の物語の行方—移動によって見いだされた故郷と移動のなかで変容する故郷」（『歴史博研究報告「共同研究」人の移動とその動態に関する民俗学的研究』199集、pp.143-170、2015年12月）

●2025年度の研究教育活動

川村 清志（Kawamura Kiyoshi）-マイポータル- researchmap

一 研究業績

1 著書（単著・共著・編著・監修）

原田和彦、大本敬久、泉田邦彦、島立 理子、川村清志、高科真紀、西村慎太郎、真柄 侑『地域の歴史・文化とアーカイブズ—博物館の活動を中心に—』、国立歴史民俗博物館、2025年6月

山内宏泰、谷口大造、関口正洋、川村清志、志田淳、白田亜悠『強く優しく美しいまちをデザインする～過去・現在・未来をつなぐ関係構築のために～』、国立歴史民俗博物館、2026年2月

2 論文（査読あり、なしを明記）

川村清志「祭りがデザインするコミュニティ・イメージ」『強く優しく美しいまちをデザインする～過去・現在・未来をつなぐ関係構築のために～』国立歴史民俗博物館、2026年2月

川村清志「連詩が紡ぐモノ語りの共創—第三回奥能登国際芸術祭のワークショップから—、『口承文芸研究』49、2026年3月（査読有）

3 調査・発掘調査報告書、自治体史・史料集、辞典など

川村清志、書評『民話という視座：非戦・反戦の思想と行楽・観光のはざまに』、『日本民俗学』325、2026年

2月

4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発

川村清志『珠洲市の文化財レスキュー—能登半島地震と文化財』、歴博映画の会、2026年1月

川村清志『能登半島地震 復興の行方 国立歴史民俗博物館』、歴博映画の会、2026年1月

5 学会・外部研究会発表

川村清志「地域社会の自己表象としての故郷とその重層性—輪島市七浦小学校の事例から」鹿児島県奄美大島、日本民俗学会第77回年会、2025年11月

川村清志「ターミナルケアとしての文化財レスキュー—能登半島地震の被災地の事例より—」京都府京都市佛教大学、京都民俗学会、京都民俗学会第44回年次研究大会、2025年12月

川村清志「民俗映像のアーカイブズは可能か？—作品と資料、全体と部分の相剋のロンド—」東京大学、現代民俗学会、現代民俗学会第82回定例研究会、2025年12月

7 その他（『REKIHAKU』、友の会ニュース、『本郷』など）

川村清志「集団の死とモニュメント—日本の自然災害モニュメントを中心に—」、国立歴史民俗博物館、『第122回歴博フォーラム“さまざまな死から社会をよむ”』、2025年9月

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

③ 機構（基幹研究プロジェクト）

「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」（研究代表者：川村清志）、（2022年度～2027年度）

2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金、各種補助金による研究、企業・自身体による研究）

紀伊半島沿岸部の漁労集団と言語（研究分担者）

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K00075/>

現代における「山の神」祭事の変容：林業経営体への担い手変化に着目して（研究分担者）

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25K09212/>

5 教育（総研大シンポ、大学院セミナー担当、大学非常勤講師、学位審査の主査・副査・委員、博物館活動、教育プログラムなど）総合研究大学院大学（人類文化コース）学位審査、副査（山本恭正「道の文化遺産実践と地域社会—熊野地方における文化的景観の創出に関する一試論」）

神戸 航介 KANBE Kosuke 准教授（2025.11～）

生年：1988

【学歴】京都大学文学部人文学科（2011年卒業）、東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本史学専門分野修士課程（2013年修了）、東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本史学専門博士課程（2018年修了）

【職歴】宮内庁書陵部編修課研究官（2019）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2025）

【学位】文学博士（東京大学）（2018年取得）【専門分野】日本古代史【主な研究テーマ】奈良・平安時代の財政史、宮廷儀礼史【所属学会】史学会、日本歴史学会、木簡学会、法制史学会、東方学会【研究目的・研究状況】近年は、平安時代の中央財政と地方支配の関係、および天皇即位儀礼の沿革についての研究を進めている。

●主要業績

1. 【単著】『日本古代財務行政の研究』吉川弘文館、396頁、2022年9月
2. 【論文】皇位継承と「如之在儀」（『日本歴史』913号、pp.1-17、2024年6月）（査読付き）
3. 【論文】大嘗祭用途調達制度と行事所（『国立歴史民俗博物館研究報告』第244集、pp.167-186、2024年3月）（査読付き）
4. 【共著】『摂関・院政期研究を読みなおす』思文閣出版、387頁、担当箇所pp.37-61、2023年11月
5. 【論文】押小路本『即位式』と『儀式』の写本系統（『書陵部紀要』第72号、pp.1-14、2020年3月）

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/sgs-kanbe>

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

③ 機構

広領域型基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学の拡張的研究」ユニット「延喜式のデジタル技術による汎用化」共同研究員（2022～2027年度）

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

機構共同研究において公開研究集会「古代資料からみる鹿—『延喜式』を中心に—」を開催し、会の運営および当日の司会を担当した。本研究に関連する論文1編を執筆し、論文集に寄稿した。また、前職において調査した未紹介資料『諒闇部類記』の翻刻・解題を作成し、資料紹介として掲載された。

工藤 航平 KUDO Kohei 准教授（2022.4～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任（2024年度～）

【学歴】東京学芸大学教育学部（2000年卒業）、東京学芸大学大学院教育学研究科社会科教育専攻修士課程（2004年修了）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻博士課程（2010年修了）

【職歴】埼玉県立文書館 公文書担当嘱託職員、国文学研究資料館 研究部機関研究員、東京都公文書館 史料編さん担当公文書館専門員、国立歴史民俗博物館 研究部 歴史研究系准教授（2022年～）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任（2024年～）

【学位】博士（文学）【専門分野】日本近世史、地域文化史、アーカイブズ学【主な研究テーマ】近世社会における知識の多様性とその構築・継承プロセスの解明、民間所在資料の保全・活用【所属学会】地方史研究協議会、日本歴史学協会、日本アーカイブズ学会、日本教育史研究会、関東近世史研究会

●主要業績

1. 【著書】『近世蔵書文化論—地域〈知〉の形成と社会—』457頁、勉誠出版、2017年11月
2. 【共編著】『REKIHAKU 12 蔵書をヒラク』、国立歴史民俗博物館、2024年6月
3. 【単編著】『資料図録14 棟梁鈴木家資料 江戸城御殿造営関係絵図面』、国立歴史民俗博物館、2025年3月
4. 【論文】「日本近世社会における知識形成と蔵書文化」、歴史学研究会『歴史学研究』第1031号、pp 1-11頁、績文堂出版、2023年1月、査読有
5. 【論文】「幕末期江戸周辺における地域文化の自立」、関東近世史研究会『関東近世史研究』第65号、pp 4-50、関東近世史研究会、2008年10月、査読有
6. 【論文】「北海道所在の民間アーカイブズの特質—分割管理された「移住持込文書」の伝来と意義—」、国文学研究資料館編『社会変容と民間アーカイブズ—地域の持続へ向けて—』、pp97-29、勉誠出版、2017年3月
7. 【論文】「歴史学研究者アーカイブズの特質と意義—啓静文庫の保全活動を事例に—」、『歴史評論』911、pp15-26、2026年3月

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

https://researchmap.jp/kudo_kohei

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基盤研究「館蔵資料型」「平田篤胤関係資料の漢籍受容に関する総合的研究」、研究副代表、2024年度-2027

年度

③ 機構（基幹研究プロジェクト）

機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」，共同研究者

ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」，共同研究者共創促進研究日本関連在外資料調査研究「外交と日本コレクション—19世紀在外日本資料の世界史的
文脈による研究と現地およびオンライン空間における活用」，共同研究者

2 外部資金による研究

日本学術振興会科学研究費助成 基盤研究（B）「歴史学研究者アーカイブズの研究資源化とプラットフォーム構築」，研究代表者，2024年度-2027年度

日本学術振興会科学研究費助成 学術変革領域研究（A）「歴史情報記録方法の高度化」，研究分担者，2025年度-2029年度

日本学術振興会科学研究費助成 基盤研究（A）「エジプト所在の日本美術品調査」，研究分担者，2025年度-2029年度

日本学術振興会科学研究費助成 基盤研究（A）「近世経営複合体にみる多層的利益空間の復元と構造化されたアーカイブズの確立研究」，研究分担者，2025年度-2029年度

日本学術振興会科学研究費助成 基盤研究（C）「移住社会における記憶と歴史意識に関する研究—明治初年の北海道開拓移住を事例に—」，研究分担者，2025年度-2028年度

3 国際交流事業（国際交流協定にもとづく事業，国際シンポジウム・集会など）

「日韓共同による民俗研究の新構築」，韓国国立民俗博物館，共同研究員，2024年度-2027年度

4 主な展示・資料活動

企画展示プロジェクト「旗本とはなにか（仮）」，代表者，2024年度-2026年度

企画展示プロジェクト「時代を映す錦絵—浮世絵師が描いた幕末・明治—」，副代表者，2023年度-2025年度

企画展示プロジェクト「東アジアの耕織図（仮）」，委員，2025年度-2027年度

企画展示プロジェクト「大葬式展（仮）」，委員，2025年度-2027年度

5 教育活動

昭和女子大学大学院 生活機構研究科・非常勤講師

三 社会活動等

1 館外における各種委員

地方史研究協議会・常任委員日本アーカイブズ学会・委員東京歴史科学研究会・監査

千葉県市原市歴史博物館協議会・委員

千葉歴史・自然資料救済ネットワーク・共同代表

2 講演・カルチャーセンターなど

国立歴史民俗博物館「国立歴史民俗博物館所蔵「江戸図屏風」について」，国立歴史民俗博物館登録ボランティア研修会，2025年4月14日

歴史民俗博物館友の会「小金井桜の名所化と江戸時代の出版文化」，歴史民俗博物館友の会歴史講座，2025年4月24日

歴史民俗博物館友の会「イチから学ぶ古文書（前期）」，2025年4月17日，5月15日，6月19日，7月17日，8月21日，9月18日

歴史民俗博物館友の会「イチから学ぶ古文書（後期）」，2025年10月16日，11月20日，12月18日，1月15日，2月19日，3月19日

4 社会連携（国内）

① 刊行物

立川市史編さん近世部会編『立川市史』，資料編近世2，東京都立川市

③ 講演会・シンポジウム（自治体など地方公共団体主催のもの）

市原歴史博物館「古文書講座入門編」，2025年6月20日，6月27日，7月11日

人間文化研究機構×大手町アカデミア「江戸時代の本棚—蔵書が語る知の形成・共有・継承」，オンライン講座，2025年10月8日

泉大津市立図書館「本の“かたち”から歴史・文化を読み解く」地域の歴史・文化再発見講座，2026年3月

12日

小池 淳一 KOIKE Jun' ichi 教授 (2011～)

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授（2023年度～），生年：1963

【学歴】東京学芸大学教育学部（1987年卒業）筑波大学大学院博士課程歴史人類学研究科（一貫制）（1992年単位取得退学）

【職歴】弘前大学人文学部講師（1992），弘前大学人文学部助教授（1994），愛知県立大学文学部助教授（2001），国立歴史民俗博物館民俗研究部助教授（2003），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2006），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2011），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2011），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長（2014-15），総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023）

【学位】博士（文学）（総合研究大学院大学）【専門分野】民俗学（民俗信仰，口承文芸，民俗学史），伝承史

【主な研究テーマ】民俗における文字文化の研究，陰陽道の展開過程の研究，地域史における民俗の研究など

【所属学会】日本民俗学会，日本宗教学会（理事），日本昔話学会，日本口承文芸学会，日本文化人類学会，地方史研究協議会，日本史研究会，日本民具学会，儀礼文化学会，青森県民俗の会，福島県民俗学会ほか

●主要業績

1. 【編著書】『新陰陽道叢書（第四巻）民俗・説話』635頁，名著出版，2021年10月
2. 【著書】『あおもりの伝承と民俗』254頁，青森文芸出版，2026年3月
3. 【著書】『陰陽道の歴史民俗学的研究』442頁，角川学芸出版，2011年2月
4. 【論文】「『簠簋』攷—中世写本を中心に— 附 天正十二年写本（歴博本）影印—」『国立歴史民俗博物館研究報告』247, pp.69-116, 2024年3月
5. 【展示図録】歴博企画展示図録『陰陽師とは何者か—うらない，まじない，こよみをつくる—』，国立歴史民俗博物館，全326頁，2023年10月

●2024年度の研究教育活動 <https://researchmap.jp/koikej?lang=ja>**一 研究業績****二 主な研究教育活動**

- 1 主な共同研究等参加状況
- 2 外部資金による研究
科学研究費基盤研究C「口頭伝承資料の分析と多角的発信に関する研究」（2023～2025年）研究代表者
科学研究費基盤研究C「古代～近代陰陽道史料群の歴史的変遷と相互関係の解明」（京都女子大学，2021～2023年），研究分担者
科学研究費基盤研究A「宗教テキスト文化遺産アーカイブス創成学術共同体による相互理解知の共有」（龍谷大学，2022～2026年），研究分担者
- 4 主な展示・資料活動
- 5 教育
成城大学大学院文学研究科非常勤講師（日本民俗学研究）

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員
日本宗教学会理事
八千代市文化財審議会委員
- 2 講演
「ろくろと万年筆—近代文字文化の基盤—」
「本地師シンポジウム—伝統の継承と近代化—」（滋賀県東近江市 アピアホール）

2025年11月8日 東近江市・木地師のふるさと発信事業実行委員会

四 活動報告

1 受賞歴

令和7年度 青森県文化賞（地方文化〔民俗学〕）

2025年11月4日（青森県）

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

陰陽道の日本宗教文化史における位相

陰陽道が、仏教、神道、修験道といった日本宗教の史的展開のなかで、どのような位置を占め、どういった機能を果たして来たのか、主として歴史民俗学的手法により、調査・分析を行った。特に地域社会にどのように浸透していき、その際にどういった特色を形成するのか、といった点について検討を進めた。

昨年度に引き続き、福井県若狭地方における大將軍神閔連の民俗信仰にまつわる調査・分析を進める一方で、暦注などを介して陰陽道が地域に展開する様相についても検討を行なった。成果としては『あおりの伝承と民俗』（青森文芸出版、2026年3月）、「暦の普及と歳徳神」（『日本常民文化紀要』40輯、2026年3月）ほか。

小風 尚樹 KOKAZE Naoki 特任准教授（2025.10～）

併任：人間文化研究機構本部人間文化研究創発センター 特任准教授，生年：1989

【学歴】 東京大学文学部西洋史学専門分野（2014年卒業），東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻西洋史学専門分野修士課程（2016年修了），キングス・カレッジ・ロンドン デジタル・ヒューマニティーズ修士課程（2019年修了），東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻西洋史学専門分野博士課程（2025年単位取得満期退学）

【職歴】 日本学術振興会特別研究員DC2（2017.4～2018.9），東京大学史料編纂所 特任研究員（2019.10～2020.3），国立歴史民俗博物館リサーチアシスタント（2019.11～2020.3），千葉大学人文社会科学系教育研究機構 助教（2020.4～2025.3），千葉大学人文科学研究院 助教（2025.4～2026.3），人間文化研究機構本部人間文化研究創発センター 特任准教授（2025.10～），国立歴史民俗博物館研究部 特任准教授併任（2025.10～）

【学位】 文学修士（東京大学）（2016年取得），Master of Arts in Digital Humanities（King's College London）（2019年取得）【専門分野】 イギリス近代史・人文情報学・歴史情報学【主な研究テーマ】 モノの歴史からみる近代イギリス海軍の旧式艦・会計史料の構造化による高度活用【所属学会】 史学会・情報処理学会・Japanese Association for Digital Humanities【研究目的・研究状況】 過去の人間が記録を残す行為にはたらいたであろう力学や痕跡といった暗黙知を，情報技術の力も借りながら明示的な知識として記述すること。2025年度からは学術変革領域研究（A）「歴史情報学の創成」の一端を担う班代表として活動している。

●主要業績

1. 【著書】『欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識』小風尚樹・小川潤・櫻田宗紀・長野壮一・山中美潮・宮川創・大向一輝・永崎研宣（共編著），文学通信，495頁，2021年7月
2. 【著書】（分担執筆）『データサイエンスが拓く歴史学』小風尚樹「総論 計算と解釈の間：歴史家のデジタル・キッチンへようこそ」大月書店，264頁，2025年5月
2. 【共著論文・筆頭著者】‘Contabilizar el Comercio Imperial: Analysis of Early Double-entry Accounting Books with TEI/DEPCHA’, *Digital Scholarship in the Humanities*, Vol. 40 (Supplement_1), 2024, pp.i39-i45.
3. 【共著論文・筆頭著者】‘Toward a Model for Marking up Non-SI Units and Measurements’, *Journal of the Text Encoding Initiative*, Issue 12, 2019.
4. 【単著論文・査読有】「イギリス海軍における節約と旧式艦の処分：クリミア戦争からワシントン海軍軍縮条約を中心に」『国際武器移転史』第8号，2019年7月，127-156頁

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

https://researchmap.jp/naoki_kokaze を参照のこと

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

機関拠点型基幹研究「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」(2022年度～) 共同研究員

共同研究「延喜式のデジタル技術による汎用化」(2022年度～) 共同研究員

2 外部資金による研究(科学研究費などの外部資金, 各種補助金による研究, 企業・自身体による研究)

<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000080880161/> を参照のこと

三 社会活動等

1 館外における各種委員

日本西洋史学会, 『西洋史学』編集委員

東アジアブリテン史学会, ウェブサイト管理委員

Japanese Association for Digital Humanities, Co-opted Member

2 講演・カルチャーセンターなど

'Digital History Education grounded in Theory and Practice', 2025 Digital History Seminar hosted by Hanyang University, 2025年4月26日

「數位詮釋學與史料批判的實踐：為數位歷史學家而設計的教育」2025數位人文跨域創新國際研討會, 2025年10月31日, 南臺科技大學

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

生成AI技術の急速な進展を踏まえ, イギリス海軍の艦船キャリア記述を対象とした構造化・分析の実践研究を行った。この成果は, 延喜式や正倉院文書をはじめとする史料の構造化作業への応用を見据えたものであり, 代表科研の課題である「歴史の思考をコンピュータで表現する手法の探究」に新たな視座を加えるものである。他にも, Text Encoding Initiativeを用いた会計史料の構造化をテーマとする日欧比較研究会を計2回開催し, 国際的視野からの方法論的検討を進めた。

小瀬戸 恵美 Koseto-Horyu, Emi 准教授(2010.1～)

併任: 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授(2023年度～)

【学歴】東京大学理学部化学科(1995年卒業), 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻博士後期課程(2000年中途退学)【職歴】アメリカ合衆国ゲティ保存研究所グラジュエイトインターン(1999)

国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手(2000), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手(2004), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教(2007), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授(2010), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授(2013), 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任(2023)

【学位】文化財修士(東京藝術大学)(1998年取得)【専門分野】保存科学, 文化財保存学【主な研究テーマ】展示評価の手法と検討, 博物館施設における資料劣化原因・過程に関する研究【所属学会】全日本博物館学会, 文化財保存修復学会, 日本文化財科学会, 国際博物館会議(International Committee of Museum, ICOM), International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works (IIC)【研究目的・研究状況】博物館における研究展示において視線計測などの非接触・非言語による展示評価手法の検討と考察を目的としている。同時に, 文化財を対象に自然科学的手法による分析・調査を行い, 他分野との協業によって文化財構成物質の流通や人の文化的交流についての考察をおこなっている。

●主要業績

1. 【論文】「常呂川河口遺跡墓壇出土ガラスの自然科学的分析」(『常呂川河口遺跡』8, pp.297-303, 2008年3月)

2. 【論文】「2. 連携研究機関における生物被害対策の現状と課題 国立歴史民俗博物館の生物生息調査」(『有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成』 pp.125-132, 2008年2月)
3. 【論文】「ラマンイメージング装置による伊勢市版歌川派錦絵および版木の色材分析」(共著/坂本章, 落合周吉, 東山尚光, 増谷浩二, 木村淳一)(『国立歴史民俗博物館研究報告』第153集, pp.1-19, 2009年3月)(査読有)
4. 【論文】「Raman studies of Japanese art objects by a portable Raman spectrometer using liquid crystal tunable filters」(共著 Akira Sakamoto, Shukichi Ochiai, Hisamitsu Higashiyama, Koji Masutani, Jun-ichi Kimura, Mitsuo Tasumi)(『Journal of Raman Spectroscopy』, Vol.43, pp.787-792, 2012年6月, published online on October 27)(査読有)
5. 【論文】「A Pilot Study on the Museum Visitors'Interest by using Eye Tracking System」The Eighth Conference of Japanese Association for Digital Humanities (JADH2018) proceeding, pp.129-131, 2018年9月9日(査読有)

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/ekoseto>

二 社会活動等

- 2 科学研究費基盤研究(B)「戦時下における「墨塗り学校日誌」の全国調査と総合的研究」研究分担者2025年～2026年度

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

本年度は展示室・特集展示などの結果をもとに精細な解析・再解析をおこなった。また、成果をまとめた論文作成を行った。これは歴博あるいは総研大の研究報告に投稿予定である。長年の課題である被験者の確保が難しく、本年度も確保ができなかったため、満足のいく調査ができなかったことが課題である。

後藤 真 GOTO Makoto 准教授(2015.9～)

生年: 1976

【学歴】岡山大学文学部歴史文化学科(2000年卒業), 大阪市立大学大学院文学研究科哲学歴史学専攻前期博士課程(2002年修了), 大阪市立大学大学院文学研究科哲学歴史学専攻後期博士課程(2007年修了)

【職歴】日本学術振興会特別研究員(PD)(2007.4～2008.3), 花園大学文学部文化遺産学科 専任講師(2009.4～2014.9), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構本部特任助教(2014.9～2015.8), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任(2019.4～)【学位】博士(文学)(大阪市立大学)(2007年取得)【専門分野】人文情報学・総合資料学・日本古代史【主な研究テーマ】歴史資料の情報化による高度活用【所属学会】日本史研究会・正倉院文書研究会・木簡学会・情報処理学会・Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO), Japanese Association for Digital Humanities,

●主要業績

1. 【著書】『歴史情報学の教科書』後藤真・橋本雄太(共編著), 文学通信, 208頁, 2019年3月
2. 【著書】『情報歴史学入門』後藤真, 田中正流, 師茂樹, 金壽堂出版, 184頁, 2009年3月
3. 【著書】(分担執筆)『歴史研究と〈総合資料学〉』後藤真「日本における人文情報学の全体像と総合資料学」208頁, 2018年2月
4. 【論文】「アーカイブズからデジタル・アーカイブへー「デジタルアーカイブ」とアーカイブズの邂逅ー」後藤真(『アーカイブのつくりかた』NPO知的資源イニシアティブ編, 勉誠出版, 2012年11月)
5. 【学会・外部研究会発表】2015年7月2日, “Digitalization of Shosoin Monjo and Extraction of Knowledge”, Makoto GOTO, Motomu NAITO, (Annual international conference of the Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO), University of Western Sydney, Australia)(査読有)

●2025年度の研究教育活動

Researchmap https://researchmap.jp/mak_goto

齋藤 努 SAITO Tsutomu 教授 (2009.4～2026.3)

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023年度～)，生年：1961

【学歴】東京大学理学部化学科 (1983年卒業)，東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程 (1988年修了)

【職歴】東京大学教養学部非常勤講師 (1988)，国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手 (1988)，同助教授 (1999)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任 (2002)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授 (2004)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2007)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2009)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2009)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長併任 (2010～2011)，広報連携センター長併任 (2013～2015，2018～2019)，総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任 (2023)

【学位】理学博士 (東京大学) (1988年取得) 【専門分野】文化財科学 【主な研究テーマ】歴史資料の自然科学的手法による分析 (材質，技法，産地) 【所属学会】日本文化財科学会，文化財保存修復学会，日本中間子科学会 【研究目的・研究状況】美術品・工芸品・考古遺物などの歴史資料を対象として自然科学的な手法を用いて調査を行い，人文科学的な研究結果とあわせることによって，原料の流通や人の交流，使用されていた技術などについて考察を加える。また，伝統技術に関する実地調査や再現実験なども実施している。

●主要業績

1. 【単著】

『金属が語る日本史—銭貨・日本刀・鉄炮—』歴史文化ライブラリー355，吉川弘文館 (単著)，205頁，2012年11月

2. 【論文】

齋藤努，高橋照彦，西川裕一「古代銭貨に関する理化学的研究 —「皇朝十二銭」の鉛同位体比分析および金属組成分析—」IMES Discussion Paper No.2002-J-30，2002年9月 (査読なし)

3. 【論文】

齋藤努，土生田純之，亀田修一，福尾正彦，鄭仁盛，高田寛太，風間栄一，藤尾慎一郎，柳昌煥，趙榮濟「鉛同位体比分析による古代朝鮮半島・日本出土青銅器などの原料産地と流通に関する研究 —韓国嶺南地域出土・東京大学所蔵楽浪土城出土・宮内庁所蔵の資料などを中心に—」『考古学と自然科学』59，pp.57-81，2009年6月 (査読あり)

4. 【論文】

「刀匠の継承する伝統技術の自然科学的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第177集，pp.127-178，2012年11月 (査読あり)

5. 【論文】

「江戸期小判などの色揚げに関する自然科学的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第183集 (開館三〇周年記念論文集Ⅱ)，pp.1-51，2014年3月 (査読あり)

6. 【論文】

齋藤努，竹下聡史，反保元伸，土居内翔伍，橋本亜紀子，梅垣いづみ，久保謙哉，二宮和彦，三宅康博「負ミューオンを用いた丁銀の色付に関する非破壊分析」『文化財科学』84，pp.1-16，2022年2月 (査読あり)

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/kanimiso>

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

2 外部資金による研究

https://researchmap.jp/kanimiso/research_projects/44572089

<https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-23H00122>

https://researchmap.jp/kanimiso/research_projects/45527969

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

江戸時代に発行された銀銅合金の貨幣である丁銀には、色付という表面処理が施されていた。ミュオン非破壊分析法で系統的にデプスプロファイル調べてみたところ、それらは色付の深さに応じて大きく3種類に分けられることがわかった。江戸時代の絵巻や文書類には、それに対応すると推定される4種類の色付技法が記されているので、同様の再現実験を行い、グロー放電発光分析法によって、どのくらいの深さまで色付が及ぶのかを確認した。その結果、江戸時代の史料に記されていたり、先行研究で予測されていたりする技法が、デプスプロファイルによる分類に対応していることがわかった。

茨城県東海村のJ-PARCで行われた、ミュオンを使って日本刀の皮鉄と芯鉄の炭素濃度を非破壊で測定する共同研究に参加し、他の方法で分析した結果と比較した。

坂本 稔 SAKAMOTO Minoru 教授 (2013～)

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023年度～)

日本歴史研究コース長 (2025年度)

【学歴】東京大学理学部化学科 (1989年卒業)、東京大学大学院理学系研究科化学専攻修士課程 (1991年修了)、東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程 (1994年修了)

【職歴】国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手 (1994)、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授 (2004)、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007)、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2008)、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2013)、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2013)、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長 (2016-2018)、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任 (2023)

【学位】博士 (理学) (東京大学) (1994年取得) 【専門分野】文化財科学 【主な研究テーマ】同位体分析に基づく年代測定 【所属学会】日本文化財科学会、文化財保存修復学会、日本AMS研究協会、応用物理学会 【研究目的・研究状況】炭素14年代法を中心に、数値年代の獲得と精度向上に研究の重点を置く。

●主要業績

1. 【著書】坂本稔・横山操編『樹木・木材と年代研究』147頁、朝倉書店、2021年3月
2. 【論文】Minoru Sakamoto, Masataka Hakozaki, Takeshi Nakatsuka, Hiromasa Ozaki 「Radiocarbon dating of tree rings from the beginning and end of the Yayoi period, Japan.」『Radiocarbon』66巻6号, pp.1991-1999, 2017年12月
3. 【共同研究】坂本 稔編『歴史資料研究における年代測定の活用法に関する総合的研究』国立歴史民俗博物館研究報告176, 178頁, 2023年8月
4. 【外部資金】2022～2026年度科学研究費補助金 (基盤A) 「高精度単年輪14C測定による弥生から古墳期の暦年較正の高解像度化」研究代表者

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/read0196810>

二 主な研究教育活動

② 歴博

「弥生時代の洪水災害に対する人びとの選択と社会の変化」研究分担者 (2024～2026年度)

1 主な共同研究等参加状況

② 他の機関

文部科学省 共同利用・共同研究システム形成事業「学際領域展開ハブ形成プログラム」

宇宙地球環境科学と歴史学・考古学を結ぶ 超学際ネットワーク形成「激甚災害と年代測定グループ」研究分担者（2024～2033年度）

③ 機構

広領域連携型基幹研究プロジェクト「人新世に至る,モノを通した自然と人間の相互作用に関する研究」(代表: 陀安一郎) 歴博ユニット「同位体による年代・古気候・交流史研究」研究代表者, 2022～2026年度

2 外部資金による研究

科学研究費補助金(基盤S)「酸素同位体比年輪年代法の高精度化による日本列島の気候・生産・人口変動史の定量化」(研究代表者: 中塚武) 研究分担者, 2021～2025年度

科学研究費補助金(基盤B)「考古遺跡の高精度編年による人類史再構築のための国際的データベースの作成」(研究代表者: 工藤雄一郎) 研究分担者, 2022～2025年度

科学研究費補助金(基盤A)「高精度単年輪14C測定による弥生から古墳期の暦年較正の高解像度化」研究代表者, 2022～2026年度

科学研究費補助金(基盤A)「高精度年代体系による東アジア新石器文化過程—地域文化の成立と相互関係—」(研究代表者: 小林謙一) 研究分担者, 2022～2026年度

科学研究費補助金(学術変革領域: 計画研究C01班)「日本列島域における古環境変遷の研究」(研究代表者: 箱崎真隆) 研究分担者, 2023～2027年度

科学研究費補助金(基盤A)「囲壁施設・生産遺跡を中心とした初期遊牧国家の考古学的研究」(研究代表者: 臼杵勲) 研究分担者, 2023～2027年度

科学研究費補助金(基盤A)「『建築古材博物館』—法隆寺建造物古材を基点とするデータベース構築—」(研究代表者: 横山操) 研究分担者, 2024～2028年度

科学研究費補助金(基盤B)「戦時下における「墨塗り学校日誌」の全国調査と総合的研究」(研究代表者: 斉藤利彦) 研究分担者, 2025～2026年度

科学研究費補助金(挑戦的萌芽)「『もの』の価値学」(研究代表者: 出口康夫) 研究分担者, 2025～2027年度

科学研究費補助金(基盤A)「未踏区域「縄文時代前期」に到達する酸素同位体比標準年輪曲線の構築」(研究代表者: 箱崎真隆) 研究分担者, 2025～2029年度

科学研究費補助金(基盤C)「年代情報を活用した近世民家成立史研究」(研究代表者: 中尾七重) 研究分担者, 2025～2029年度

5 教育

千葉大学非常勤講師(博物館資料保存論)

三 社会活動等

1 館外における各種委員

日本文化財科学会評議員(2022年度～)

日本AMS研究協会運営委員(2017年度～)

4 社会連携

③ 講演会・シンポジウム

「バックヤード見学」, 市川学園市川中学校「職場体験」, 2025年8月20日, 国立歴史民俗博物館

千葉県立佐倉高校「佐倉アクティブSSH講座: 科学分析で過去を探る」, 2025年8月28日, 国立歴史民俗博物館

「年代を測るということ—炭素と酸素—」, 飛ノ台史跡公園博物館「縄文大学」, 2025年9月21日, 船橋市民文化創造館

2025年度総研大社会連携事業「未知への挑戦: 若手が語る最先端研究」, 2025年11月3～5日, 長野県飯田高校(事業実施責任者)

「炭素14年代法の現場から」, 令和7年度第3回印旛地区文化財行政担当者連絡協議会研修会, 2026年1月30日, 国立歴史民俗博物館

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

岐阜県瑞浪市大湫神明神社の御神木スギの、単年輪炭素14年代測定を実施した（AD1863～1852）。歴博設置の自動装置でグラファイトを調製し、原子力研究開発機構東濃地科学センターの加速器質量分析装置で測定を行った。なお昨年度までの産学連携共同研究に代わり、今年度から施設供用による測定となった。

佐川 享平 SAGAWA Kyohei 准教授（2024.4～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授（2024年度～）

【学歴】早稲田大学大学院文学研究科日本史コース博士後期課程満期退学（2012年度）

【職歴】早稲田大学大学史資料センター助手（2015～2017年度）・同助教（2018～2021年度）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館特任助教（2022～2023年度）

【学位】博士（文学）（早稲田大学）【専門分野】日本近現代史【主な研究テーマ】炭鉱における労働社会史、炭鉱関係資料の保全・活用【所属学会】民衆史研究会、アジア民衆史研究会、国際高麗学会日本支部、歴史学研究会【研究目的・研究状況】1910年代から増加する朝鮮人鉱夫に着目し、労働力として担った役割や炭鉱社会への影響を考察している。また、近年では、戦後の炭鉱労働や、労働災害の問題にも研究の射程を延ばしている。

●主要業績

1. 【著書】『筑豊の朝鮮人鉱夫 1910～30年代——労働・生活・社会とその管理』（世織書房、2021年3月）
2. 【共著】『歴博フォーラム くらしと仕事から近代をみる 家族の姿、個人の経験』（吉川弘文館、2026年3月）
3. 【論文】「戦間期日本の炭鉱業における朝鮮人鉱夫の役割と待遇」（『歴史学研究』1015, pp.108-117, 2021年10月）
4. 【論文】SAGAWA, Kyohei. "Toward a Full History of Coal Mining: Korean Miners in the Japanese Coal Industry, 1910s-1930s." *Journal of Northeast Asian History* 22, no. 1 (2026) : 171-199.
5. 【学会・外部研究会発表】
「戦間期日本の炭鉱業における朝鮮人鉱夫の役割と待遇」（2021年度歴史学研究会大会近代史部会、2021年5月23日）
「炭鉱の「歴史全体」を理解するために 戦時期以前の日本炭鉱業と朝鮮人鉱夫」（東北アジア歴史財団研究政策室日韓研究所主催日本近代産業遺産国際学術会議「ユネスコ世界遺産登録をめぐる葛藤と協力」、2024年11月19日）

●2025年度の研究教育活動

<https://researchmap.jp/7000011914>

二 主な研究教育活動

- 2 外部資金による研究
<https://researchmap.jp/7000011914>
- 4 主な展示・資料活動
総合展示第5・6室展示プロジェクト委員
- 5 教育
東京女子大学非常勤講師

笹本 美和 Sasamoto Miwa

研究部メタ資料学研究センター プロジェクト研究員（2025年12月～）

千葉大学大学院人文公共学府人文公共学専攻 博士後期課程（2025年4月～）

【学歴】静岡大学教育学部（2019年卒業）、千葉大学大学院人文公共学府人文科学専攻博士前期課程（2025年修了）

【職歴】浜松市社会福祉協議会正規職員（2019年4月～2023年3月）、千葉大学令和5年度卓越大学院採択者に係る特別リサーチ・アシスタント（2023年5月～2024年2月）、千葉大学令和6年度卓越大学院採択者に係る特別リサーチ・アシスタント（2024年5月～2025年2月）、国立歴史民俗博物館研究部メタ資料学研究センタープロジェ

クト研究員（2025年12月～）、日本学術振興会特別研究員（DC 2）（2026年 4 月～）

【学位】学士（教育学，2019年 3 月 静岡大学），修士（学術，2025年 3 月 千葉大学大学院）

【専門分野】文化人類学【主な研究テーマ】パプアニューギニアおよび日本国内における野生動物による獣害

【所属学会】日本文化人類学会，日本オセアニア学会

【研究目的・研究状況】野生動物による“獣害”とされる現象が，地域の政治経済的状况とどのように結びつきながら，どのような多種関係のなかで発生し，何が問題化されていくのかについて調査を行い，獣害とは何かを考えている。

●主要業績

1. 【論文】「文化人類学におけるデジタルヒューマニティーズの可能性と課題：オックスフォード大学サマースクールでの学びから」(*Journal of Applied Humanities* Vol. 1, pp.15-21, 2024年 3 月, 査読つき)
2. 【論文】「書評 Field Guide to the Patchy Anthropocene: The New Nature」(*Journal of Applied Humanities* Vol. 2, pp.139-146, 2025年 3 月, 査読つき)
3. 【修士論文】“いまここ”を形づくるものたち：パプアニューギニアから留学する人々の住まうランドスケープ（千葉大学大学院へ提出，2024年度）

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

1 調査報告

「その場に集うものたちとともに料理する：パプアニューギニアからの留学生のアイギルづくりを事例に」（『海域アジア・オセアニア NEWSLETTER』第 4 号, pp.57-67, 2026年 3 月）

2 学会発表

- ① *Prayer Practices of Papua New Guinean International Students Living in Japan*, JAWS/AJJ Joint Conference 2025, 2025年 4 月 5 日, 兵庫県立大学, 口頭（英語）
- ② 応答することから立ちあがるランドスケープ：故郷を近くに感じる砂浜の生成，日本文化人類学会 第59回研究大会，2025年 6 月 8 日, 筑波大学, 口頭

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」プロジェクト研究員（2025年度～）

② 他の機関

・科研 国際共同研究加速基金（海外連携研究）『パプアニューギニア在来バナナ及びイネの系統分析を通じた遺伝資源利用の展開』研究協力者（2025年度～）

・海域アジア・オセアニア研究（MAPS）京都大学拠点プロジェクト 研究協力者（2024年度～）

2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金，各種補助金による研究，企業・自身体による研究）

- ① 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）千葉大学 全方位・挑戦的融合イノベーター博士人材養成プロジェクト「パプアニューギニアケレマ山村のマルチスピーシーズ民族誌：外来種の導入と景観の変容」（2025年度）
- ② 日本学術振興会特別研究員（DC 2）「獣害をめぐるコスモポリティクス：パプアニューギニアケレマ周辺の多種関係と景観変容」（2026～2027年度）

三 社会活動等

講演

「世界へ踏み出す：女性フィールドワーカーによるパプアニューギニアでの調査を事例に」1210あかりんアワー 千葉大生が語る「わたしの研究」第14回「令和 6 年度 千葉大学学術研究学生表彰受賞者」，2025年11月11日，千葉大学

四 活動報告

研究・調査プロジェクト報告

「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」プロジェクトの一環として、ルーヴェン大学の研究員受け入れにあたり、多言語でのフォローアップと研究活動支援を行った。また、奥州ミュージアムラボの展示作業および運営、民具等資料情報の調査、鹿児島県与論町における古写真展の展示作業に従事した。

佐野 雅規 SANO Masaki 特任准教授 (2023.～2026.3)

【学歴】愛媛大学大学院連合農学研究科 (2007年修了) 【職歴】総合地球環境学研究所, 早稲田大学, Springer Nature, 名古屋大学, 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館特任准教授 (2023) 【学位】博士 (農学) 【専門分野】古気候学, 年輪年代学 【主な研究テーマ】樹木年輪を用いた過去の気候復元 【所属学会】日本文化財科学会, 日本地球惑星科学連合, 日本木材学会

●主要業績 (研究者になってこれまで行ってきた自身の研究の代表的なもの)

・著書 (単著・共著・編著・監修)

Sano, M., Xu, C., Dimri, A.P. and Ramesh, R. (2020) Summer monsoon variability in the Himalaya over recent centuries. In: A.P. Dimri, B. Bookhagen, M. Stoffel and T. Yasunari (Eds.), Himalayan weather and climate and their impact on the environment. Springer International Publishing, Cham, pp.261-280. DOI: 10.1007/978-3-030-29684-1_14

佐野雅規・鎌谷かおる・伊藤啓介・中塚 武 (2021) 気候変動が水稻生産力に与える影響の評価 ―現代の農業統計データおよび近世・中世の古文書記録からの推察― 『気候変動から読みなおす日本史 第1巻 新しい気候観と日本史の新たな可能性』中塚 武・鎌谷かおる・佐野雅規・伊藤啓介・對馬あかね 編. 臨川書店 pp.207-224.

・論文

Sano, M., Xu, C., and Nakatsuka, T. (2012) A 300-year Vietnam hydroclimate and ENSO variability record reconstructed from tree-ring $\delta^{18}\text{O}$. Journal of Geophysical Research 117, D12115, DOI:10.1029/2012JD017749

Sano, M., Tshering, P., Komori, J., Fujita, K., Xu, C., and Nakatsuka, T. (2013) May–September precipitation in the Bhutan Himalaya since 1743 as reconstructed from tree-ring cellulose $\delta^{18}\text{O}$. Journal of Geophysical Research: Atmospheres 118: 8399–8410, DOI: 10.1002/jgrd.50664

Sano, M., Dimri, A.P., Ramesh, R., Xu, C., Li, Z., and Nakatsuka, T. (2017) Moisture source signals preserved in a 242-year tree-ring $\delta^{18}\text{O}$ chronology in the western Himalaya. Global and Planetary Change 157: 73–82, DOI:10.1016/j.gloplacha.2017.08.009

●2025年度の研究教育活動 (成果を出す以前の研究・調査途中のものも含む)

一 研究業績 (公開, 発表, 刊行済みのもの)

- 1 著書 (単著・共著・編著・監修)
- 2 論文 (査読あり, なしを明記)
- 3 調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など
- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発
- 5 学会・外部研究会発表
- 6 総研大リーフレット
- 7 その他 (『REKIHAKU』, 友の会ニュース, 『本郷』など)

Researchmap

<https://researchmap.jp/fokienia>

二 主な研究教育活動 (共同研究, 調査, 展示, 教育等)

- 1 主な共同研究等参加状況 (歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究)
 - ① 歴博 (基幹・基盤・開発型, 国内交流事業)
 - ② 他の機関
 - ③ 機構 (基幹研究プロジェクト)
- 2 外部資金による研究 (科学研究費などの外部資金, 各種補助金による研究, 企業・自身体による研究)

年輪の酸素同位体比とストロンチウム同位体比を用いた木材の産地判別技術の開発

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PUBLICLY-24H01574/>

ストロンチウムと年輪酸素の精密な同位体地図に基づく木材の産地推定

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25H00498/>

澤田 和人 SAWADA Kazuto 准教授（2009.10～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授（2023年度～）

【学歴】大阪大学文学部美学科（1996年卒業）、大阪大学大学院文学研究科芸術史学専攻博士前期課程（1998年修了）

【職歴】財団法人大和文華館学芸部（1998）、国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手（2002）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2009）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2013）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任（2023）

【学位】文学修士（大阪大学）（1998年取得）【専門分野】染織史、服飾史、絵画史（絵巻）【主な研究テーマ】染織および服飾・衣装風俗に関する研究、野村正治郎に関する研究【所属学会】美術史学会

●主要業績

1. 【論文】「十徳の変遷—中世を中心に」（『美術史』147号、pp.36-53、1999年11月）
2. 【編著】『紅板締め—江戸から明治のランジェリー』（国立歴史民俗博物館平成23年度企画展示図録、164頁、2011年7月）
3. 【編著】『野村コレクション 服飾Ⅰ』（国立歴史民俗博物館資料図録9、348頁、2013年3月）
4. 【編著】『野村コレクション 服飾Ⅱ』（国立歴史民俗博物館資料図録10、356頁、2014年3月）
5. 【編著】『野村正治郎とジャポニズムの時代—世界に着物を広げた人物』（国立歴史民俗博物館令和7年度企画展示図録、180頁、2025年10月）

●2024年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/read0196826>

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基盤研究「欧文資料にみる近世初期日本の国際交流と文化・美術との相関」（研究代表：鷲頭桂）共同研究者（2025年度～2027年度）

③ 機構

機構共創先導プロジェクト「外交と日本コレクション—19世紀在外日本資料の世界史的文脈による研究と現地およびオンライン空間における活用」（研究代表：日高 薫）共同研究者（2022～2027年度）

2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金、各種補助金による研究、企業・自身体による研究）

科学研究費補助金基盤研究（A）「日本染織文化資源の再発見とその活用」に資する基盤研究」（研究代表：小山弓弦葉）研究分担者（2023～2028年度）

4 主な展示・資料活動

特集展示「野村正治郎の後継者—賤男の活動」（2025年10月28日～12月21日）展示プロジェクト代表

くらしの植物苑特別企画「季節の伝統植物」展示プロジェクト副代表

令和7年度企画展示「野村正治郎とジャポニズムの時代—着物を世界に広げた人物」（2025年10月28日～12月21日）展示プロジェクト代表

三 社会活動等

1 館外における各種委員（学会、学術会議、文化庁・学振・自治体審議委員など）

鳥取市大雲院調査委員会委員

2 講演・カルチャーセンターなど（友の会も含む）

第464回歴博講演会「とある着物コレクターの生涯―野村正治郎の足跡」(2025年11月8日)

4 社会連携（国内）

① 刊行物（自治体など地方公共団体刊行のもの：市史、発掘調査報告書など）

『因幡東照宮別当寺院 大雲院資料調査報告書』2「美術工芸品編」第2冊（鳥取市文化財調査報告書43, 2026年3月）

③ 講演会・シンポジウム（自治体など地方公共団体主催のもの）

「大雲院の染織作品について」（大雲院資料調査成果報告会因幡東照宮別当寺院の至宝, 2025年11月15日）

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

企画展示「野村正治郎とジャポニスムの時代―着物を世界に広げた人物」を開催し、成果の一端を公開した。

島津 美子 Shimadzu Yoshiko 准教授（2018.4～）

【学歴】金沢大学理学部卒（1999）、東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻（システム保存学）修士課程修了（2001）

【職歴】東京文化財研究所修復技術部研究補佐員（2001）、オランダ文化遺産研究所（Instituut Collectie Nederland）プロジェクト研究員（2004）、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所特別研究員（2008）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2013.7）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2018）

【学位】Ph.D.（アムステルダム大学）（2015年2月取得）【専門分野】保存科学【主な研究テーマ】歴史資料の彩色技法材料の調査研究【所属学会】文化財保存修復学会、国際文化財保存学会（IIC）、国際博物館会議保存国際委員会（ICOM-CC）【研究目的・研究状況】彩色材料およびその製造方法、彩色技法等を明らかにし、資料の帰属する時代や地域における技術レベルや素材の流通などを探る。近年は、中世の仏像彩色も視野に加え、国内の彩色資料についての技法材料調査研究をおこなっている。

●主要業績

1. 【論文】「近世近代における群青と洋紅」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第230集, pp.215-244, 2021年12月）
2. 【論文】島津美子・岡田靖「近世・近代の木彫仏像に施された彩色の技法と色材」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第230集, pp.135-167, 2021年12月）
3. 【論文】研究ノート「幕末明治期の錦絵に用いられた色材調査―赤色、黄色、緑色について―」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第200集, pp.83-96, 2016年1月）
4. 【調査報告】「伊能図にみられる彩色材料と技法」（『〈稿本・大名家本〉伊能図研究図録』（平井松午・島津美子編）、創元社, pp.323-330, 2022年3月）
5. 【報告書】Chemical and optical aspects of appearance changes in oil paintings from the 19th and early 20th century, Molart Reports 15. University of Amsterdam, 02/2015.

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/isola-y>

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

共同利用型「近世寺社建築における彫物評価に関する再検討―天沼俊一旧蔵資料に着目して―」（研究代表者：松山奈穂）、館内担当者、2022年度

2 外部資金による研究

科研基盤（B）最終版伊能図の製作過程と作図技法の解明—歴史GISを軸とした学際的アプローチ—（研究代表者：塚本章宏（徳島大学））、研究分担者、2023年度～2027年度

4 主な展示・資料活動（展示・資料・DBなど）総合展示第2室リニューアル委員会委員

5 教育

東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室 非常勤講師（「保存科学演習」担当）

三 社会活動等

1 館外における各種委員 文化財保存修復学会理事

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

彩色技法材料について、仏像彩色調査の結果を学会で発表したほか、彩色された四天王像調査に参加した。これまで近世・近代の資料が研究対象の中心であったが、これにより鎌倉時代まで範囲を広げることができた。

また館内資料については、館蔵天沼俊一旧蔵資料のコレクション調査を進め、資料の全容をほぼ明らかとした。とくに、コレクションの大半を占める大正から昭和前期に撮影された、国内外の歴史的建造物が被写体である写真資料の整理を進めた。

鈴木 卓治 SUZUKI Takuzi 教授（2017.1～）

広報連携センター長（2024～2025年度）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授（2023～）、生年：1965

【学歴】電気通信大学電気通信学部情報数理工学科（1988年卒業）、電気通信大学大学院電気通信学研究科情報工学専攻博士後期課程（1994年単位取得退学）、千葉大学大学院融合科学研究科情報科学専攻博士後期課程（2015年修了）

【職歴】国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手（1994）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007）、国立大学法人総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2016）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2017）、国立大学法人総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2017）、博物館資源センター長併任（2019～2020）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023）、広報連携センター長併任（2024～2025）、広報課長併任（2024.4～2024.9）

【学位】博士（学術）（千葉大学）（2015年取得）【専門分野】ソフトウェア学、色彩と画像の数理【主な研究テーマ】博物館における研究・展示・広報を支援するシステムの研究、とくにネットワーク、データベース、色彩と画像の情報処理【所属学会】情報処理学会、日本ソフトウェア科学会、日本色彩学会、情報知識学会

●主要業績

1. 【論文】Takuzi Suzuki, Misaki Kan'no, Noriko Yata, Yoshitsugu Manabe: Detection of transition of red colours on Nishiki-e printings from colour-corrected digital images, Journal of the International Color Association, Vol.14, pp.57-66 (2015-04-27)
2. 【論文】鈴木卓治：「蒔絵万年筆資料のマルチアングル画像撮影ならびに展開図作成のための技術開発」、『国立歴史民俗博物館研究報告』206号, pp.39-59, 2017年3月
3. 【展示】歴博常設展示の第3、第6、第4室各室のリニューアルならびに数多くの企画展示における情報端末の設置ならびに情報コンテンツの提供に関する業務に従事
4. 【展示】2016年度企画展示「デジタルで楽しむ歴史資料」、国立歴史民俗博物館、展示プロジェクト代表、2017年3月14日～5月7日
5. 【展示】2023年度企画展示「歴博色尽くし」、国立歴史民俗博物館、展示プロジェクト代表、2024年3月12日～5月7日

●2025年度の研究教育活動

二 主な研究教育活動

4 主な展示・資料活動

[総合展示] 第1室, 第3室, 第4室, 第5・6室各展示プロジェクト委員 (情報端末)

第3展示室デジタルコンテンツ開発 (2024～継続中, 旧コンテンツが現行PC下で動作しなくなったため同等機能のコンテンツを新造する)

5 教育 (総研大シンポ, 大学院セミナー担当, 大学非常勤講師, 学位審査の主査・副査・委員, 博物館活動, 教育プログラムなど)

国土館大学観光まちづくり学部非常勤講師 (博物館情報・メディア論, 木曜3限; 2024年度より)

総合研究大学院大学先端学術院日本歴史研究コース学位審査委員 (前山和喜「日本における黎明期の電子計算機の成立と受容—「計算実践の変容」と「計算センターの形成」—, 2026年3月)

歴史民俗資料館等専門職員研修会講師 (課題実習「調査研究の最近の動向 (3) 博物館DXの実践～教育と展示を例に～」, 大井将生特任准教授と共同, 2025年11月12日)

三 社会活動等

1 館外における各種委員

人間文化研究機構人間文化研究創発センター企画調整会議デジタル・ヒューマニティーズ (DH) 推進委員会委員 (2023年7月より継続中), 人間文化研究機構情報セキュリティ委員会委員 (2016年4月より継続中), 一般社団法人日本色彩学会代議員 (関東支部選出, 2021年5月より継続中), 一般社団法人日本色彩学会画像色彩研究会主査 (2014年4月より継続中), 一般社団法人画像電子学会デジタルミュージアム・人文学 (DMH) 研究委員会副委員長 (2025年4月より)

2 講演・カルチャーセンターなど (友の会も含む)

【講演】大人が楽しむ科学教室「デジタルカメラで錦絵の色を調べた話～錦絵画像のデジタルアーカイブと色彩分析～」, 千葉市科学館, 2026年1月11日

3 マスコミ (テレビ, ラジオ, 新聞, 雑誌など)

【特集記事編集】『『美術館・博物館の色と光』特集によせて (共同編集者: 室屋泰三)』, 色彩学 (日本色彩学会機関誌), Vol.5, No.1, p.4, 2026年2月20日

【特集記事執筆】『『歴博色尽くし』展における日本色彩学会とのコラボレーションについて (共著者: 日高杏子, 國本学史)』, 色彩学 (日本色彩学会機関誌), Vol.5, No.1, pp.18-21, 2026年2月20日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

令和7年度は常設展示第3展示室コンテンツ更新のためのソフトウェア開発に本経費を充当し, 作業のためのPCならびにAdobe Creative Studio等の開発用ソフトウェアの調達を行った。コンテンツの更新はほぼ3分の1まで終わったところである。

4 その他

これまでと同じく, 歴博と研究者・来館者をつなぐさまざまなデジタル技術について, 実際に動いて利用に供するものを生み出す努力を続けたい。

昨年に引き続き, 機器更新に伴う第3展示室デジタルコンテンツの開発 (リブレース) をすすめている。先代のコンテンツから, コンピュータの進歩にともない陳腐化した部分 (画像の解像度等) を補うため, 部分的に素材画像レベルからの再加工が必要となり, 時間がかかっている。令和8年度は作業を加速させたい。

関沢 まゆみ SEKIZAWA Mayumi 教授 (2011～)

併任: 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023年度～), 生年: 1964

【学歴】東京女子大学文理学部史学科 (1986年卒業), 筑波大学大学院地域研究研究科日本文化研究コース修士課程 (1988年修了)

【職歴】帝京大学文学部非常勤講師 (1993), 早稲田大学オープンカレッジ非常勤講師 (1993), 東京家政学院大学人文学部非常勤講師 (1994), 東京学芸大学教育学部非常勤講師 (1994), 筑波大学第二学群非常勤講師 (1996), 国立歴史民俗博物館民俗研究部助手 (1998), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授 (2004), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任 (2005), 大学共同利用機関法人

人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2011）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2011）、研究推進センター長併任（2013～2014、2017～2019）、副館長・研究総主幹併任（2021～2023）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023）

【学位】文学博士（筑波大学）（2001年取得）【専門分野】民俗学【主な研究テーマ】社会・信仰・儀礼に関する民俗学的研究、高度経済成長と民俗の変化【所属学会】日本民俗学会、日本文化人類学会、比較家族史学会

●主要業績

1. 【単著】『宮座と老人の民俗』266頁、吉川弘文館、2001年2月
2. 【単著】『隠居と定年—老いの民俗学的考察—』196頁、臨川書店、2003年3月
3. 【単著】『宮座と墓制の歴史民俗』305頁、吉川弘文館、2005年2月
4. 【単著】『現代「女の一生」—人生儀礼から読み解く—』244頁、NHK出版、2008年6月
5. 【単著】『盆行事と葬墓習俗の伝承と変遷—民俗学の視点と方法—』313頁、吉川弘文館、2025年5月

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

- 1 著書（単著・共著・編著・監修）

関沢まゆみ『盆行事と葬墓習俗の伝承と変遷—民俗学の視点と方法—』313頁、吉川弘文館、2025年5月10日（単著）

関沢まゆみ編『国立歴史民俗博物館研究報告』（特集号「水をめぐる生活世界—実用と信仰の視点から—」）2025年12月12日（単編著）
- 2 論文

「水をめぐる生活史—『奈良県風俗志』にみる水の利用と、洗うことの意味について—」『国立歴史民俗博物館研究報告』255, pp.161-174, 2025年12月12日（査読有り）

「柳田國男の民俗学の視点と方法に学ぶ」『伝承文化研究』23, pp.62-75, 2026年3月31日（査読無し）
- 3 口頭発表

「日本の田植えと女性の労働」韓国国立民俗博物館・国立歴史民俗博物館 第4回韓日学術交流国際学術大会「耕織図—韓日農耕生活文化—」, 2025年11月6日, 於：韓国国立民俗博物館,（同要旨集 pp.236-250）

「高度経済成長と生活変化—民俗学の視点から—」日本台湾交流協会「日本塾」第6期「90年代～現代日本を考える ～変わらない日本, 変わる日本～」, 2026年3月7日, 於：政治大学台北キャンパス
- 7 その他

「解説」斎藤たま『死ともののけ』角川ソフィア文庫, pp.380-388, 2025年8月25日

「月経をめぐる民俗—明治・大正・昭和—」『REKIHAKU』15, pp.22-26, 2025年6月26日

「初午」『REKIHAKU』17, pp.22-26, 2026年3月16日

「西陣台所模型—モノの視点から—」佐川享平・大串潤児・国立歴史民俗博物館編『歴博フォーラム くらしと仕事から近代をみる—家族の姿, 個人の経験—』吉川弘文館, pp.198-199, 2026年3月20日

「どうしてたなばたのとき たんざくをかけるのはさきなんですか？」全国学童保育連絡協議会『日本の学童保育』599, pp.38, 2025年7月1日

「Water in Japanese Life : A Look at Past and Present Water Culture Through Folklore」内閣府『Highlighting Japan』204, pp.6-9, 2025年6月

「お餅の歴史を知ろう—日本人の精神に深く根付くお餅の文化—」『ソラミドごはん』, 2025年9月

「あたらしい年をむかえるまえに大そうじをして福をよびこもう！」『朝日小学生新聞の特別号 朝小はじめてのしんぶん』, pp.1-2朝日学生新聞社, 2025年12月3日

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究「高齢多死社会における生前から死後への移行に関する総合的研究」2023～2025年度

基幹研究「東アジアにおける文化の伝播と地域的展開に関する学際研究—『耕織図』の日韓比較を中心とし

て一」2024～2026年度

4 主な展示・資料活動

総合展示第5室・第6室リニューアル委員

総合展示第6室「高度経済成長と生活の変貌」担当

5 教育

國學院大学大学院文学研究科兼任講師（民俗学特論）

三 社会活動等

1 館外における各種委員

栃木県重要文化財保護審議委員，新宿区文化財保護審議会委員，千代田区文化財保護審議会委員，川崎市文化審議会委員，千葉県博物館協議会委員，昭和館運営専門委員会委員，東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会委員，日本台湾交流協会日本研究支援委員会委員，2027年国際園芸博覧会政府出展懇談会委員，令和7年度食文化機運醸成事業委員，科学技術・学術審議会委員，南方熊楠賞選考委員，現代民俗学会会長（第9期）など

2 講演・カルチャーセンターなど

「民俗学的観点からの食文化」令和7年度食文化機運醸成事業，オンライン座談会，2026年2月20日

3 マスコミ

「Japanese Life and Culture A Journey Through 37,000 Years」NHK WORLD-JAPAN, 2025年12月6日，（第6展示室，団地について説明）

高田 貫太 TAKATA Kanta 教授（2021.1～）

研究推進センター長（2025年度）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授（2023年度～），生年：1975

【学歴】岡山大学文学部史学科（1997年卒業），岡山大学大学院文学研究科史学専攻修士課程（1999年修了），大韓民国慶北大学校大学院考古人類学科博士課程（2004年修了）

【職歴】大韓民国慶北大学校考古人類学科非常勤講師（2003），岡山大学埋蔵文化財センター助手（2004），奈良文化財研究所都城発掘調査部研究員（2006），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2010），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2011），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2021.1），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2021.1），総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023）

【学位】文学博士（大韓民国慶北大学）（2005年取得）【専門分野】考古学【主な研究テーマ】古墳時代における日本列島と朝鮮半島の交流史【所属学会】韓国嶺南考古学会，韓国考古学会【研究目的・研究状況】近年は，朝鮮半島西・南海岸における沿岸航路や寄港地の復元，その場における人々の草の根の交流の様相についての研究を進めている。

●主要業績

1. 【単著】『古墳時代の日朝関係』吉川弘文館，363頁，2014年3月
2. 【単著】『海の向こうから見た倭国』講談社，304頁，2017年2月
3. 【単著】『「異形」の古墳 朝鮮半島の前方後円墳』KADOKAWA，286頁，2019年9月
4. 【単著】『アクセサリーの考古学 倭と古代朝鮮の交渉史』吉川弘文館，273頁，2021年5月1日
5. 【単著】『渡来人とは誰か』筑摩書房，359頁，2025年8月10日

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績（公開，発表，刊行済みのもの）

1 著書

『渡来人とは誰か』筑摩書房，359頁，2025年8月10日

1 論文

「倭と古代朝鮮の交流史—朝鮮半島へ渡海した倭の人びとを訪ねて—」『遙かなる古墳時代の海へ 特別展開連講演会「古墳時代の海をめぐる交流の諸相」予稿集』，和歌山県立紀伊風土記の丘，pp.45-61，2025年10月12日

(日本語)

「」

5 学会・外部研究会発表

「5, 6 世紀の日朝交渉史から見た高興地域」高興地域の三国時代墳墓をめぐる国際学術会議（高興郡・羅拏文化研究院），2026年3月27日

二 主な研究教育活動

- 2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金，各種補助金による研究，企業・自身体による研究）基盤研究（B）「航路・寄港地から見た倭と古代朝鮮の交渉史に関する日韓共同研究」（2022～2025年度）研究代表者 高田 貫太 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K22003/>

- 3 国際交流事業

「先史～中世における日韓葬送儀礼の比較研究Ⅳ」（研究代表者：高田貫太，相手機関：韓国国立中央博物館，2025～2027年度）※2022年4月に学術交流協定を延長

- 4 主な展示・資料活動

総合展示第1室展示プロジェクト委員

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員

韓国嶺南考古学会誌『嶺南考古学』編集委員

韓国湖南考古学会誌『湖南考古学』編集委員

韓国中央文化財研究院発行専門雑誌『中央考古』編集委員

韓国国立中央博物館発行専門雑誌『考古誌』編集委員

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群特別研究事業 委託研究者

- 2 講演・カルチャーセンターなど

「古墳時代の日朝交渉と古備」市制20周年・両宮山古墳保存整備工事完了記念 赤磐市史跡シンポジウム「古備勢力のダイナミズム」（赤磐市教育委員会），2026年2月28日

「海の向こうからみた倭国」韓国学レクチャーシリーズ（韓国教育財団），2025年10月25日

四 活動報告

- 3 研究・調査プロジェクト報告

2025年度までに科研費や歴博共同研究で取り組んだ先史・古代の日朝関係における航路・寄港地に関する研究成果を，2025年8月に一般書として刊行した。2026年度は，副代表を務めた歴博共同研究の成果を一般書の形態（編著）での刊行をめざすとともに，これまでの研究成果を総括する専門書を刊行する準備を進める。

土山 祐之 TSUCHIYAMA Yushi テニユアトラック助教（2023～）

生年：1988年

【学歴】早稲田大学文学部（2011.3）早稲田大学大学院文学研究科人文科学専攻日本史学コース博士前期課程（2013修了）早稲田大学大学院文学研究科人文科学専攻日本史学コース博士後期課程（2019単位取得満期退学）

【職歴】日本学術振興会特別研究員（DC2）（2014）東京大学史料編纂所学術専門職員（2019.4）国立歴史民俗博物館プロジェクト研究員（2022.4）同テニユアトラック助教（2023.4）

【学位】修士【専門分野】日本中世史【主な研究テーマ】環境史，災害史，荘園史，村落史，景観変遷史【所属学会】歴史学研究会，日本史研究会，地方史研究協議会，日本古文書学会，中世史研究会，鎌倉遺文研究会

●主要業績

- 1 【論文】「大和国能登・岩井川流域における用水相論の展開—古気候データの活用から—」（『史観』180，2019年）
- 2 【論文】「東寺領山城国上久世荘の自然災害—古気候データと史料の検討から—」（中塚武監修，伊藤啓介ほか編『気候変動から読みなおす日本史 第4巻 気候変動と中世社会』臨川書店，2020年）
- 3 【論文】「東寺領摂津国垂水荘における「興行」について」（『地方史研究』416，2022年）

- 4 【論文】「13世紀における浪人の変容と気候変動—領主・村落とのかかわりから—」(『歴史学研究』1060, 2025年)
- 5 【論文】「一五世紀における非在京荘園領主と室町期荘園制：興福寺大乘院の門跡雑掌と大館氏」(『古文書研究』100, 2025年)

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

土山 祐之 (Yushi TSUCHIYAMA) - マイポータル - researchmap

二 主な研究教育活動（共同研究、調査、展示、教育等）

- 1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）
 - ① 歴博（基幹・基盤・開発型、国内交流事業）

開発型共同研究「中世民衆生活史像の再構築—気候変動・自然災害と民衆生活との相関関係を探る—」代表者（2024～2026年度）

開発型共同研究「弥生時代の洪水災害に対する人びとの選択と社会の変化」分担者（2024～2026年度）
 - ② 他の機関
 - ③ 機構（基幹研究プロジェクト）
- 2 KAKEN — 研究課題をさがす | 気候変動や自然災害に基づく中世民衆生活史像の再構築 (KAKENHI-PROJECT-24K00116)
- KAKEN — 研究課題をさがす | 中世農業生産・流通量推計方法の構築 (KAKENHI-PROJECT-24K21174)
- KAKEN — 研究課題をさがす | 排他的なナワバリを伴う村共同体の形成 —生業論と景観論の融合から— (KAKENHI-PROJECT-23K00811)
- 3 国際交流事業（国際交流協定にもとづく事業、国際シンポジウム・集会など）
- 4 主な展示・資料活動（展示・資料・DBなど）

総合展示第2室リニューアル委員会委員
- 5 教育（総研大シンポ、大学院セミナー担当、大学非常勤講師、学位審査の主査・副査・委員、博物館活動、教育プログラムなど）

日本女子大学文学部非常勤講師

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員（学会、学術会議、文化庁・学振・自治体審議委員など）
- 2 講演・カルチャーセンターなど（友の会も含む）

産経学園ユウカリが丘 講師

築地本願寺銀座サロンKOKOROアカデミー 講師
- 3 マスコミ（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌など）
- 4 社会連携（国内）
 - ① 刊行物（自治体など地方公共団体刊行のもの：市史、発掘調査報告書など）
 - ② 共同研究（自治体からの委託研究や産業界との共同研究）
 - ③ 講演会・シンポジウム（自治体など地方公共団体主催のもの）

千葉氏特別講演会：「中世小城の開発と環境～元寇・千葉氏・気候変動～」(佐賀県小城市教育委員会主催)
 - ④ デジタル・コンテンツ開発（自治体の経費で開発したもの）
- 5 国際連携（日本国内で行われたものも含む）
 - ① JICA
 - ② 国際交流基金
 - ③ その他

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

本年度は共同研究や科研のフィールドでもある福井県九頭竜川河口域における流通について、環境的要因を検討の軸に置きながら研究を進めた。本研究の成果は、『古文書研究』100号に掲載されている。

加えて、昨年度から引き続き現地調査も精力的に実施した。調査対象地は福井県坂井市、同あわら市、静岡県掛川市、和歌山県和歌山市、茨城県石岡市、大分県大分市など。これらの成果については、次年度以降に発表予定である。

中村 耕作 NAKAMURA Kousaku 准教授（2022.4～）

併任：総合研究大学院大学先端学術専攻日本歴史研究コース准教授（2023年度～）

【学歴】國學院大學文学部史学科（2005年卒業）、國學院大學大学院文学研究科史学専攻博士課程前期（2007年修了）、國學院大學大学院文学研究科史学専攻博士課程後期（2009年単位取得満期退学）

【職歴】國學院大學文学部助手（2009）、國學院大學栃木短期大学日本文化学科専任講師（2014）、國學院大學栃木短期大学日本文化学科准教授（2017）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2022）

【学位】博士（歴史学）（國學院大學）（2010年取得）【専門分野】日本考古学【主な研究テーマ】縄文土器・大形石棒・廃屋墓を対象とする儀礼行為・象徴性の研究【所属学会】日本考古学協会、考古学研究会、縄文時代文化研究会、物質文化研究会、古代学協会、全日本博物館学会、日本音楽教育学会、栃木県考古学会、神奈川県考古学会【研究目的・研究状況】縄文土器の異形化・顔身体化から象徴認識を検討している。

●主要業績

1. 【単著】『縄文土器の儀礼利用と象徴操作』アム・プロモーション、総309頁、2013年
2. 【共編著】『REKIHAKU』011（特集・顔・身体が付いた道具たち）国立歴史民俗博物館・文学通信、総112頁、2024年
3. 【編著】『縄文時代異形土器集成図譜Ⅰ』國學院大學考古学研究室、総120頁、2013年
4. 【編著】『縄文時代異形土器集成図譜Ⅱ 顔身体土器Ⅰ』国立歴史民俗博物館、総218頁、2025年
5. 【共著】『縄文人の石神～大形石棒にみる祭儀行為～』谷口康浩編、六一書房、総239頁、2010年

●2024年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/kousaku-n>

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究「死者への行為が形成する認識と社会変容」（代表：上野祥史）

基盤研究（館蔵資料型）「小渡遺跡を中心とする十腰内文化の研究」（代表：阿部昭典、副代表：中村）基盤

研究（課題設定型）「顔身体土器の通文化比較にみる身体・モノ認識」（代表：中村）

② 他の機関

國學院大學研究開発推進機構共同研究員

東京外国語大学アジアアフリカ文化研究所共同研究「身体性の人類学」共同研究員

③ 機構

ネットワーク型機関研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」歴博拠点「共創的資料保存の構築に向けたネットワーク研究拠点」（代表者：天野真志）

2 外部資金による研究

科研費学術変革（A）「本州・四国・九州域における先史人類および文化の形成」研究分担者（2023年度～2027年度）

科研費基盤（B）「縄文時代の狩猟採集社会における人口動態推計と変動要因の研究」研究分担者（2024年度～2027年度）

4 主な展示・資料活動

資料調査研究プロジェクト「歴博館蔵縄文時代資料図録の作成」代表者（2022年度～2026年度）

データベース作成「縄文時代異形土器」

総合展示第1展示室REKIHAKU011連動企画「顔身体をもつ道具たち」

5 教育

國學院大學文学部兼任講師「史学基礎演習B」・「考古学各論II」

駒沢大学大学院非常勤講師「考古学特講IV」

三 社会活動等

1 館外における各種委員

考古学研究会 全国委員

日本考古学協会 社会科歴史教科書等検討委員会委員・事務担当

縄文時代文化研究会 運営編集委員

公益財団法人とちぎ未来づくり財団 評議員伊奈町文化財保護委員会 委員

調布市国史跡下布田遺跡保存活用整備検討委員会 委員

富士見町重要遺跡調査指導委員会 委員

2 講演・カルチャーセンターなど

朝日カルチャーセンター千葉教室「廃屋墓から読み解く縄文人の死者との関わり」2024年7月

東京都立大学 夏期オンライン講座 縄文時代展示の構築と現在「縄文時代の顔・身体表現—歴博展示資料をもとに—」2024年8月

NHK文化センター柏教室「顔のついた縄文土器—継承される身体表現，動物との融合—」2024年12月

4 社会連携

③ 講演会・シンポジウム

第6回佐久石棒フォーラム：「縄文のシンボリズムと石棒」2024年6月

國學院大學栃木短期大学学習講座 とちぎの縄文文化をもっと知ろう：「土器から文化交流を探る—中根八幡遺跡の土器を中心に—」2024年10月

松戸市立博物館 企画展記念シンポジウム「異形土器と注口土器からみた縄文後期社会の変容」：「広域に広がる儀礼用土器の世界」2024年10月

船橋市飛ノ台史跡公園博物館 縄文大学：「縄文土器のかたちの 多様化とその意義」2024年10月

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 講演会：「風張1遺跡をめぐる縄文土器の象徴的世界」2024年10月あつぎ郷土博物館 講演会：「縄文世界の顔身体表現—土偶・土器・石棒を中心に—」2024年11月

塩尻市平出博物館 平出歴史大学：「顔がついた縄文土器—顔面把手の成立と展開—」2024年12月

埼玉県埋蔵文化財調査事業団 令和6年度 ほるたま考古学セミナー「長竹遺跡—地中に埋もれた巨大遺跡—」：「近年の調査からみた縄文時代後・晩期の文化変動」2025年1月

袖ヶ浦市教育委員会 講演会「山野貝塚から縄文時代のムラの形態を探る—山野貝塚と周辺遺跡の調査事例から—」：「縄文時代後・晩期の文化変動—北関東における近年の調査研究から考える—」2025年2月

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告「縄文時代の身体感覚に関する基礎的・応用的研究」

ヌラディ ラディティヤ ハリマワン (NURADI, Raditya Halimawan)

研究部・特任助教・(併任) 人間文化研究機構創発センター研究員・人文知コミュニケーター

生年 1995年

「学歴」テンペル大学 (Temple University) 国際関係専攻 (2017年卒業)，九州大学人文科学府修士課程 International Master's in Japanese Humanities Program (2020年修了)，九州大学人文科学府博士課程 International Doctorate in Japanese Humanities (2024年修了) ⑤「学位」文学博士 (Ph.D.)

「職歴」九州大学文学部非常勤講師 (2024)，九州大学人文科学府非常勤講師 (2025)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部特任助教 (2025.7)，人間文化研究機構創発センター研究員併任 (2025.7)

⑥宗教学・日本研究 ⑦聖地巡礼・物質文化・宗教とポピュラーカルチャー ⑧日本宗教学会，Association of Asian Studies, European Association for Japanese Studies, American Academy of Religion ⑨現地調査，エスノグラフィー (radityanuradi@rekihaku.ac.jp)

●主要業績（研究者になってこれまで行ってきた自身の研究の代表的なもの）

- ・[論文] The Anime Network: Materiality in Anime Pilgrimage (*Journal of Religion in Japan* 13: 2-3 (2024), pp.119-142.) (査読付き)
- ・[論文] Developments in the Study of Religion and Popular Culture: The Case of Japan (*Revista Jesus Historico* 26: 1 (2021), pp. 1-15.) (査読付き)
- ・[国際学会発表] 「American Academy of Religion (2023)」(Ludic Votives: Unsanctioned Material Presence in Anime-related Shrines.)
- ・[国際学会発表]「European Association for Japanese Studies (2023)」(Illuminating a Tradition: Anime Pilgrimage Through the Yuwaku Bonbori Festival)
- ・New Books Network ポッドキャストホスト <https://newbooksnetwork.com/hosts/profile/3269902c-0ee7-407f-9cb2-f97f9efb10ac>

●2025年度の研究教育活動

<https://researchmap.jp/nuradi>

5 学会・外部研究会発表

- ・博士論文発表会「Doctoral Dissertation Workshop: Japanese Studies in Japan」2026年3月20日
- ・人間文化研究機構ワークショップ「異分野間で構想する共同研究の可能性—そのバリエーションをひらく対話の場 京都」2026年1月16-17日
- ・人間文化研究機構ワークショップ「異分野間で構想する共同研究の可能性—そのバリエーションをひらく対話の場 東京」2025年8月19日

7 友の会ニュース、『物語、場所、と人が出会う巡礼』No. 241)

三 社会活動等

5 国際連携（日本国内で行われたものも含む）

- ③ 歴博にて行われた企画ワークショップ [Doctoral Dissertation Workshop: Japanese Studies in Japan]では国内外の研究者が交流し発表、議論した。

四 活動報告

4 人間文化研究機構人文知コミュニケーターと理事会の懇談会にて活動、研究の発表を行った

箱崎 真隆 HAKOZAKI Masataka 准教授（2022.4～）

生年：1982

【学歴】福島大学教育学部生涯教育課程環境科学教育コース（2005年卒業）、福島大学大学院教育学研究科教科教育専攻（2008年修了）、東北大学大学院生命科学研究科生態システム生命科学専攻（2012年修了）

【職歴】国立大学法人名古屋大学年代測定総合研究センター研究員（2012）、国立大学法人名古屋大学年代測定総合研究センター研究機関研究員（2014）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部特任助教（2019）、同科研究費支援研究員（2019.4～6）、同プロジェクト研究員（2019.7～2022.3）、同准教授（2022.4～）

【学位】博士（生命科学）（東北大学）（2012年取得）

【専門分野】年輪年代学、放射性炭素年代学、文化財科学、古生態学

【主な研究テーマ】北東アジアの木質文化財、災害由来の自然埋没木の高精度年代決定、年輪幅および酸素同位体比年輪年代法の長期標準年輪曲線の確立、炭素14年代法における北半球標準および日本版暦年較正曲線の基盤データの獲得、過去3万年間にわたる気候復元・太陽活動復元

【所属学会】日本植生史学会、日本生態学会、日本文化財科学会、日本地球惑星科学連合、日本第四紀学会、日本AMS研究協会、日本「樹木年輪」研究会

【研究目的・研究状況】2010年代に日本で確立された酸素同位体比年輪年代法と炭素14スパイクマッチングにより、北東アジアの年輪年代測定の最大の障害となっていた「樹種の壁」が打ち破られた。これにより、様々な地域・時

代の木質文化財、自然埋没木に誤差0年の年代情報の付与が可能となった。年輪酸素同位体比は気候(主に降水量)復元に、年輪炭素14濃度は太陽活動復元に応用できる。2つの新しい年輪年代法を駆使して、北東アジアの歴史事象と環境変動との関係を明らかにする。

●主要業績

1. 【論文】Hakozaki M, Miyake F, Nakamura T, Kimura K, Masuda K, Okuno M, Verification of the annual dating of the 10th century Baitoushan Volcano eruption based on AD 774-775 carbon-14 spike, Radiocarbon, 60 (1), pp.261-268, 2018.
2. 【論文】Masaki Sano, Zhen Li, Akane Tsushima, Katsuhiko Kimura, Toshio Nakamura, Motonari Ohya, Minoru Sakamoto, Takeshi Nakatsuka, Masataka Hakozaki, A 1179-yr (417-1595 CE) tree-ring oxygen isotope chronology for northern Japan validated using the 774-775 CE radiocarbon spike, Radiocarbon, 66 (3), pp.485-497, 2024.
3. 【論文】Hakozaki M, Kimura K, Tsuji S, Suzuki M, Tree-ring study of a late Holocene forest buried in the Ubuka Basin, southwestern Japan, IAWA Journal, 33 (3), pp.287-299, 2012.
4. 【著書】箱崎真隆, 橋本雄太編, REKIHAKU 9号 特集: 推定不能, 112p, 文学通信, 2023.
5. 【論文】箱崎真隆, 酸素同位体比年輪年代法による韓国南部古代資料の高精度年代測定, 国立歴史民俗博物館研究報告, 231, pp.299-315, 2022.

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/m.hakozaki>

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

開発型共同研究「弥生時代の洪水災害に対する人びとの選択と社会の変化」(研究代表者: 山下優介, 2024~2026年度) 研究分担者

開発型共同研究「中世民衆生活史像の再構築—気候変動・自然災害と民衆生活との相関関係を探る—」(研究代表者: 土山祐之, 2024~2026年度) 研究分担者

② 他の機関

文部科学省 令和6年度 共同利用・共同研究システム形成事業 学際領域展開ハブ形成プログラム「宇宙地球環境科学と歴史学・考古学を結ぶ超学際ネットワーク形成」(中核機関: 名古屋大学宇宙地球環境研究所, 2024~2033年度) 研究分担者

③ 機構

広領域連携型基幹研究プロジェクト「人新世に至る, モノを通した自然と人間の相互作用に関する研究」(研究代表者: 陀安一郎, 2022~2027年度) 研究分担者

2 外部資金による研究

科研費(基盤A)「未踏区域「縄文時代前期」に到達する酸素同位体比標準年輪曲線の構築」(2025~2028年度) 研究代表者

科研費(基盤A)「南極氷床コアを用いた過去の激甚太陽面爆発の探索」(研究代表者: 三宅美沙, 2025~2028年度) 研究分担者

科研費(挑戦(萌芽))「新しい年輪年代法に基づく古津波の超高精度編年に向けた萌芽研究」(研究代表者: 篠崎鉄哉, 2025~2027年度) 研究分担者

科研費(基盤B)「気候変動や自然災害に基づく中世民衆生活史像の再構築」(研究代表者: 土山祐之, 2024年度~2028年度) 研究分担者

科研費(学変A)「日本列島域における先史人類史の総合的復元方法の研究」(2023~2027年度) 研究分担者

科研費(学変A計画研究)「日本列島域における古環境変遷の研究」(2023~2027年度) 研究代表者

科研費(基盤S)「酸素同位体比年輪年代法の高精度化による日本列島の気候・生産・人口変動史の定量化」(研究代表者: 中塚武, 2021~2025年度) 研究分担者

科研費(基盤A)「高精度年代体系による東アジア新石器文化過程—地域文化の成立と相互関係—」(研究代表

者：小林謙一，2022～2026年度）研究分担者

科研費（基盤A）「高精度単年輪14C測定による弥生から古墳期の暦年較正の高解像度化」（研究代表者：坂本稔，2022～2026年度）研究分担者

科研費（基盤A）「汽水成年縞堆積物と年輪試料の複合解析による完新世の気候変化と高分解能編年の研究」（研究代表者：齋藤文紀，2021～2025年度）研究分担者

三 社会活動等

3 マスコミ

朝日新聞・楽問のススメ「筋トレは「研究続けるため」木に刻まれたデータで観測なき歴史解明」，2025年11月15日

橋本 雄太 HASHIMOTO Yuta 准教授（2022.4～）

【学歴】京都大学文学部（2004-2008），京都大学文学研究科修士課程（2008-2010），京都大学文学研究科博士後期課程（2013-2017）

【職歴】株式会社内田洋行社員（2010-2012），大阪大学特任研究員（2015-2017），国立国会図書館委嘱研究員（2015-2021），国立国会図書館非常勤調査員（2023-），国立歴史民俗博物館テニュアトラック助教（2017-2022），同准教授（2022-），

【学位】博士（文学）（京都大学文学研究科2018年取得）

【専門分野】人文情報学，科学史

【主な研究テーマ】人文学資料を対象にしたクラウドソーシング，歴史研究に関わる教育ソフトウェア開発，近代西洋数学史

【所属学会】情報処理学会，Japanese Association of Digital Humanities

【研究目的・研究状況】クラウドソーシング技術を駆使した歴史資料の活用をテーマに研究をおこなっている。前近代日本語史料の市民参加型翻刻プラットフォーム「みんなで翻刻」や，くずし字解読の学習用アプリケーション「KuLA」の開発にあたっている。「みんなで翻刻」では2026年4月時点で5600万文字の近世史料が翻刻され，KuLAは2016年の公開後25万回以上ダウンロードされている。

【メールアドレス】yhashimoto@rekihaku.ac.jp

●主要業績

1. 【論文】共著：「みんなで翻刻V3：歴史資料の「参加型サイエンス」に向けて」，人文科学とコンピュータシンポジウム2025論文集，pp.3-10，2025年12月（査読あり）
2. 【論文】共著：「大家一起来翻刻」：基于协作学习的前近代日语史料众包转写平台」数字人文研究，Vol. 5，No. 2，pp.88-109，2025年5月（査読あり）
3. 【論文】「クラウドソーシングによる歴史災害史料の大規模テキスト化と構造化の試み」，国立歴史民俗博物館研究報告253，pp.33-50 2025年3月（査読あり）

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/yhashimoto>

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究」(2023年度～)

2 外部資金による研究

科学研究費助成事業 基盤A「歴史ビッグデータ：史料とデータ駆動型モデルを結合する分野横断型研究基盤の構築」(2023-2025年度) 分担者

科学研究費助成事業 基盤A「COVID-19のパンデミックへの歴史学的「介入」—歴史化のための記録と記憶の

保全」(2023-2027年度)分担者

科学研究費助成事業 基盤B「近世日本数理科学の新たな歴史叙述構築に向けた総合研究」(2023-2026年度)分担者

3 主な展示・資料活動

三 社会活動等

1 館外における各種委員

情報処理学会人文科学とコンピューター研究会幹事(2025年4月-2026年3月)

四 活動報告

1 受賞歴

科学技術への顕著な貢献2025(ナイスステップな研究者), 文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP)

3 研究・調査プロジェクト報告

2025年8月に「みんなで翻刻」の6年ぶりのリニューアル公開を実施し, ユーザー登録プロジェクトや生成AIによる現代語訳/英語訳, 全文翻刻OCRエンジンの導入などをおこなった。

林部 均 HAYASHIBE Hitoshi 教授(2013~2026.3)

併任: 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授(2023~), 生年: 1960

【学歴】 関西大学文学部史学地理学科(1983年卒業)

【職歴】 奈良県立橿原考古学研究所嘱託(1983), 奈良県立橿原考古学研究所(奈良県教育委員会)技師(1985), 同主任研究員(1992), 同総括研究員(2006), 関西大学文学部非常勤講師(2002~2005), 三重大学人文学部非常勤講師(2006), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授(2010), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任(2010), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授(2013~), 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任(2013~), 研究推進センター長(2014~2016), 副館長・研究総主幹(2017~2020), 専修大学文学部非常勤講師(2013), 早稲田大学大学院非常勤講師(2014), 専修大学大学院非常勤講師(2015), 東京大学大学院人文社会系研究科客員教授(2020~), 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任(2023~), 早稲田大学文学学術院非常勤講師(2024)

【学位】 博士(文学)(奈良女子大学)(2001年取得) 【専門分野】 日本考古学 【主な研究テーマ】 東アジアの古代宮都(王宮・王都)の研究, 考古学からみた地域社会の研究 【所属学会】 日本考古学協会, 考古学研究会, 日本史研究会, 条里制・古代都市研究会

●主要業績

1. 【著書】『古代宮都形成過程の研究』378頁, 青木書店, 2001年3月
2. 【著書】『飛鳥の宮と藤原京—よみがえる古代王宮—』259頁, 歴史文化ライブラリー249, 吉川弘文館, 2008年3月
3. 【著書】『日本古代王宮・王都の研究』420頁, 吉川弘文館 2026年3月
4. 【論文】「東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土器」(『考古学雑誌』72-1, pp.31-71, 日本考古学会, 1986年9月)(査読あり)
5. 【調査報告書】編著『飛鳥京跡Ⅲ—内郭中枢の調査—』253頁, 奈良県立橿原考古学研究所, 2008年3月

●2023年度の研究教育活動

一 研究業績

1 著書

『日本古代王宮・王都の研究』420頁, 吉川弘文館 2026年3月

2 論文

3 調査・発掘報告書, 自治体史, 史料集, 辞典など

4 展示図録・資料目録・映像・DB・デジタルコンテンツ等

7 その他

「飛鳥・藤原の宮都と纏向遺跡」『纏向に大王宮—そこに卑弥呼はいたか—』桜井市纏向学研究センター pp.39-46 2025年10月

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

2 外部資金による研究

日本学術振興会 基盤研究 (C)「都城の生活史—その成立により何が起こったのか—」(研究代表者) 2024～2026年度

4 主な展示・資料活動

総合展示第1室「原始・古代」展示プロジェクト委員 (代表)

5 教育

東京大学大学院人文社会系研究科 客員教授 (2025.4.1～2026.3.31), 「考古学特殊講義X V・X VI」「日本古代の考古学1・2」

三 社会活動等

1 館外における各種委員

条里制・古代都市研究会評議委員, 文化審議会専門委員 (文化財分科会第一専門調査会 文化庁), 古墳壁画の保存活用に関する検討会委員 (文化庁), 登録美術品 (文字資料等) 調査研究協力委員 (文化庁), 日本学術会議連携会員 (史学委員会 文化財の保存と活用に関する文科会 第25～26期), 奈良県立橿原考古学研究所共同研究員, 上野国府等調査委員会委員 (前橋市教育委員会), 総社古墳群調査検討委員会委員 (前橋市教育委員会), 松山市文化財保護審議会久米官衙遺跡群調査検討部会委員 (松山市教育委員会), 福原長者原遺跡調査指導委員会委員 (行橋市教育委員会), 粕屋町文化財調査指導委員会委員 (粕屋町教育委員会), (), 粕屋町史跡等整備検討委員会委員 (粕屋町教育委員会), 史跡鑄銭司跡調査検討委員会委員 (山口市教育委員会), 史跡秋田城跡環境整備指導委員会・副委員長 (秋田市教育委員会), 宮城県多賀城跡調査研究指導委員会委員 (宮城県教育委員会)

2 講演・カルチャーセンターなど

「都城の生活史—これまでの研究, これからの研究—」第466回歴博講演会 2026年2月14日 (国立歴史民俗博物館)

4 社会連携 (国内)

③ 講演会・シンポジウム (自治体など地方公共団体主催のもの)

「都城の生活史—これまでの研究, これからの研究—」国立歴史民俗博物館友の会 考古学講座 2025年12月19日 (国立歴史民俗博物館)

「飛鳥・藤原の宮都と纏向遺跡」『纏向に大王宮—そこに卑弥呼はいたか—』桜井市纏向学研究センター東京フォーラムX I 2025年10月25日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

列島の各地は, 多様な自然環境, 歴史的条件に規制され, 様々な地域文化を形成してきた。地域文化形成の要因はどこにあるのか, また, 歴史的条件は何かということをも明らかにすべく本研究を実施した。本年は, 栃木県宇都宮市において外来生物が生態系に与える影響, 静岡県静岡市において静岡藩の成立, 北海道白老町と京都府京都市においてアイヌ民族, 北海道札幌市と千歳市においては都市区画の形成, 石川県金沢市において沖縄の芭蕉布, 能登地震と地域とのかかわり, 千葉県館山市においては東京湾要塞, 戦争と地域とのかかわりについて調査をおこない, それぞれの地域のもつ多様性の把握につとめた。多様となる要因は, それぞれの地域によって様々であり, それは何であるのかを検討した。また, それらが, 前近代から現代へと, どのように展開したのかという現代までを視野に入れた研究を進めた。そして, 現代にも残る地域社会の多様性について検討した。また, 戦後80年ということで, 各地で戦争にかかわる展覧会が開催された。それらについても, 地域のおかれた条件等により, 戦争の捉え方が様々であることを調査した。また, 戦争そのものではなく, 戦争が地域社会といかにかわっていたのかという視点から調査をおこなった。

4 その他

20年来の懸案事項である論文集 (『日本古代王宮・王都の研究』吉川弘文館 2026年3月) をまとめて刊行

することができた。とくに、その中に収録した「都城の成立—その時、何が起こったのか—」は、科研費による研究成果をまとめた。これまでの政治史が中心であった古代王宮・王都とは異なる新しい視点が提示できたのではないかと考えている。新しい研究手法の導入など、これからの課題である。

樋浦 郷子 HIURA Satoko 准教授（2016～）

【学歴】神戸大学大学院国際協力研究科博士前期課程（1998年修了）、京都大学大学院教育学研究科修士課程（2006年修了）、京都大学大学院教育学研究科博士課程（2011年修了）

【職歴】帝京大学専任講師（総合基礎科目・教職課程）（～2016年3月）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2016～）

【学位】博士（教育学・京都大学）（2011年取得）【専門分野】教育史【主な研究テーマ】帝国日本の教育と宗教の関係に関わる歴史【所属学会】教育史学会、朝鮮史研究会、歴史学研究会、日本教育史研究会

●主要業績

- ・【著書】『신사・학교・식민지 지배를 위한 종교-교육（神社・学校・植民地 支配のための宗教—教育）』高麗大学出版文化院（韓国）、387頁、2016年2月
- ・【著書】『神社・学校・植民地—逆機能する朝鮮支配—』京都大学学術出版会、373頁、2013年3月
- ・【論文】「『厳肅』な帝国—学校における天皇・皇室崇敬」『国家神道の現代史』第五章、東京大学出版会、2025年8月
- ・【論文】「『昭和九年北新地五番町遊客帳』の基礎的検討」『人文学報』124号、京都大学人文科学研究所、pp.175-191、2026年3月
- ・【学会・外部研究会発表】
「台湾の天皇崇敬教育—新化の学校をめぐるモノ資料を手がかりに—」，“上學去—近代教育與臺灣社會”臺灣教育史國際學術研討會，文化部・国立台湾歴史博物館、2019年1月19日
「未完の朝鮮扶余神宮が果たした役割と意味」“The Role and the Meaning of Unfinished Buyeo Sin Gung (Fuyo Jingu) Imperial Shrine in the Wartime Korea”（英語・日本語による）、History of education and language in late Chosôn and Colonial-era Korea Workshop、九州大学、2016年2月20日

●2024年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/105822>

二 主な研究教育活動

2 外部資金による研究

<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000030631882>

4 主な展示・資料活動

第5展示室展示リニューアル委員

5 教育

歴博・千葉大学留学生プロジェクト

三 社会活動等

1 館外における各種委員

教育史学会70周年記念誌編集委員（2022年12月から現在）

教育史学会理事（2025年10月から現在）

樋口 雄彦 HIGUCHI Takehiko 教授（2011～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授（2023年度～）、生年：1961

【学歴】 静岡大学人文学部人文学科日本史学専攻（1984年卒業）

【職歴】 沼津市明治史料館学芸員（1984）、同主任学芸員（1997）、国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授（2001）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2003）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2011）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2011）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻長併任（2020～2021）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023）

【学位】 博士（文学）（大阪大学）（2007年取得）【専門分野】 日本近代史【主な研究テーマ】 明治期の社会・文化と旧幕臣の動向【所属学会】 明治維新史学会、洋学史学会、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、静岡県近代史研究会、静岡県地域史研究会

●主要業績

1. 【著書】『旧幕臣の明治維新 沼津兵学校とその群像』吉川弘文館、206頁、2005年11月
2. 【著書】『沼津兵学校の研究』吉川弘文館、661頁、2007年10月
3. 【著書】『敗者の日本史17 箱館戦争と榎本武揚』吉川弘文館、288頁、2012年11月
4. 【著書】『幕末の農兵』現代書館、206頁、2017年12月
5. 【著書】『幕末維新期の洋学と幕臣』岩田書院、404頁、2019年8月
6. 【著書】『明治の旧幕臣とその信仰』思文閣出版、382頁、2023年1月

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

- 1 著書
『新編西周全集』第三卷（言語・教育編） 新編西周全集編纂委員会編、国書刊行会、1008ページ、2025年9月20日 担当：解題（860～874頁）
- 2 論文
「ヤスクニと旧幕臣—幕末維新殉難者の慰霊・顕彰をめぐる—」『静岡県近代史研究』第50号 pp.1-31 静岡県近代史研究会 2025年10月10日
「芥川家文書にみる幕臣・静岡藩士の家と公務」『沼津市博物館紀要』50 pp.1-30 沼津市歴史民俗資料館・沼津市明治史料館 2026年3月27日
「幕府陸軍士官の長州征討従軍日記—幕臣近藤宗一の記録—」『沼津市博物館紀要』50 pp.31-79 沼津市歴史民俗資料館・沼津市明治史料館 2026年3月27日

二 主な研究教育活動

- 2 外部資金による研究
- 4 主な展示・資料活動
総合展示第5室・第6室リニューアル委員会委員
第4展示室特集展示「明治の神道家—旧幕臣秋山光條とその資料—」（2025年4月22日～7月27日）展示プロジェクト代表
- 5 教育
静岡県立大学・グローバル地域センター 世界からしずおかを見る しずおかから世界へ【しずおか学】「幕末維新の海外渡航者としずおか」（2025年7月2日）

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員
静岡市文化財保護審議会委員
千葉県文化財保護審議会委員
静岡市歴史博物館収集資料審議会委員
静岡県近代史研究会幹事
- 3 マスコミ

広域高速ネット二九六 歴博のミカタ「特集展示 明治の神道家―旧幕臣秋山光條とその資料―」（2025年5月26日～6月1日放送）

4 社会連携

① 刊行物

「第4展示室特集展示 明治の神道家―旧幕臣秋山光條とその資料―」『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』第238号, pp.4, 一般財団法人歴史民俗博物館振興会, 2025年4月5日

『総合展示第4展示室特集展示 明治の神道家―旧幕臣秋山光條とその資料―』（特集展示解説シート）国立歴史民俗博物館, 2025年4月22日

「沼津郡政役所の人びと」『沼津市明治史料館通信』第161号, pp.2-3, 沼津市明治史料館, 2025年5月31日

「幕臣の先祖探訪―河津祐邦と角田桜岳の交友―」『沼津市明治史料館通信』第162号, pp.1-3, 沼津市明治史料館, 2025年7月31日

「会誌『静岡県近代史研究』について考えたこと」『静岡県近代史研究』第50号 pp.37-38 静岡県近代史研究会 2025年10月10日

「江原素六と木村久一」『沼津市明治史料館通信』第163号, pp.1-2, 沼津市明治史料館, 2025年10月31日

「沼津兵学校に学んだ主従―浅野辰夫と佐々木愼思郎―」『沼津市明治史料館通信』第163号, pp.3-4, 沼津市明治史料館, 2025年10月31日

「小説に描かれた江川英敏をめぐる」『静岡県近代史研究会会報』第566号, pp.6-8, 静岡県近代史研究会, 2025年11月10日

「はがき通信」『日本歴史』第931号 pp.128 2025年12月1日

「沼津兵学校にあったオランダ国王肖像画」『沼津市明治史料館通信』第164号, pp.2-3, 沼津市明治史料館, 2026年1月31日

「幕府の軍制改革と「開化」「旧弊」」『REKIHAKU』第17号 pp.19-21 国立歴史民俗博物館 2026年3月16日

② 講演会・シンポジウム

「静岡学問所とその群像」静岡市歴史博物館・企画展示「明治維新と静岡 徳川慶喜、家達と旧幕臣たち」関連講演会 静岡市葵生涯学習センター・アイセル21（2015年5月17日）

「維新时期日本の知の拠点 沼津兵学校と静岡学問所」沼津史談会・総会記念講演 沼津市立図書館（2025年6月29日）

「佐倉藩士と沼津兵学校」佐倉市民カレッジ 佐倉市中央公民館（2025年7月8日）

「江原素六と沼津教会をめぐる人々」沼津教会創立150周年記念講演会 日本基督教団沼津教会（2025年10月13日）

「幕末維新期の佐倉藩と徳川幕府の人材」佐倉市専門家ネットワーク・公開セミナー 佐倉市ミレニアムセンター（2026年3月29日）

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

維新後の旧幕臣の動向に関わる各種資料について、特に幕府の葦山代官所に手代・手付として勤務し、維新後は葦山県大参事・足柄県令をつとめた柏木忠俊が残した文書（伊豆の国市立中央図書館保管・柏木家文書）の整理・目録化を進め、校正作業など、その刊行準備を行った。また別に、沼津市明治史料館・小田原市立中央図書館や日光市・館林市の寺院などでの調査を実施した。

日高 薫 HIDAKA Kaori 教授（2010～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授（2023年度～）

【学歴】東京大学文学部第二類（史学）美術史学専修課程（1985年卒業）、東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻修士課程（1987年修了）、東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻博士課程（1990年単位取得退学）

【職歴】杉野女子大学非常勤講師（1988）、東京大学文学部美術史研究室助手（1990）、共立女子大学国際文化学部日本文化研究研究助手（1992）、国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手（1994）、同助教授（2002）、大学共同

利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004）、文部科学省研究振興局学術調査官併任（2004～2006）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2008）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2010）、総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2010）、広報連携センター長併任（2011～2012）、総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023）
 【学位】博士（文学）（東京大学2008年）【専門分野】漆工芸史【主な研究テーマ】蒔絵を中心とする漆工芸史および日本の装飾芸術の特質に関する研究、交易品としての漆器をめぐる文化交流に関する研究【所属学会】美術史学会、漆工史学会

●主要業績

1. 【著書】『異国の表象—近世輸出漆器の創造力—』475頁、ブリュッケ、2008年3月
2. 【概説書】編著『海を渡った日本漆器Ⅱ—18・19世紀—』（『日本の美術』427号、98頁、至文堂、2001年12月）
3. 【論文】Lacquerware as a Global Commodity: Distribution and Imitation of Maki-e, Melanie Trede, Christine Guth, Mio Wakita 編, *Japanese Art – Transcultural Perspectives: Studies in Asian Art and Archaeology*, pp.279-303, Leiden; Boston, 2024年11月
4. 【論文】「蒔絵の「色」—絵画と工芸のはざままで」（玉蟲敏子編『講座 日本美術史5 <かざり>と<つくり>の領分』pp.165-197、東大出版会、2005年10月）
5. 【資料図録】編著『紀州徳川家伝来楽器コレクション』国立歴史民俗博物館資料図録3、414頁、国立歴史民俗博物館、2004年3月

●2024年度の研究教育

一 研究業績

https://researchmap.jp/hidaka_kaori

二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）
 - ③ 機構

人間文化研究機構共創先導プロジェクト（共創促進研究）日本関連在外資料調査研究
 「外交と日本コレクション—19世紀在外日本資料の世界史的文脈による研究と現地およびオンライン空間における活用—」（2022年度～）研究代表者
<http://e-zaigai.jp/>
- 2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金、各種補助金による研究、企業・自治体による研究）
 科学研究費補助金・基盤研究（A）「エジプト所在の日本美術品調査」（2025～2030年度）研究代表者
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25H00463/>
- 3 国際交流事業（国際交流協定にもとづく事業、国際シンポジウム・集会など）
 国立歴史民俗博物館 国際交流事業「北部イングランド所在日本資料の調査研究と活用支援」（2023年度～）研究代表者
- 4 主な展示・資料活動（展示・資料・DBなど）
 特集展示「生田コレクション 鼓胴」（2025年7月23日～8月31日、国立歴史民俗博物館第3展示室）
 展示プロジェクト委員 ぐらしの植物苑特別企画「季節の伝統植物」展示プロジェクト委員
- 5 教育（総研大シンポ、大学院セミナー担当、大学非常勤講師、学位審査の主査・副査・委員、博物館活動、教育プログラムなど）

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員
 漆工史学会理事、千葉市美術品等収集審査委員、千葉県伝統工芸品産業振興協議会委員、静岡県富士山世界遺産センター専門委員、文化庁文化審議会文化財分科会第一専門調査会専門委員（工芸品部門）、國華賞選衡委員

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

歴博が所蔵する紀州徳川家伝来楽器コレクションの分かれである国立劇場所蔵の雅楽器の調査をおこない、日本芸術文化振興会のデジタルアーカイブ作成に協力した。コレクションが紀州徳川家から歴博、あるいは国立劇場所蔵となった経緯、また紀州徳川家において重要な位置を占めた国立劇場所蔵分の楽器の詳細について、新たな情報を得ることができた。また、東洋音楽学会において、伝世する古楽器の保存と活用について講演をおこなった。

平峰 玲緒奈 HIRAMINE Reona 特任研究員（2025.4～）

生年：1995

【学歴】首都大学東京都市環境学部都市環境学科地理環境コース（2018年卒業）、首都大学東京大学院都市環境科学研究科地理環境学域（2020年修了）、東京都立大学大学院都市環境科学研究科地理環境学域（2023年修了）

【職歴】東京都立大学大学院都市環境科学研究科地理環境学域日本学術振興会特別研究員DC2（2022年4月～2023年9月）、東京都立大学大学院都市環境科学研究科地理環境学域日本学術振興会特別研究員PD（2023年10月～2024年3月）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館プロジェクト研究員（2024年4月～2025年3月）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館特任研究員（2025年4月～現在）

【学位】博士（理学）（東京都立大学）（2023年取得）【専門分野】第四紀地質学、火山灰編年学、年輪年代学【主な研究テーマ】堆積物中の漂着軽石に基づく過去の火山噴火履歴の解明、年輪年代法による噴火年代の誤差0年決定【所属学会】日本第四紀学会、日本地球惑星科学連合、日本地理学会、漂着物学会、日本文化財科学会【研究目的・研究状況】堆積物中の漂着軽石の化学組成から給源火山を推定し、海域火山噴火がいつ・どこで発生したかを解明することを目的に研究を行っている。軽石に含まれる火山ガラスの主成分化学組成を分析し、給源候補テフラとの比較から給源火山の検討を進めている。

●主要業績

1. 【論文】Reona Hiramine, Daisuke Ishimura, Masashi Nagai, Takahiro Miwa, Haruka Nishikawa, Tatsu Kuwatani, Tomoki Sato, Kenta Yoshida「Pumice Drifting from Ioto Volcano in the Izu-Bonin Arc to the Nansei Islands, Japan」『Island Arc』34, e70020, 2025年6月
2. 【論文】Daisuke Ishimura, Reona Hiramine「Dispersion, fragmentation, abrasion, and organism attachment of drift pumice from the 2021 Fukutoku-Oka-no-Ba eruption in Japan」『Progress in Earth and Planetary Science』12:5, 2025年1月
3. 【論文】平峰 玲緒奈, 青木 かおり, 石村 大輔「青森県むつ市関根浜における完新世の漂着軽石とその給源火山」『第四紀研究』62（2）, pp.61-69, 2023年5月
4. 【論文】Reona Hiramine, Kaori Aoki, Daisuke Ishimura, Takehiko Suzuki「Characteristics of drift pumice clasts along the coast of the Japanese Islands: The AT tephra, representative source of drift pumice clasts」『Geographical reports of Tokyo Metropolitan University』58, pp.87-94, 2023年3月
5. 【論文】Daisuke Ishimura, Reona Hiramine「Proximal-distal fall deposit correlation of VEI-5 tephra (Towada-Chuseri) from Towada volcano, northeast Japan」『Journal of Quaternary Science』35（1-2）, pp.334-348, 2019年11月

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/hiramine-reona>

二 主な教育研究活動

1 主な共同研究等参加状況

③ 機構（基幹研究プロジェクト）

人間文化研究機構光領域連携型基幹研究プロジェクト「人新世に至る、モノを通した自然と人間の相互作用に関する研究」（研究代表者：陀安一郎）（2022～2027年度）

2 外部資金による研究

日本学術振興会科学研究費助成事業（研究活動スタート支援）「考古遺跡中の漂着軽石に基づく海域火山の噴火履歴解明の試み」研究代表者，2024～2025年度，<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K22565/>

日本学術振興会科学研究費助成事業（挑戦的研究（萌芽））「3世紀に軽石筏は出現したか？」（研究代表者：青木かおり）研究分担者，2024～2026年度，<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K21378>

日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究A）「未踏区域「縄文時代前期」に到達する酸素同位体比標準年輪曲線の構築」（研究代表者：箱崎真隆）研究分担者，2025～2028年度，<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25H00499/>

5 教育

日本女子大学非常勤講師（自然地理学）

福岡 万里子 FUKUOKA Mariko, 准教授（2014.4～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授（2023年度～）

【学歴】東京大学教養学部（2003年3月卒業）東京大学大学院総合文化研究科（修士）（2005年3月修了），東京大学大学院総合文化研究科（博士）（2011年2月修了）【職歴】日本学術振興会特別研究員DC2（2007-09），日本学術振興会特別研究員PD（2011-14），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2014-），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2014-），総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任（2023）

【学位】博士（学術）（東京大学）（2011年取得）【専門分野】19世紀日本外交史，東アジア国際関係史【主な研究テーマ】19世紀日本・東アジアをめぐる外交史・国際関係史，タウンゼント・ハリスの伝記的研究，19世紀アジアで活動したドイツ・スイス系外交官及び商人に関する研究【所属学会】史学会，日本政治学会，日本国際政治学会，明治維新史学会，洋学史学会，日本ドイツ学会【研究目的・研究状況】近世近代転換期の日本・東アジアを取り巻く国際関係の変動過程を，マルチアーカイヴァルな手法を基に，東アジア比較・世界史の視点から考察していければと考えている。

●主要業績

1. 【単著】福岡万里子『プロイセン東アジア遠征と幕末外交』448頁，東京大学出版会，2013年3月
2. 【編著】福岡万里子編『国立歴史民俗博物館研究報告』第239集 [共同研究]「近世近代転換期東アジア国際関係史の再検討—日本・中国・シヤムの相互比較から—」国立歴史民俗博物館，pp.328，2023年3月
3. 【調査研究活動報告】福岡万里子・日高薫・澤田和人「スミソニアン研究機構所蔵の幕末日本関係コレクション—ペリー・ハリス・遣米使節団」『国立歴史民俗博物館研究報告』第228集，pp.101-165，2021年3月
4. 【共著論文】Mariko Fukuoka and Alexis Schwarzenbach, Between Trade and Diplomacy: The Commercial Activities of the Swiss Silk Merchants Siber & Brennwald in late Edo and early Meiji Japan. (『貿易と外交の間：幕末明治初期におけるスイス系生糸商社シーベル&ブレンワルトの貿易活動』) In: Robert Fletcher and Robert Hellyer (eds.), Documenting Westerners in Nineteenth-Century China and Japan (『19世紀中国・日本の西洋人を記述する』), pp.83-103, London: Bloomsbury, 2022.
5. 【論文】福岡万里子「日本の主権者は誰なのか—幕末駐日外交官の日本認識と外交1858～1862」『年報政治学』2022-II「特集：幕末・明治期の国際関係再考」，pp.13-41，2022年

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/mfukuoka?lang=ja>

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

▶国立歴史民俗博物館企画展示プロジェクト「旗本とはなにか（仮）」プロジェクト委員

③ 機構

- ▶人間文化研究機構 機構共創先導プロジェクト（共創促進研究）日本関連在外資料調査研究「外交と日本コレクション—19世紀在外日本資料の世界史的文脈による研究と現地およびオンライン空間における活用」（研究代表者：日高薫）共同研究員 2 外部資金による研究
- ▶基盤研究C「幕末明治初期「不平等条約」形成過程の多国籍史料に基づく再検討」（研究代表者：福岡万里子）2024～2028年度
- ▶基盤研究B「「不平等条約」の系譜再考：修好通商条約と日米安保条約の比較研究」（研究代表者：五百旗頭薫）2024～2028年度：研究分担者
- ▶基盤研究B「幕末維新期史料研究の学術資源化推進と国際共有基盤の新展開」（研究代表者：小野将）2024～2027年度：研究分担者
- ▶基盤研究B「幕末外交と贈答美術品—遣米・遣欧使節団の贈品を中心に」（研究代表者：日高薫）2021～2025年度：研究分担者

→詳細は以下を参照：<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000050740651/>

3 国際交流事業

- ▶「外交と日本コレクション」プロジェクトにおいて米国スミソニアン研究機構との研究交流推進を担当

4 主な展示・資料活動

- ▶国立歴史民俗博物館総合展示第5室・第6室（近代史展示）リニューアル委員会 展示プロジェクト委員

三 社会活動等

1 館外における各種委員

日本国際問題研究所日本政治外交史研究会委員東京大学史料編纂所日蘭交渉史研究会メンバー

2 講演・カルチャーセンターなど（友の会も含む）

- ▶第123回歴史博フォーラム「世界史の中の明治維新と国民の誕生」国立歴史民俗博物館, 2025年12月13日（主催・司会）
- ▶Mariko Fukuoka "Heusken's Life in Yedo: 1858-1861." Lecture at the Yearly Commemoration of Henry Heusken at the Dutch Embassy Tokyo, January 16th 2026. (招待講演)
- ▶福岡万里子「幕末期徳川外交と遣米使節贈答品」国際シンポジウム「幕末外交と日本コレクション—遣外使節団の贈答品を探して」2026年1月10日（国際学会主催・発表）

真柄 侑 MAGARA Yuki 特任助教（2024.7～）

【学歴】東北学院大学文学部歴史学科（2016年卒業），東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻博士前期課程（2019年修了），東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻博士後期課程（2025年修了）

【職歴】琵琶湖博物館特別研究員（2019.9～2020.9），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部特任助教（2024.7）

【学位】博士（文学）（東北学院大学）（2025年取得）【専門分野】民俗学【主な研究テーマ】日本の農業の展開に関する民俗学的研究，生業をめぐる地域の暮らしとその変化について【所属学会】日本民俗学会，京都民俗学会，日本村落研究学会

●主要業績

1. 【論文】「戦後農政における展開と人びとの向き合い方—岩手県紫波郡紫波町片寄漆立の『志和型複合経営』をめぐって—」（『日本民俗学』第311号，pp.1-34，査読有，2022年8月）
2. 【調査報告書】『漆立の民俗 岩手県紫波郡紫波町片寄漆立地区のくらし』，共著書（政岡伸洋監修，真柄侑・紫波町教育委員会事務局生涯学習課編），133頁，紫波町教育委員会，2020年

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

真柄 侑 (Yuki Magara) - マイポータル- researchmap

二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

広領域連携型基幹研究プロジェクト「横断的・融合的地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」分担者（2022～2027年度）

「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」分担者（2022～2027年度）

2 外部資金による研究

科学研究費補助金基盤研究（C）24K04479「津波常襲地域における日常生活の特徴と災害対応の内面化に関する民俗誌的調査研究」研究協力者，2025～2027年度

松尾 恒一 MATSUO Koichi 教授（2010～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授（2023～），生年：1963

【学歴】國學院大學文学部日本文学科（1985年卒業），國學院大學大学院文学研究科博士前期課程（1987年修了），國學院大學大学院文学研究科博士後期課程（1995年修了）

【職歴】國學院大學文学部専任講師（1996），大倉山精神文化研究所非常勤研究員（1997），國學院大學文学部助教授（1999），同大学日本文化研究所兼助教授（1999），国立歴史民俗博物館民俗研究部助教授（2002），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授（2004），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授併任（2004），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2007），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2007），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2010），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任（2010～2019，2021），総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2023）

【学位】博士（文学，國學院大學）【専門分野】民俗宗教，日垂欧文化交流史【主な研究テーマ】民俗宗教・民間信仰，権門寺院の儀礼・芸能の研究，アジアにおける宗教・信仰の交流史と民俗【所属学会】日本民俗学会，藝能学会，芸能史研究会，儀礼文化学会【研究目的・研究状況】中国大陸・台湾・東南アジア等，海外の民俗・歴史学研究者・研究機関とも交流を推進しつつ，フィールドワークと歴史資料を中心とする調査，研究を進めている。

一、主要業績

1. 【著書】『倭寇・海商・華僑—海はいかにして歴史をつないだか』，筑摩書房，全256頁，2025年11月
2. 【著書】『日本藏明清時期中日貿易相關民俗資料選編（日本所在，明清時代貿易關係民俗資料集）』，陝西師範大学出版社，全337頁，2023年
3. 【共著】『從海洋看民俗分化—東亞海域交流一千五百年（海洋より見る民俗変容—東アジア海域の交流千五百年）』，共著者畢雪飛，四川大学出版，2025年11月，全214ページ，（四川大学より，2025年度的最優秀賞図書として荣誉证书の授与を受ける。）
4. 【著書】『日本の民俗宗教』，全288頁，筑摩書房，2019年11月
5. 【著書】『物部の民俗といざなぎ流』，全250頁，吉川弘文館，2011年6月
6. 【科研】科研基盤C「日本仏教と東南アジア仏教との比較研究—政治と権力の視点を中心として」（研究代表者，2019～2023年度）

●2025年度の研究教育活動（成果を出す以前の研究・調査途中のものも含む）

1 著書

- ・監修『ポプラディアプラス日本の伝統文化』第2巻，ポプラ社，全223頁，ISBN：978-4-591-18786-9，2026年4月1日
- ・監修『日本のれきし おはなし30』，JTBパブリッシング，全272頁，ISBN978-4-533-17168-0，2026年3月31日
- ・単著『倭寇・海商・華僑—海はいかにして歴史をつないだか』，筑摩書房，全256頁，2025年11月，ISBN
- ・共著（共著者・畢雪飛）『從海洋看民俗分化—東亞海域交流一千五百年（海洋より見る民俗変容—東アジア海域の交流千五百年）』，四川大学出版，全214ページ，2025年11月，*四川大学より2025年度最優秀賞図書として「荣誉证书」を授与された。

2 論文

- ・共著（共著者・鈴木一彌）『【史料紹介】四條流十六代家元入口柏修氏藏，四條流宗家八代目石井治兵衛作圖『日本料理高等之部聞書抄，雜煮三献，三汁十一菜絵圖』（儀礼文化学会『儀礼文化紀要』13号（通巻53号），

pp43-52, 2025年8月, ISSN: 21882339), (査読アリ)

- ・単著「茶の湯と饅頭と仏教」(儀礼文化学会『儀礼文化紀要』14号(通巻54号), pp1-7, 2026年3月, ISSN: 21882339), (査読アリ)
- ・単著「本田安次の民俗芸能研究とその功罪—民俗芸能に見ようとしていたもの—」(藝能学会『年刊 藝能』32号, pp22-34, 2026年3月, ISSN: ナシ), (査読アリ)
- ・単著「観音・媽祖・マリア 日中欧の交流と女神のメタモルフォーシス」(阿部泰郎監修『日本中世の宗教世界』勉誠社, pp407-432, 557, 2025年, ISBN: 978-4-585-31021-1), (査読ナシ)

3 口頭発表

1) 国際会議

単独〔招待・講演〕「日本長崎華僑社会的媽祖信仰：歴史と現状—与香港，夏威夷，檳城華人社会的比較（日本長崎の華僑社会的媽祖信仰，歴史と現在—香港，ハワイ，ペナンの華人社会と比較して）」，媽祖信仰文化国際研討会《媽祖对亚太地区的全球贡献与影响》The International Symposium on Mazu Belief and Cultural Practices, ペナン市・Penang Harmony Corporation (HARMONICO), 10月4日, 檳州華人大会堂（ペナン華人大会堂，マレーシア）「日本長崎華僑社会的媽祖信仰：歴史と現状—与香港，夏威夷，檳城華人社会的比較（日本長崎の華僑社会的媽祖信仰，歴史と現在—香港，ハワイ，ペナンの華人社会と比較して）」，媽祖信仰文化国際研討会《媽祖对亚太地区的全球贡献与影响（媽祖信仰のアジア・太平洋地域のグローバル化と貢献，影響）》The International Symposium on Mazu Belief and Cultural Practices, ペナン市・Penang Harmony Corporation (HARMONICO), 10月4日, 檳州華人大会堂（ペナン華人大会堂，マレーシア）

単独〔招待・基調講演〕「木綿:世界の繊維革命と日本の服飾文化」，神奈川大学日本常民文化研究所基幹共同研究「布の製作と利用に関する総合的研究」，神奈川大学比較民俗研究会第188回公開研究会・浙江理工大学服装学院共催，神奈川大学 2025年9月24日

2) 国内発表

単独「本田安次の民俗芸能研究とその功罪—民俗芸能に見ようとしていたもの—」，藝能学会サマーセミナー・昭和女子大学共催「本田安次博士没後25年記念 本田安次の芸能研究」，昭和女子大学，2025年7月5日

1. 主な共同研究等参加状況

●外部資金による研究

科研基盤B, 吉田一彦代表「神仏の融合・複合の形成史の比較研究——日本とアジアの国々との様相を対比して」(研究分担者, 2023～2025年度)

●教育

総研大研究生指導担当教員

千葉大学大学院客員教授（人工物デザイン史論）

國學院大學非常勤講師（伝承文学演習）・國學院大學大学院非常勤講師（アジア比較文化論）

上智大学非常勤講師（多様性の日本民俗文化）

法政大学沖縄文化研究所研究員

二 主な研究教育活動（共同研究，調査，展示，教育等）

1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）

① 歴博（基幹・基盤・開発型，国内交流事業）

歴博-千葉大学大学院連携教育事業担当

2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金，各種補助金による研究，企業・自身体による研究）

科研基盤B, 吉田一彦代表「神仏の融合・複合の形成史の比較研究——日本とアジアの国々との様相を対比して」(研究分担者, 2023～2025年度)

中国湖南省人文社科基金項目，阮將軍代表，湘西南非遺產品創新設計及其國際化傳播路徑研究（中国湖西・湖南地域の無形文化財の創新のためのデザインと国際化，文化傳播の研究），プロジェクト番号：25YBA334, 2025年～2028年

5 教育（総研大シンポ，大学院セミナー担当，大学非常勤講師，学位審査の主査・副査・委員，博物館活動，教

育プログラムなど)

総研大学学位審査の副査(日本歴史コース博士課程院生牧野由佳氏の学位審査)

千葉大学大学院客員教授(人工物デザイン史論)

國學院大學非常勤講師(伝承文学演習)・國學院大學大学院非常勤講師(アジア比較文化論)

上智大学非常勤講師(多様性の日本民俗文化)

法政大学沖縄文化研究所研究員

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員(学会, 学術会議, 文化庁・学振・自治体審議委員など)
 - ・儀礼文化学会・理事 2022年度～2025年度
 - ・藝能学会・常任理事 2023年度～現在
 - ・儀礼文化学会学会紀要・編集委員 2022年～現在
 - ・國學院大學國文學會・役員 1999年～現在
 - ・中国莆田学院媽祖文化研究院刊行『媽祖文化研究』編集委員, 2020年～現在
- 2 講演・カルチャーセンターなど(友の会も含む)
 - ・単独〔招待・講演〕「ヤマトノオロチと日本の龍神信仰」, ヒロシマからのメッセージ東アジアの友好と創造の祭典, 広島アステールプラザ, 主催: ヒロシマ・ミュージック・プロジェクト, 共催: 公益財団法人広島市文化財団アステールプラザ・ひろしまオペラ・音楽推進委員会, 2026年3月15日
 - ・単独〔招待・講演〕「【くらしの民俗】くらしのなかに儀礼文化を探索する」, 儀礼文化学会(東京), 2025年2月2日
 - ・単独「歴博展示に見る江戸時代に始まる生活変化—シルク・木綿・砂糖・銅—」, 歴博友の会, 2025年度第1回 民俗学講座, 2026年1月30日
- 3 マスコミ(テレビ, ラジオ, 新聞, 雑誌など)
 - ・東洋経済新報社『東洋経済』2026年3月号に, 単著『『倭寇・海商・華僑』(筑摩書房, 2025年)が紹介され, 酒井一臣(東京女子大学教授)により高い評価を受けた。
 - ・PHP研究所『歴史街道』2026年3月号に, 単著『『倭寇・海商・華僑』(筑摩書房, 2025年)が紹介され, 高い評価を受けた。
- 4 社会連携(国内)

伴谷晃二(エリザベト音楽大学名誉教授)代表「ヒロシマ・ミュージック・プロジェクト(Hiroshima Music Project)主催「神楽の学校」「東アジア音楽祭」への協力。
- 5 国際連携(日本国内で行われたものも含む)

単独〔招待・基調講演〕「木綿:世界の繊維革命と日本の服飾文化」, 神奈川大学日本常民文化研究所基幹共同研究「布の製作と利用に関する総合的研究」, 神奈川大学比較民俗研究会第188回公開研究会・浙江理工大学服装学院共催, 神奈川大学 2025年9月24日

四 活動報告

- 1 受賞歴

畢雪飛との共著『從海洋看民俗分化—東亜海域交流一千五百年(海洋より見る民俗変容—東アジア海域の交流千五百年)』(中国)四川大學出版, 2025年11月, 全214頁)が, 四川大學より, 2025年度の同出版社刊行図書の中の最優秀賞図書として榮譽証書の授与を受けた。
- 3 研究・調査プロジェクト報告, 2025年度

中近世, 日中亜の国際交流と日本における民俗文化の変容

○実績報告

国内のほか, マレーシアでの国際シンポジウムに招聘され, 下記の貴重講演, 著書の刊行を行った。主な実績は下記の通り。

【著書】

- ・単著・『倭寇・海商・華僑—海はいかにして歴史をつないだか』, 筑摩書房, 全256頁, 2025年11月, ISBN: 978-4-480-07715-8
- ・共著(共著者・畢雪飛)『從海洋看民俗分化—東亜海域交流一千五百年(海洋より見る民俗変容—東アジア海域の交流千五百年)』, 四川大學出版, 全214頁, 2025年11月, ISBN: 9787569081954 *四川大學より2025年度最

優秀賞図書として榮譽証書を授与された。

【講演等口頭発表】

- ・単独〔招待・講演〕「日本長崎華僑社会的媽祖信仰：歴史と現状—与香港，夏威夷，檳城華人社会的比較（日本長崎の華僑社会の媽祖信仰，歴史と現在—香港，ハワイ，ペナンの華人社会と比較して）」，媽祖信仰文化国際研討会《媽祖對亞太地区的全球貢獻與影響（媽祖信仰のアジア・太平洋地域のグローバル化と貢獻，影響）》The International Symposium on Mazu Belief and Cultural Practices，ペナン市・Penang Harmony Corporation (HARMONICO)，10月4日，檳州華人大會堂（ペナン華人大會堂，マレーシア）
- ・単独〔招待・基調講演〕「木綿:世界の繊維革命と日本の服飾文化」，神奈川大学日本常民文化研究所基幹共同研究「布の製作と利用に関する総合的研究」，神奈川大学比較民俗研究会第188回公開研究会・浙江理工大学服装学院共催，神奈川大学 2025年9月24日

【その他】

単著『倭寇・海商・華僑』が，学術誌『比較民俗研究』40号（神奈川大学比較民俗研究会，2026年3月，評者：徐梓淇神奈川大学大学院博士課程），藝能学会『藝能』32号（2026年3月，評者：宮嶋隆多輔國學院大學大学院博士課程）において，内容の紹介とともに高い評価を受け，また，PHP研究所『歴史街道』（2026年3月），東洋経済新聞社『東洋経済』（2026年5月，評者：酒井一臣東京女子大学教授）に紹介され，一般誌からも注目された。

松田 睦彦 MATSUDA Mutsuhiko 教授（2024.7～）

博物館資源センター長（2024～2025年度）

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授（2024年度～），生年：1977

【学歴】早稲田大学第一文学部文学科日本文学専修（1999年卒業），成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻博士課程前期（2002年修了），成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻博士課程後期（2007年修了）

【職歴】成城大学民俗学研究所研究員（2007），成城大学非常勤講師（2008），荒川区教育委員会事務局社会教育課文学館調査担当学芸員（2008），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2009），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2014），ソウル大学校社会科学研究院比較文化研究所客員研究員（2016～2017），韓国国立民俗博物館客員研究者（2017），総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2021），神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター客員研究員（2022～），総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任（2023），大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授（2024），総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任（2024）

【学位】博士（文学）（成城大学）（2007年取得）【専門分野】民俗学【主な研究テーマ】生業の技術および生業をとりまく信仰・儀礼・社会組織等の生活文化に関する総合的研究【所属学会】日本民俗学会・日本民具学会・日本文化人類学会【研究目的・研究状況】さまざまな生業の技術や，信仰・儀礼をはじめとする生業にともなう生活文化について総合的視点から明らかにする。また，生業にともなう人の移動に注目し，定住を前提とする従来の民俗学的研究に対し，移動の日常性を前提とする研究を提唱している。現在は日本と韓国との海をめぐる生活文化の比較研究も行っている。

●主要業績

1. 【単著】『人の移動の民俗学—タビ〈旅〉から見る生業と故郷』311頁，慶友社，2010年
2. 【編著】『海の生産と信仰・儀礼をめぐる文化体系の日韓比較研究』（『国立歴史民俗博物館研究報告』第221集），166頁，2020年
3. 【共編著】『柳田國男と考古学—なぜ柳田は考古資料を収集したのか』158頁，新泉社，2016年
4. 【編著】『徳川林政史研究所所蔵「駿州・豆州・相州 御石場絵図」の研究』（2014～2016年度 科学研究費補助金若手研究（B）（課題番号2670299）「安山岩に関する歴史・民俗学的研究」成果報告書），175頁，2017年
5. 【映像】民俗研究映像『石を切る—花崗岩採掘の伝統と革新』DVD，200分，国立歴史民俗博物館，2012年度

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/matsudamutsuhiko>

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究「東アジアにおける文化の伝播と地域的展開に関する学際研究—「耕織図」の日韓比較を中心として—」(研究代表者:松田睦彦), 2025~2027年度

② 他の機関

神奈川大学非文字資料研究センター共同研究「近現代日本の宿〈ヤド〉の体系化に関する研究」(研究代表者:山本志乃〔神奈川大学〕)客員研究員, 2023年度~ 2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究B「朝鮮海出漁資料からみた植民地社会の実態研究」(研究代表者:松田睦彦), 2023~2026年度

科学研究費基盤研究A「19世紀以降の東アジア世界における海藻の生産・流通・消費に関する総合研究」(研究代表者:塚本明〔三重大学〕), 研究分担者, 2022~2026年度

科学研究費基盤研究A「中世東アジア海域の地域社会と琉球帝国—集落・信仰・技術—」(研究代表者:村木二郎〔国立歴史民俗博物館〕), 研究分担者, 2022~2026年度

科学研究費基盤研究B「国衙文書と本拠から解き明かす国衙系領主の統治技術と実態」(研究代表者:田中大喜〔日本大学〕), 研究分担者, 2024~2027年度

科学研究費基盤研究B「気候変動や自然災害に基づく中世民衆生活史像の再構築」(研究代表者:土山祐之〔国立歴史民俗博物館〕), 研究分担者, 2024~2027年度

科学研究費基盤研究B「江戸城石垣の石材調達と海送に関する融合研究—海底から探る城普請—」(研究代表者:宮武正登〔佐賀大学〕), 研究分担者, 2025~2028年度

5 教育

総合研究大学院大学, 「生態環境史」

総合研究大学院大学, 集中講義B「地域研究の方法」

三 社会活動等

1 館外における各種委員

【学会】日本民具学会 理事

【文化財】千葉県文化財保護審議委員, 熱海市教育委員会史跡江戸城石垣石丁場跡調査・整備委員会 委員

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

日本と韓国における漁業や漁民の往来についての現地調査を実施した。

三輪 仁美 MIWA Hitomi プロジェクト研究員 (2023.4~2026.3)

①MIWA Hitomi

②研究部プロジェクト研究員

④学歴: 國學院大學文学部史学科 (2010年卒業), 國學院大學大学院文学研究科史学専攻博士課程前期 (2013年修了), 國學院大學大学院文学研究科史学専攻博士課程後期 (2016年中途退学)

職歴: 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所企画調整部展示企画室アソシエイトフェロー (2016年7月~2017年3月), 宮内庁書陵部編修課皇室制度調査室研究員 (2017年4月~2021年11月), 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館プロジェクト研究員 (2023年4月~2026年3月)

⑤修士 (歴史学, 國學院大學)

⑥日本古代史

⑦皇位継承儀礼の制度史的研究, 皇室系図に関する研究, 私撰史書の編纂と伝来に関する研究

⑧国史学会, 日本古文書学会, 日本歴史学会

●主要業績 (研究者になってこれまで行ってきた自身の研究の代表的なもの)

- ・論文：「日本古代「国母」考」（『日本歴史』910, pp.1-16, 2024年）, 「「片節会」に関する覚書」（『書陵部紀要』71, pp.15-26, 2021年）, 「大殿祭と王位継承」（『國學院大學大学院紀要』45, pp.219-240, 2013年）, 「宮内庁書陵部所蔵『九条殿紀』第二巻の再検討」（『古文書研究』76, pp.1-20, 2013年）
- ・調査・発掘調査報告書, 自治体史・史料集, 辞典など:
- ・展示図録・資料図録・映像・DB:「デジタル延喜式」（共同制作, 巻14・21本文校訂）

●2025年度の研究教育活動（成果を出す以前の研究・調査途中のものも含む）

一 研究業績（公開, 発表, 刊行済みのもの）

- 4 展示図録・資料図録・映像・DB・デジタル・コンテンツ開発:「デジタル延喜式」（共同制作, 巻30本文校訂）
- 5 学会・外部研究会発表
「歴史資料のTEIマークアップ:『延喜式』の校異注記述と固有名詞の一括処理」（渡邊美紗子・戸村美月・三上喜孝・後藤真・永崎研宣氏と共同報告）, 第138回人文科学とコンピュータ研究発表会, 慶応義塾大学, 2025年5月17日

二 主な研究教育活動（共同研究, 調査, 展示, 教育等）

- 1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）
 - ② 他の機関
国際日本文化研究センター共同研究「日文研所蔵井上哲次郎関係書簡の研究—国民国家の始発と終焉」（研究代表: 磯前順一・菊田真司）
 - ③ 機構（基幹研究プロジェクト）
広領域型基幹研究プロジェクト「異分野融合による総合書物学の拡張的研究」ユニット「延喜式のデジタル技術による汎用化」（研究代表: 三上喜孝）
- 2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金, 各種補助金による研究, 企業・自身体による研究）
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23K18722/>

村木 二郎 MURAKI Jiro 准教授（2008.10～）

併任: 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授（2023年度～）, 生年: 1971

【学歴】京都大学文学部史学科（考古学専攻）（1995年卒業）, 京都大学大学院文学研究科歴史文化学専攻考古学専修修士課程（1997年修了）, 京都大学大学院文学研究科歴史文化学専攻考古学専修博士後期課程（1999年中退）

【職歴】国立歴史民俗博物館考古研究部助手（1999）, 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004）, 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007）, 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教併任（2008）, 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2008）, 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任（2008）, 総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース准教授併任（2023）

【学位】文学修士（京都大学）（1997年取得）【専門分野】日本考古学【主な研究テーマ】日本中世の考古学的研究【所属学会】史学研究会, 日本考古学協会【研究目的・研究状況】信仰, 都市, 生産技術など, 考古学の立場から中世史を総合的に研究する。

●主要業績

1. 【新・特集展示】『海の帝国琉球—八重山・宮古・奄美からみた中世—』令和2年度歴博新特集展示, 展示代表, 2021年
2. 【企画展示】『時代を作った技—中世の生産革命—』平成25年度歴博企画展示, 展示代表, 2013年
3. 【研究報告特集号】編著「特集号 中世東アジア海域世界における琉球の動態に関する総合的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第226集, 305頁, 2021年3月
4. 【研究報告特集号】編著「特集号 中世の技術と職人に関する総合的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第210集, 272頁, 2018年3月
5. 【編著】『中世のモノづくり』164頁, 朝倉書店, 2019年3月

●2024年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文

「積上式経筒に関する一考察」『国立歴史民俗博物館研究報告』258, pp.1-21, 2026年3月, 査読あり

「中国・四国地方の青銅製経筒と鋳物師」『島根県古代文化センター研究論集』36, pp.23-36, 2026年3月, 査読なし

7 その他

「沈黙を破る島々の歴史証言—八重山・宮古・奄美—2」『REKIHAKU』15, pp.68-73, 2025年6月

「沈黙を破る島々の歴史証言—八重山・宮古・奄美—3」『REKIHAKU』16, pp.70-75, 2025年10月

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究「平安期の社会の構造と変動を外的インパクトから捉える—交流・天災・疫病—」(研究代表者: 田中史生), 2025~2027年度

2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究A「中世東アジア海域の地域社会と琉球帝国—集落・信仰・技術—」(研究代表者: 村木二郎) 研究代表者, 2022~2026年度

科学研究費基盤研究B「実証的な中世マクロ経済推計モデル構築に向けた基礎研究」(研究代表者: 中島圭一) 研究分担者, 2023~2025年度

科学研究費基盤研究B「気候変動や自然災害に基づく中世民衆生活史像の再構築」(研究代表者: 土山祐之) 研究分担者, 2024~2027年度

科学研究費基盤研究B「国衙文書と本拠から解き明かす国衙系領主の統治技術と実態」(研究代表者: 田中大喜) 研究分担者, 2024~2027年度

科学研究費挑戦的研究(開拓)「中世農業生産・流通量推計方法の構築」(研究代表者: 中島圭一) 研究分担者, 2024~2029年度

4 主な展示・資料活動

総合展示第1室「古代国家と列島世界」, 第2室「王朝文化」「東国と西国」「大名と一揆」「民衆の生活と文化」「大航海時代のなかの日本」展示プロジェクト委員, 第2室展示代表

総合展示第2室リニューアル委員会(代表)

5 教育

千葉大学特別研究C(留学生プロジェクト)

三 社会活動等

1 館外における各種委員中世学研究会世話人

文化庁中世城館・近世城郭遺跡等の保存に関する検討会委員

熱海市史跡江戸城石垣石丁場跡調査・整備委員会委員(委員長)

印旛郡市文化財センター理事

静岡県文化財保護審議会委員

史跡小田原城跡調査・整備委員会委員

2 講演・カルチャーセンターなど

「遺跡からよみとく謎多き古代・中世の転換期」朝日カルチャー, 2025年9月26日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

福井県一乗谷朝倉氏遺跡や豊後府内大友氏遺跡など, 中世地方都市遺跡を巡見し, 最新の発掘調査成果に触れた。また中尊寺境内の経塚確認調査に参加し, 東北における経塚の特徴の一端に触れ, 当時の仏教文化の在り方の地域性に関して理解が進んだ。

モリス ジェームズ・ハリー MORRIS James Harry 特任准教授（2025.8～）

併任：人間文化研究機構 人間文化研究創発センター 研究員（2025.8～），生年：1989

【学歴】セント・アンドリュース大学神学部神学科（2012年卒業），セント・アンドリュース大学神部博士課程（2018年修了）

【職歴】福島工業高等専門学校一般学科特任助教（2017），筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター助教（2018），早稲田大学早稲田高等研究所助教（2022），早稲田大学早稲田高等研究所准教授（2024），宇都宮大学国際学部助教（2024.11），人間文化研究機構人間文化研究創発センター研究員（2025.8），国立歴史民俗博物館研究部特任准教授併任（2025.8）

【学位】神学博士（セント・アンドリュース大）（2018年取得）【専門分野】日本史，宗教学，デジタル・ヒューマニティーズ【主な研究テーマ】日本におけるアブラハム系宗教史【所属学会】英国日本研究協会，王立アジア協会，王立人類学協会，キリシタン文化研究会，日本近世文学会，日本中東学会，那須文化研究会，ヨーロッパ日本研究協会【研究目的・研究状況】近年，私はデジタル・ヒューマニティーズの限界と可能性に関する一連の研究の一環として，江戸時代文書の翻刻作業と現在の翻刻方法が抱える限界について研究している。また，東アジアにおけるキリスト教とイスラム教の歴史的関係に関する研究も継続している。

●主要業績

1. 【論文，共著】Accuracy Isn't All: Testing KuroNet Kanbun OCR (『Digital Studies/Le champ numérique』Vol. 15, no. 1, pp.1-32, 2025年10月)
2. 【論文】A New Way to Input Ligatures Found in Kirishitan-ban (『Manuscript Studies』) Vol. 9, no. 1, pp.118-130, 2024年
3. 【共編】『Digital Humanities and Religions in Asia: An Introduction』De Gruyter, 340頁, 2024年
4. 【論文】Measles Epidemics During the Edo Period: An Analysis using DANJURO Ver. 7.0 (『Hungarian Journal of English and American Studies』) Vol. 30, no. 2, pp.346-372, 2024年11月
5. 【分担執筆】明治キリスト教徒とムスリム関係 (『近代日本と中東・イスラーム圏：ヒト・モノ・情報の交錯から見る』小野亮介，海野典子編) pp.346-372, 2022年

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

2 論文（省略）

「Kirishitan Studies in the Digital Space: An Introduction to Limitations and Some Suggested Solutions」DNP文化振興財団 学術研究助成紀要, pp.128-139, 2025年12月

1 教科書【分担執筆】

『英語リテリングの指導・テスト・評価ガイド—中高生から使えるオリジナル教材付き』平井明代編，大修館書店，340頁，2025年5月

7 学会・外部研究会発表（省略）

「Reconstructing Japan's Relations Beyond China Through the Lives of "Persian" Visitors」Association for Asian Studies 2026 Annual Conference 2026年3月，「Wagō rakuda no sekai (1825) : A Comparison of Human and Digital Transcription Methods」International Symposium of the Association for Early Modern Japanese Literature 2025年9月，「Human-Horse Interactions as Captured in Pre-Modern Japanese Medical Texts」Equine Cultures in Transition 2025 2025年6月

二 主な研究教育活動

- 1 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金，各種補助金による研究，企業・自身体による研究）若手研究「Syriac Christianity, Syriac Studies and Modern Japan: An Intellectual History」（2023～2026年）研究代表者

三 社会活動等

1 館外における各種委員

The Digital Orientalist 編集委員

四 活動報告

研究・調査プロジェクト報告

科研費プロジェクトに関する報告書を作成しており、来年度中に単著の本の完成を予定している。

山下 優介 YAMASHITA Yusuke テニュアトラック助教（2023～）

【学歴】筑波大学人文・文化学群人文学類考古学・民俗学主専攻卒業（2014年）、東京大学大学院人文社会系研究科考古学専門分野修士課程修了（2016年）同博士課程修了（2021年）

【職歴】国立大学法人東京大学キャンパス計画室埋蔵文化財調査室助教（～2023年3月）

【最終学位】博士（文学）東京大学【専門分野】考古学【主な研究テーマ】弥生・古墳時代の交流関係や社会の変化【所属学会】考古学研究会、日本考古学協会、日本植生史学会

●主要業績

1. 【論文】山下優介「弥生・古墳時代移行期における近江系土器の移動とその背景」東京大学大学院人文社会系研究科，2021年（学位請求論文）
2. 【論文】山下優介「近江地域北部の弥生時代後期から古墳時代前期の土器編年—器台形土器を中心とした検討—」『東京大学考古学研究室研究紀要』33, pp.121-153, 2020年
3. 【論文】山下 優介・守屋 亮・佐々木由香「市川市域における古墳時代から平安時代の植物利用—レプリカ法による土器圧痕の調査を中心に—」『市史研究いちかわ』13, pp.29-48, 2022年
4. 【論文】山下優介「弥生・古墳時代の独立棟持柱建物に関する考察」『筑波大学 先史学・考古学研究』26, pp.23-47, 2015年

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

https://researchmap.jp/yamashita_aru_utokyo

二 主な研究教育活動

- 1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）
 - ① 歴博（基幹・基盤・開発型、国内交流事業）

基幹研究「小渡遺跡を中心とする十腰内文化の研究」（研究代表者：阿部昭典）2023～2025年度

開発型共同研究「弥生時代の洪水災害に対する人びとの選択と社会の変化」（研究代表者：山下優介）2024～2026年度
- 2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金、各種補助金による研究、企業・自身体による研究）

科学研究費補助金(若手)「弥生・古墳時代の集落動態と洪水災害に関する考古学・年代学的研究」研究代表者，2025～2027年度

三 社会活動等

- 2 講演・カルチャーセンターなど（友の会も含む）

「土器から読み解く先史時代の植物とくらし」第315回くらしの植物苑観察会2025年9月26日

「韓国靑島遺跡と弥生時代後半期の日朝交流」2025年度歴博友の会「企画講座」2025年11月29日

「土器から探る弥生時代の食事とくらし」板橋区令和7年度文化財講座（考古）2025年12月14日

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

「弥生・古墳時代における洪水災害に関する基礎的研究」に取り組み、本プロジェクトに関連した研究会に参加し、あわせて福井市・あわら市などで現地調査を実施した。この成果の一部は、上記「二 主な研究教育活動」に述べた開発型共同研究「弥生時代の洪水災害に対する人びとの選択と社会の変化」の共同研究会にて報告を行った。

山田 慎也 YAMADA Shinya 教授 (2019.7～)

副館長 (2022.4～2026.3.31)

併任：総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授 (2023～)，生年：1968

【学歴】慶應義塾大学法学部法律学科 (1992年卒業)，慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程 (1994年修了)，慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程 (1997年単位取得退学)

【職歴】国立民族学博物館講師 (COE非常勤研究員) (1997)，東京外国語大学非常勤講師 (1997)，国立歴史民俗博物館民俗研究部助手 (1998)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手 (2004)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教 (2007)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授 (2007)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授併任 (2008)，大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授 (2019.7～)，総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授併任 (2019.7～)，広報連携センター長併任 (2020.4～2022.3)，副館長 (2022.4～2026.3)，総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本歴史研究コース教授併任 (2023～)

【学位】博士 (社会学，慶應義塾大学) (2000年取得) 【専門分野】民俗学・文化人類学 【主な研究テーマ】葬制と死生観・儀礼研究 【所属学会】日本民俗学会，日本文化人類学会，日本宗教学会，宗教と社会学会，葬送文化学会

●主要業績

1. 【単著】『現代日本の死と葬儀—葬祭業の展開と死生観の変容』350頁，東京大学出版会，2007年9月
2. 【編著】山田慎也・土居浩編『無縁社会の葬儀と墓—死者との過去・現在・未来』245頁，2022年7月
3. 【論文】「近現代の位牌の形態と流通」『国立歴史民俗博物館研究報告』第257集，pp.79-99，2026年3月 (査読有)
4. 【研究報告特集号：編著】『家内における死者祭祀・祭具の現在とその歴史的検討—：変容するモノ・家族・社会民俗儀礼の変容に関する資料論的研究』国立歴史民俗博物館研究報告第257集，186頁，2026年3月
5. 【資料図録：編著】『ライデン民族学博物館・国立歴史民俗博物館所蔵死絵』，2016年3月

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/shinya9>

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

基幹研究「高齢多死社会における生前から死後の移行に関する統合的研究」代表者 (2023～2025年度)

基幹研究「死者への行為が形成する認識と社会変容」分担者 (2023～2025年度)

研究映像共同研究「アーカイブズ学との連携による映像資料の多角的価値評価と活用モデルの構築」分担者 (2025～2027年度)

機構連携研究「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発」分担者 (2022～2027年度)

2 外部資金による研究

科学研究費基盤研究 (B) 「引き取り手のない死者の公的対応に関する文化的研究：誰もが安心して死を迎えるために」研究代表者，2025年度～2028年度

4 主な展示・資料活動

企画展示「大葬式展」展示プロジェクト代表

総合展示第4室「『民俗』へのまなざし」展示プロジェクト委員

総合展示第4室「おそれと祈り」展示プロジェクト委員

5 教育

東京大学文学部・文学研究科非常勤講師 (死生学)

三 社会活動等

1 館外における各種委員

日本民俗学会理事・評議員
 日本葬送文化学会副会長
 冠婚葬祭総合研究所客員研究員
 全国冠婚葬祭互助協会葬儀品質認定制度審査会委員
 供養の日普及推進協会顧問

四 活動報告

2 特別委員会など館長からの委嘱を受けたもの

人間文化研究機構 次世代人文学検討会議
 大規模改修作業部会長

3 研究・調査プロジェクト報告

死者表象となるものは時代によっても変化しており、また多様であるが、死者の表象として近年では特に写真が重視されている。特に位牌と写真の融合は近代には既に行われており、手元供養などでは遺骨と遺影が組み合わさった形態も重用されていることが明らかとなった。

游 乃蕙 (YU, Naihui)

メタ資料学研究センター プロジェクト研究員 (2025年12月～)

学歴：国立台湾大学文学部人類学科・国立台湾大学文学部日本語文学科（ダブルメジャー）、北海道大学文学部北方文化講座（国際交換留学）、東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻修士課程、東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻博士課程満期退学

職歴：アズビル台湾株式会社BA正社員、東京大学教養学部前期課程TA、東京大学教養学部後期課程TA、東京大学大学院総合文化研究科RA、早稲田大学GECゲストスピーカー、埼玉工業大学人間社会学部非常勤講師、東邦大学看護学部特別講師、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部プロジェクト研究員

最終学位：修士（学術）（東京大学大学院）

専門分野：文化人類学・民俗学

主な研究テーマ：リミナリティとしての離脱と社会統合——台湾日系族群「湾生」をめぐる帝國的ノスタルジアの脱構築と親日台湾論の再構築

所属学会：日本文化人類学会、日本民俗学会、日本台湾学会

研究目的・研究状況：日本統治期台湾で生まれ育った日本人、いわゆる「湾生」の植民地経験および帝國的ノスタルジアを分析対象とし、その歴史的体験が戦後における台湾と日本の社会関係を脱構築から再構築へと導く過程について検討するについての研究を進めている。

メールアドレス：yunaihui@rekihaku.ac.jp

●主要業績（研究者になってこれまで行ってきた自身の研究の代表的なもの）

一 著書（単著・共著・編著・監修）

- ・共著：『End of Empire Migrants in East Asia: Repatriates, Returnees and Finding Home』(Chapter 13 「An anthropology of nostalgia: wansei's postwar life and their Taiwan recognition」, Routledge, pp.227-250, 2023年4月)

二 論文

- ・「The wandering stranger: with a focus on the nostalgia of Wansei through the Satō Haruo's literature」(『Taiwan Insight』, 2019年10月) (査読付き)
- ・「湾生一詞の源起與湾生意象の再審視：以戦前和戦後の文本為例」(『台湾風物』75巻1期, pp.93-164, 2025年3月) (査読付き)

三 学会・外部研究会発表

- ・「Taiwan literature during the period of Japanese rule: An anthropological perspective with a focus on Satō

Haruo “Nichigetustan ni asobu ki”, “Shokuminchi no tabi” (『The 16th Annual Conference of European Association of Taiwan Studies』, UK: Nottingham Trent University, 2019年4月11日)

- ・「湾生一詞的分析と探討:文化人類学中的湾生懷舊與臺灣認識」(『第六屆台灣與東亞近代史青年學者學術研討會』, オンライン:国立政治大学台湾史研究所, 2022年3月12日)
- ・「ノスタルジアの人類学:「湾生」の戦後と台湾認識」(国際シンポジウム『引揚げと帰国:引揚げ第一歩の地「長崎」で考える』, 長崎:長崎大学総合教育研究棟, 2022年11月27日)

四 その他

- ・「解題:島村恭則 民俗学は一門怎麼樣的學問」(『日常と文化』第7号, pp.117-118, 2019年10月)
- ・「解題:島村恭則 何謂民俗学—多樣化的姿態與一貫的視野—」(『日常と文化』第8号, pp.103-104, 2020年10月)
- ・「『台湾協会報』からみる湾生研究の可能性」(『台湾協会報』第799号, p.3, 2021年5月)
- ・コメンテーター(予定)「樋口祐熙「戦後日本における台湾からの引揚げ者の記憶の在り方—世代の視点から—」」(『日本台湾学会第28回学術大会』, 東京:立教大学池袋キャンパス, 2026年5月23日)

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績(公開, 発表, 刊行済みのもの)

Research Map: <https://researchmap.jp/yunaihui>

二 活動報告

1 研究・調査プロジェクト報告

2025年度は, プロジェクト研究員として, 奥州市および与論町における地域資料の整備・保存ならびに共同研究の推進に取り組んだ。まず奥州市での活動として, 同市における記憶継承のあり方や歴史的建造物が抱える課題について, 現地関係者の意見を踏まえつつ他地域との比較検討を行い, 地域間の相違を明らかにした。さらに, 民具については個別資料の保存状況を確認するとともに, えさし郷土文化館における展示を通じて見出される意義について検討した。

次に, 与論町での活動として, 「島の自然と暮らしのゆんぬ古写真展 vol.5 〜めぐる〜」の設営および撤収に加わったほか, 与論民俗村での打合せを通じて, 島の歴史的背景や生活様式への理解を深めた。さらに, 方言の保存や記憶継承の現状を把握するとともに, 与論町教育委員会の学芸員の同行のもと, 与論民俗村所蔵の民具の保存状況を確認した。加えて, 一般住民および関係者との交流を通じて, 各人の出自に関わる歴史が自身の湾生研究と一部関連することが明らかとなり, 今後の関連研究の可能性を検討するための基盤を得た。

2 その他(研究の目的, 意義など)

自身の研究調査として, 博多における故・人類学者泉靖一による引揚げ者救助活動について検討を行った。福岡市市民福祉プラザ「ふくふくプラザ」で開催されている「資料展 引揚げ港・博多」(常設展)においては, 泉に関する展示解説が行われていることを確認した。また, 聖福寮跡(聖福寺境内)および二日市保養所跡(済生会特別養護老人ホーム「むさし苑」施設内)において現地調査を実施し, 泉に関わる関連資料および史跡の状況を把握した。

2026年度も引き続き, 各地域における資料保存および記憶継承の実態把握に努めるとともに, 今後の研究展開に資する基礎的知見の蓄積を進める。

吉井 文美 YOSHII Fumi 准教授(2018.4～)

【学歴】東京大学文学部卒業(2008年), 東京大学大学院人文社会系研究科修士課程修了(2010年), 同博士課程修了(2014年)

【職歴】東京大学史料編纂所リサーチ・アシスタント(2013～2014年), 山形大学人文学部専任講師(2014～2017年), 国立台湾師範大学兼任助理教授(2016～2017年), 山形大学人文社会科学部専任講師(2017～2018年)

【学位】博士(文学, 東京大学)【専門分野】日本近代史, 東アジア国際関係史【主な研究テーマ】日本の帝国支配をめぐる研究, 近代日本の対中政策とその国際的影響【所属学会】史学会, 日本植民地研究会, 東アジア近代史学会, 社会経済史学会, 歴史学研究会

●主要業績

1. 【著書】『日本の中国占領地支配：イギリス権益との攻防と在来秩序』（名古屋大学出版会、2024年）
2. 【論文】「日本の中国支配と海関政策の展開：人事問題を中心として」『日本歴史』865号（2020年）
3. 【論文】「日中戦争下における揚子江航行問題：日本の華中支配と対英米協調路線の蹉跌」『史学雑誌』第127編第3号（2018年）
4. 【共著】『日中戦争の国際共同研究5 中国の戦時経済と変容する社会』（担当範囲：日本の華北支配と開灤炭鉱）（慶應義塾大学出版会、2014年）
5. 【論文】「一九三五年の『新生』不敬記事事件」『日本歴史』789号（2014年）

●2024年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/ysf>

二 主な研究教育活動

- 2 外部資金による研究（科学研究費などの外部資金、各種補助金による研究、企業・自身体による研究）
<https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-25K04412>
- 4 主な展示・資料活動
総合展示第5室・第6室リニューアル委員

三 社会活動等

- 1 館外における各種委員（学会、学術会議、文化庁・学振・自治体審議委員など）
日本植民地研究会幹事
- 2 講演・カルチャーセンターなど（友の会も含む）
「開灤炭鉱からみる東アジア近現代史」、歴博友の会 歴史学講座 2025年5月29日
「近代中国で生きた外国人たち」第461回歴博講演会 2025年7月12日

四 活動報告

- 2 特別委員会委員など館長からの委嘱を受けたもの
第五期将来計画会議委員
- 3 研究・調査プロジェクト報告
広島平和記念資料館、NMI Museum of History and Culture（アメリカ合衆国・サイパン）などで資料調査を行い、戦争に関する展示のあり方について最新の事例を踏まえながら多面的に検討した。資料の解説の仕方、展示のバランス、来館者の受け止め方への対応など、具体例に即しながら考察することができた。研究成果については、来年度刊行予定の論文集に反映させる予定である。

吉村 郊子 YOSHIMURA Satoko 助教（2007～）

【学歴】奈良女子大学理学部生物学科（1992年卒業）、京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程人間・環境学専攻（1994年修了）、ナミビア大学学際研究センター社会科学部門（共同研究生：1995～1998年）、京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程人間・環境学専攻（2000年研究指導認定退学）【職歴】国立歴史民俗博物館歴史研究部助手（2000）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助手（2004）、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教（2007）【学位】人間・環境学修士（京都大学）（1994年取得）【専門分野】生態人類学、文化人類学【主な研究テーマ】日本の山間地域における人・生業・自然に関する人類学的研究、アフリカ南部の牧畜民に関する人類学的研究、自然と信仰・音に関する研究【所属学会】日本アフリカ学会、生態人類学会、日本葬送文化学会

●主要業績

1. 【論文】「身近な人の死と想いを、わたしたちはどう受容し、生きていくのか」『葬送文化』第24号（2023年、査読無）pp.110-123
2. 【論文】「遺された／生きる者にとっての墓—牧畜民ヒンバの事例から」『国立歴史民俗博物館研究報告』第181集（2014年、査読有）pp.81-109

3. 【論文】「ナミビアの牧畜民ヒンバと土地のかかわり—その歴史と現在」『国立歴史民俗博物館研究報告』第145集（2008年，査読有）pp.145-229
4. 【分担執筆】「第7章 土地と人をつなぐもの—ナミビアの牧畜民ヒンバにとっての墓」田中二郎他編『遊動民（ノマッド）—アフリカの原野に生きる』（明石書店，2004年）pp.439-464
5. 【分担執筆】「第4章 炭焼きとして現代を生きぬく」篠原 徹編『現代民俗誌の地平1. 越境』（2003年，朝倉書店）pp.70-96

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

7 その他

「ナミビアの水産物と食—日本に暮らすわたしたちと，ナミビアの牧畜民と」，立教大学アジア地域研究所『なじま—Accessible Asia—』No.16（2026年3月発行）：pp.8-9

「墓や墓地などを通した人と人のかかわり—今を生きる人びとの実践と，その未来に目を向けて」，立教大学アジア地域研究所『なじま—Accessible Asia—』No.16（2026年3月発行）：p.23

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）

- ① 歴博基幹共同研究「高齢多死社会における生前から死後の移行に関する統合的研究」（2023年4月～2026年3月）
- ② 立教大学アジア地域研究所 特任研究員（2025年7月～）

4 主な展示・資料活動（展示・資料・DBなど）

企画展示「大葬式展（仮）」展示プロジェクト委員（2025年4月～）

5 教育

早稲田大学 非常勤講師（教育学部「文化人類学研究Ⅰ」「文化人類学研究Ⅱ」）

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

今年度は墓や墓地などの変遷とそれらにかかわる人びとの実践を明らかにすべく，調査研究を進めた。具体的には，新潟では寺院墓地の変遷と多様化について，広島や山口では墓地の移転および墓の改装や買い替えまたは墓じまいなどの事例について現地調査および文献資料調査を進めた。また，その一部を『なじま—Accessible Asia—』No.16（立教大学アジア地域研究所，2026年3月）に寄稿した。

若木 重行 WAKAKI Shigeyuki 准教授（2023～）

【学歴】名古屋大学理学部地球惑星科学科（2003年卒業），名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻博士前期過程（2005年修了），名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻博士後期過程（2008年修了）【職歴】北海道大学理学研究院自然史科学部門 博士研究員（2008），独立行政法人海洋研究開発機構 高知コア研究所 技術研究員（2012），国立研究開発法人海洋研究開発機構 高知コア研究所 副主任研究員（2021），名古屋大学宇宙地球環境研究所 客員准教授（2021-），国立研究開発法人海洋研究開発機構 高知コア研究所 招聘主任研究員（2023-2024），大学共同利用機関法人人間文化 研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2023-）【学位】博士（理学）（名古屋大学，2008年取得）【専門分野】同位体地球化学，分析化学，文化財科学【主な研究テーマ】先端的同位体分析を駆使した地球史・人類史の解説，湿式化学分析・質量分析を活用した先端的同位体分析手法の開発，文化財・出土資料の自然科学的分析による材質・技法・産地・年代の研究【所属学会】日本地球化学会，日本文化財科学会，日本地球惑星科学連合，Geochemical Society，Meteoritical Society【研究目的・研究状況】歴史資料を分析していると時折よくわからないデータが出る。ノイズがあれば発見もある。見極めはとても難しい。

●主要業績（研究者になってこれまで行ってきた自身の研究の代表的なもの）

1. 【論文】S. Wakaki, J. Aoki, R. Shimode, K. Suzuki, T. Miyazaki, J. Robberts, H. Vollstaedt, S. Sasaki and Y. Takagai (2022) A part per trillion isotope ratio analysis of $^{90}\text{Sr}/^{88}\text{Sr}$ using energy-filtered thermal ionization mass spectrometry, *Scientific Reports* 12, 1151 (10 pp). (査読あり)

2. 【論文】 S. Wakaki and T. Ishikawa (2018) Isotope analysis of nanogram to sub-nanogram sized Nd samples by total evaporation normalization thermal ionization mass spectrometry, *International Journal of Mass Spectrometry* 424, 40-48. (査読あり)
3. 【論文】 S. Wakaki, H. Obata, H. Tazoe and T. Ishikawa (2017) Precise and accurate analysis of deep and surface seawater Sr stable isotopic composition by double-spike thermal ionization mass spectrometry, *Geochemical Journal* 51, 227-239. (査読あり)

●2025年度の研究教育活動（成果を出す以前の研究・調査途中のものも含む）

一 研究業績（公開，発表，刊行済みのもの）

https://researchmap.jp/shigeyuki_wakaki

二 主な研究教育活動（共同研究，調査，展示，教育等）

1 主な共同研究等参加状況（歴博や機構の運営交付金による共同・連携研究）

① 歴博（基幹・基盤・開発型，国内交流事業）

基盤研究「先端的同位体分析が拓く歴史資料研究の新展開」研究代表者

2 外部資金による研究

科学研究費補助金 基盤研究（B）「先端的同位体分析手法によって読み解く第四紀の海洋Sr循環ダイナミクス」（2024年度-2026年度）研究代表者

科学研究費補助金 挑戦的研究（萌芽）「古代中国の失われた漆芸技法とその復元への挑戦」（2025年度-2027年度）研究代表者

科学研究費補助金 基盤研究（A）「火葬骨のヒドロキシアパタイトのマルチ同位体分析による食性解析」（研究代表者：南雅代，2021年度-2025年度）研究分担者

科学研究費補助金 挑戦的研究（萌芽）「古代の人々はどこから木を伐ってきたのか?」（研究代表者：大山幹成，2024年度-2026年度）研究分担者

科学研究費補助金 基盤研究（C）「中尊寺金色堂の漆芸技法の研究」（研究代表者：岡田文男，2025年度-2027年度）研究分担者

科学研究費補助金 基盤研究（B）「最終氷期以降の北太平洋垂表層・中層水塊における組成・動態の時間変化とその要因」（研究代表者：高柳栄子，2025年度-2028年度）研究分担者

5 教育（総研大シンポ，大学院セミナー担当，大学非常勤講師，学位審査の主査・副査・委員，博物館活動，教育プログラムなど）

第465回 歴博講演会「科学の目で見える歴史の一断片：最近の研究成果から」講師

三 社会活動等

1 館外における各種委員

一般社団法人 日本地球化学会 理事・企画幹事（2023.9-2025.9）

一般社団法人 日本地球化学会 和文誌『地球化学』編集委員（2014.1-）

名古屋大学宇宙地球環境研究所 共同利用・共同研究委員会委員（2025.4-2027.3）

四 活動報告

3 研究・調査プロジェクト報告

本年度も実験室環境の改善を継続し，排気配管をつなげたり，機器の金属露出面に錆止め塗装を行ったりと，地味な現場仕事をこなした。SrやNdなど各種同位体分析の外部利用は，歴史資料系・自然科学系ともに受け入れが増え，学生が出入りすることで実験室が賑やかになってきた。学会参加・発表や資料調査などのうち，外部資金に関連しない研究活動をこの枠で行なった。

鷺頭 桂 WASHIZU Katsura 准教授（2024.4～）

併任：総合研究大学院大学先端学術院選択学術専攻日本歴史研究コース准教授（2025～）

【学歴】早稲田大学教育学部英語英文学科（2001年卒業），東京大学文学部歴史文化学科美術史学専攻（2006年卒業），

東京大学大学院人文社会系研究科美術史学専攻修士課程（2008年修了）

【職歴】福岡市美術館学芸員（2008）、国立文化財機構九州国立博物館研究員（2011）、国立文化財機構九州国立博物館主任研究員（2016）、国立文化財機構東京国立博物館主任研究員（2018）、国立文化財機構文化財防災センター併九州国立博物館主任研究員（2021）、人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（2024）、総合研究大学院大学先端大学院選択学術専攻日本歴史研究コース准教授併任（2025）

【学位】文学修士（東京大学）（2008年取得）【専門分野】日本美術史【主な研究テーマ】日本中近世絵画、やまと絵、南蛮美術

●主要業績

1. 【論文】「並笛図屏風」『国華』1561号, pp.15-19, 査読有, 2025年11月)
2. 【論文】「月次風俗図屏風の光学調査—犬追物図と富士巻狩図を中心に—」(『MUSEUM』706号, pp.11-38, 査読有, 2023年10月)
3. 【論文】「柳橋水車図の成立をめぐる再考察」(『香雪美術館研究紀要』4号, pp.17-34, 2022年3月)
4. 【展示図録】鷺頭桂他編著『新・桃山展—大航海時代の日本美術—九州国立博物館特別展図録, 2016年
5. 【科研】基盤研究(C)「『桃山美術』史観の再構築—中近世移行期における伝統と革新の検証を通して—」25K03686, 2025年4月～2028年3月

●2025年度の研究教育活動

一 研究業績

<https://researchmap.jp/katsurawashizu>

二 主な研究教育活動

1 主な共同研究等参加状況

① 歴博

「欧文資料にみる近世初期日本の国際交流と文化・美術との相関」代表者（2025～2027年度）

「東アジアにおける文化の伝播と地域的展開に関する学際研究—「耕織図」の日韓比較を中心として—」副代表（2025～2027年度）

③ 機構

共創促進研究日本関連在外資料調査研究「外交と日本コレクション—19世紀在外日本資料の世界史的文脈による研究と現地およびオンライン空間における活用」共同研究者（2024～2027年度）

2 外部資金による研究

<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000090590448/>

科学研究費基盤研究(A)「エジプト所在の日本美術品調査」(研究代表者: 日高薫) 研究分担者, 2025～2029年度

科学研究費基盤研究(B)「室町宗教絵画史の構築に向けた総合的研究—地域交流史の観点と逸失作品の復元考察から」(研究代表者: 畑靖紀) 研究分担者, 2025～2029年度

科学研究費基盤研究(C)「『桃山美術』史観の再構築—中近世移行期における伝統と革新の検証を通して—」研究代表者, 2025～2027年度

科学研究費基盤研究(B)「伝来情報の分析による絵巻を中心とした古代・中世やまと絵の復元的研究」(研究代表: 土屋貴裕) 研究分担者, 2024～2028年度

科学研究費基盤研究(A)「源氏文化ポータルを共有・活用した源氏絵の俯瞰的・創発的研究」(研究代表: 稲本万里子) 研究分担者, 2024～2028年度

科学研究費 国際共同研究加速基金(海外連携研究)「美術史からみるドイツ・北欧と日本の皇室外交」(研究代表: 佐藤直樹) 研究分担者, 2023～2027年度

科学研究費基盤研究(B)「16世紀西日本港町の構造と相関—文献・考古学資料の国際・横断的分析による—」(研究代表: 岡美穂子) 研究分担者, 2023～2026年度

科学研究費基盤研究(B)「在外日本美術の保存修復技法の比較調査と国際的な保存活用に向けて」(研究代表: 島谷弘幸) 研究分担者, 2022～2025年度

科学研究費基盤研究(B)「幕末外交と贈答美術品—遣米・遣欧使節団の贈品を中心に」(研究代表: 日高薫) 研究分担者, 2024～2025年度

3 国際交流事業

国際交流事業「日韓共同による民俗研究の新構築」による日韓耕織図（農耕図）の調査研究

5 教育

令和7年度歴史民俗資料館等専門職員研修会講師「分野別演習（美術工芸）」

奈良女子大学文学部非常勤講師（日本の美と芸術）

女子美術大学・女子美術大学短期大学部非常勤講師（博物館展示論）